『日本アジア研究』第 10 号（2013 年 3 月）

『鉄旗陣』と『昭代簫韶』

大塚秀高＊

『鉄旗陣』と『昭代簫韶』はいずれも清代の宮廷で演ぜられた長篇の戯曲であって，ともに『古本戯曲叢刊』第九集に収められている。いずれも宋が全国統一を果たす過程で楊家の諸将（楊家将）が活躍する様相を演ずるもので，『鉄旗陣』が前編，『昭代簫韶』が後編にあたる。『昭代簫韶』が嘉慶帝の意を受け，もっぱら楊家将父子征遼故事を演ずる作品としてその十八年に朱墨套印される以前，両者は緊密に組み合わされたひとつの作品であって『鉄旗陣』とよばれていた。この原『鉄旗陣』の残された前半，楊家将父子征戦南唐故事を演ずる部分が独立したもの，それが現存する『鉄旗陣』である。原『鉄旗陣』の前半にはさらにこれに先行する原型『鉄旗陣』があった。原型『鉄旗陣』の成立は康熙の半ば以降，原『鉄旗陣』の成立は康熙後半から雍正前期とみられる。以後『鉄旗陣』と『昭代簫韶』は上演のたびに時代を反映した修正を受けた。咸豊年間の上演に際しては，京師における西皮、乱弾の流行を受け，一部にそれを取り入れた劇本が作られ，清末の光緒年間には，西太后の意向により全面的に乱弾化された劇本が作られた。
キーワード：『鉄旗陣』、『昭代簫韶』、原『鉄旗陣』、原型『鉄旗陣』、乱弾

まえがき

『鉄旗陣』は『古本戯曲叢刊』第九集に収められる十種の清朝宮廷で上演された連台戯のひとつであって，十五段一百三出（齣に同じ。以下では引用などを除き，『昭代簫韶』など関連する文献における場合も含め，すべて齣と表記する）からなり，清・闕名撰の上海図書館蔵至徳周氏幾礼居伝鈔内府鈔本（以下で他の文本と区別する必要がある場合はこれを九集本『鉄旗陣』とよぶ）で知られる[1]。呉曉鈴に「《古本戯曲叢刊》九集序稿」[2]があり，この『鉄旗陣』についての解説をしている。長いものではないので，まずこれを引き，以後の検討の基礎としたい。

> 《铁旗阵》十五段一百零三出，据上海图书馆所藏至德周氏几礼居传抄清内府抄本影印。清内府抄本今存，藏故宫博物院图书馆，笔墨不精良，当是伶工爨习所用。其书铅黄涂改甚多，而且贴去之处不少，造成印制上的困难。几礼居抄本全据清内府抄本移录，但是整饬过之，我们在影印之前又用原本校勘一过，改正了一些错简。撰者姓名虽然还有待于研求，但是可以断定它是写成于《昭代箫韶》之前。《昭代箫韶》有嘉庆十八年癸酉刊本，则此剧如果不是成

＊おおつか・ひでたか，埼玉大学教養学部教授，中国俗文学

[1]『中国古籍善本書目（集部）』曲類伝奇（中国古籍善本書目編輯委員会編，上海古籍出版社，1996.12）によるなら，『鉄旗陣』の鈔本は『古本戯曲叢刊』第九集に影印されたこの上海図書館蔵至徳周氏幾礼居伝鈔内府鈔本ただひとつということになるのだが，この点については後述したい。

[2]『呉曉鈴集』第五巻（河北教育出版社，2006.1）所収。

于乾隆末，也是成于嘉庆初。剧本内容敷衍宋代杨家将父子征战南唐故事；根据道光间升平署档案所记，当场演出均作十五段，故知现存抄本无缺失，上可与相《盛世鸿图》联贯，下可与《昭代箫韶》衔接，至于故事情节则大体依傍明代纪振伦校阅的《杨家府世代忠勇通俗演义》的前半部内容。按：北京图书馆入藏内府抄本《铁旗阵》残存八段六十二出，其第二段及第十四段与影印所据之本相应，余第二十二段、二十三段、二十九段、三十三段、四十二段及一未标段数之本的文字均见刻本《昭代箫韶》，因知《昭代箫韶》专衍宋辽交兵事乃《铁旗阵》后部之改订。北京大学图书馆入藏内府抄本《天齐庙》十二本正是《铁旗阵》本文，所以改称《天齐庙》者，盖据杨希在天齐庙擂台打死潘豹的关目而然，在第一段第三出；刻本《昭代箫韶》则将此出移为第一本第七出，可以窥知两个本子之间的变化情况。

一　九集本『鉄旗陣』の楊家将父子征戦南唐故事について

九集本『鉄旗陣』の内容について，呉曉鈴は「楊家将父子征戦南唐故事」を敷衍したもので，おおよそ「明代紀振倫校閲的『楊家府世代忠勇通俗演義』的前半部内容」によったものとしている。だがこれは正しくない。『楊家府世代忠勇通俗演義』に楊家将父子の南唐征戦の情節は皆無であり，これと同じく楊家将を主人公とする『北宋演義（北宋志伝通俗演義）』にも楊家将父子の南唐（937-975）征戦の情節は見えないからである（以下では両者をあわせて小説楊家将とよぶ）。ただし『北宋演義』に先立つ『南宋演義（南宋志伝通俗演義）』に，後周（951-960）の世宗（在位 954-959）による後の宋（960-1127）の太祖趙匡胤（在位 960-976）らを率いての南唐親征と，後日の太祖趙匡胤の意を受けた曹彬、潘仁美らによる第二次南唐攻めの情節が見えている（以下ではこれを征戦南唐故事とよぶ）。征戦南唐故事は北漢（951-979）降伏以前の史実にもとづくから，もと北漢の将であった楊業やその子ら楊家の諸将とは本来無縁なものであったが，九集本『鉄旗陣』はそれを太宗（在位 976-997）の時代に移し，強引に楊家の諸将に活躍させたのである。以下はその情節のきわめて簡単な紹介である。

太乙天尊が弟子の任道安を呼び出し，六郎楊景に兵書戦法，七郎楊希に避箭之術を授け，七郎に金華山の呼延赤金，鳳鳴荘の杜玉娥との姻縁を遂げさせるよう指示する（小説楊家将や『昭代簫韶』に明記されない，七郎がその眼力で矢を防ぐ能力を獲得したゆえんが語られ，なおかつ九集本『鉄旗陣』の今後の展開が予めここで示されている）。楊希が天斉廟の擂台で潘豹を打ち殺して自首する。楊令公継業は八郎楊順に螟蛉の子であることを打ち明け，自身と納得した八郎を含むすべての息子とともに出頭する。潘仁美の奏上により太宗は全員の斬首を命ずるが，刑場に駆けつけた徳昭らの奏上により，楊希は刑部監察，継業は免職，兄弟は放免となる。そこへ南唐の使者虬龍が鳥跡篆と鉄胎弓を持ち込み，太宗にその解読とゆずるを掛けるよう求める。刑部監察中の七郎が鉄胎弓を引き折り，比武で虬龍を殺し，七郎に鎗法を授けた王源が鳥跡篆を読む。その不敬な内容に怒った太宗は南唐征戦を命じ，令公が掃唐大元帥に任命される。正副先鋒となった七郎と八郎が界牌関外で方兄弟と戦い，その隙に六郎が界牌関を陥れる。七郎は宿州で陸応高と闘い苦戦する。任道安から姻縁を聞かされた呼延赤金が逃げて来る七郎を待ちう

け，結婚の約束をさせたうえ，追ってきた陸応高を斬首する。七郎は赤金が醜婦なため約束を違えて逃げ出す。七郎が杜玉娥と婚礼を挙げている席に赤金が乗り込み，三人は一夫二婦となる。軍令違反を恐れる七郎は父の陣に戻らず，赤金の天雄寨に身を潜める。臨淮関を護る南唐の宋万が鉄旗陣を敷き，宋軍に挑戦する。令公は予め渡されていた徳昭の手札を六郎に持たせ，禅州の柴王に援軍を求めに行かせる。七郎に代わって正先鋒となった八郎が令公の命を無視して夜襲をかけ，伏兵に捉えられて都に送られることになる。この情報を得た南唐の孫乾相が八郎の許婚で娘の玉英、壮士成搏虎、玉英の侍女明霞と相談し，護送の途中で八郎を奪い返して自身の屋敷に匿う。任道安が柴王のもとに現われ，柴王の妹媚春と六郎の姻事を仄めかして去り，六郎は媚春と南唐平定後結婚することになる。宋万の妻秦氏が副帥となって出陣し，令公はその毒袖箭で負傷する。任道安の薬で回復した令公はその指示に従って戦場を離脱し，霊壁山のふもとで夫を探しに下山してきた赤金、玉娥の二人と闘う。相手が舅と知った二人は寨に逃げ帰る。七郎も援軍を率いて令公を追ってきた呼延賛と闘い，相手の正体を知りやはり寨に戻る。結局一同は霊壁山で会同し，呼延賛の機転で三人は許される。玉娥が五河で秦氏と闘う。二人の鎗はともに任道安の師呂洞賓が降した擘龍で，闘いの最中，任道安に取り上げられる。事情を知らずに鎗を取り戻そうと引き返した赤金が南唐軍に捕われ，これを救出しようとした杜玉娥，二人を救おうとした七郎も相次いで捕われる。六郎が柴王から借りた四援軍を率いて出陣し，護送途中の三人を奪還する。六郎らは七郎ら三人が捕縛されることになった原因を呼延賛のせいにする。令公は南唐軍の宋万の求めに応じて鉄旗陣で戦い，七郎の活躍などもあってこれを打ち破り，臨淮関も陥れる。宋万、秦氏の夫婦は討ち死にする。続いて馬元とその子らが汜水関前に鋼叉陣を敷く。鋼叉陣，引き続いて汜水関を破られた南唐軍は二大王李豹の指示で長江の采石磯を守備するが，宋の水軍がこれを破る。八郎ら四人の内通もあって李豹は戦死し，南唐主李袞は降伏する。

なおより詳しい九集本『鉄旗陣』の情節については別表一「『古本戯曲叢刊』第九集所収『鉄旗陣』情節」を参照されたい。

二 『鉄旗陣』と『昭代簫韶』

九集本『鉄旗陣』が清・闕名の手になる十五段一百三齣からなる鈔本で，底本が上海図書館蔵至徳周氏幾礼居伝鈔内府鈔本であることは既述した。この鈔本は各段を構成する齣が五ないし八の不定数で齣名も四字という，『昭代簫韶』と一見して異なる特徴を持っていた。しかもなぜか最終第十五段の八齣には齣名がなかった。ひるがえって筆者がここでわざわざ『昭代簫韶』に言及したのは，九集本『鉄旗陣』が『昭代簫韶』と同様楊家将物語を演じており，情節からみてその前編という役割を担っていたからである[3]。

[3]『清昇平署志略』（商務印書館，2006.10，原本は国立北平研究院史学研究会，1937）の「第四章 分制」によれば，『鉄旗陣』は道光十五年七月初七日－道光十六年九月十四日、道光二十三年四月初八日－十月十五日、咸豊五年七月初一日－十二月十五日、光緒二十三年四月初一日－十二月十五日の四度，いずれも『昭代簫韶』に先立って上

『中国古籍善本書目（集部）』には著録されないが，『鉄旗陣』にはこの至徳周氏幾礼居伝鈔内府鈔本以外に，呉曉鈴が「内府抄本」とする中国国家図書館所蔵の鈔本があり，その一部が近年影印刊行された[4]（以下ではこれを影印本の書名により昇平署旧蔵残鈔本とよぶ）。この残鈔本は八冊からなり，いずれの表紙にも「鉄旗陣」の文字ならびに段数と「串関」の文字が二行に記された題箋が貼られ，「旧大班」の印が捺されているから，昇平署大班旧蔵の串関とみてよかろう。各冊は六ないし八の齣からなり，「二段」、「八齣」、「十四段」、「廿三段」、「廿九段」、「三十三段」、「四十二段」、「廿二段」が現存している。ちなみに「八齣」とある冊がこの位置に置かれているのは，段と書くべきところを齣と書き誤ったとこの影印本の編者が判断したからであろうが（「八段」とみたということ），後述のごとき理由からその点には同意できない（以下ではこの段をＸ段と表記する）。なおこの串関にはすべての登場人物の名、科白、曲牌、曲詞が記されており，総本と同様，上位の上演関係者が手元に置いたものとみられる。ちなみに九集本『鉄旗陣』は総本であった。

ところでこの『鉄旗陣』の残鈔本であるが，全八冊のうち「二段」と「十四段」の大半とＸ段は九集本『鉄旗陣』と同一の物語，すなわち楊家将父子征戦南唐故事を演じているが，他の五冊は『昭代簫韶』と同一の物語（以下ではこれを「楊家将父子征遼故事」とよぶ）を演じていた。しかも，同じく楊家将父子征戦南唐故事を扱っている冊にあっても，「二段」の大半とＸ段の齣名は二字，「十四段」のそれは四字という相違があり，楊家将父子征遼故事を演ずる残る五冊の齣名はすべて「十四段」と同じ四字であった。では『昭代簫韶』ではそうした点はどうなっていたのか。『古本戯曲叢刊』第九集所収の嘉慶十八年癸酉内府刊朱墨本『昭代簫韶』は全十本二十冊，各本二十四齣からなり，その齣名はすべて七字であった（以下で単に『昭代簫韶』といった場合はこの朱墨套印本を指す）。

既述のごとく，『鉄旗陣』は『昭代簫韶』と同じく楊家将物語を演ずる連台戯であって，九集本『鉄旗陣』は『昭代簫韶』に接続しその前編に相当している。にもかかわらず両者の構成原理は明白に異なっていた。しかし，『昭代簫韶』が七字齣名の十本二百四十齣に整理され朱墨套印される以前にあって両者は一連の楊家将物語であって，あわせて『鉄旗陣』とよばれていたに相違なく，その原『鉄旗陣』から『昭代簫韶』が独立した後に残された部分を修改してなったものが九集本『鉄旗陣』であると思しい。しからば昇平署旧蔵残鈔本『鉄旗陣』こそが原『鉄旗陣』に相違ない。

ひるがえって昇平署旧蔵残鈔本の「四十二段」は『昭代簫韶』の第十本第十六～第二十四齣に相当している。よって原『鉄旗陣』は全四十二段からなっており，後日その第十五段以降が『昭代簫韶』に，それ以前が九集本『鉄旗陣』全十五段になったと推定される。

昇平署旧蔵残鈔本の四字名の齣は，別表二の一ならびに別表二の二に示した

演されている。ちなみに『昭代簫韶』は道光十七年正月十五日－道光十八年九月一日、道光二十四年正月十五日－道光二十五年九月一日、咸豊八年二月十五日－咸豊九年九月一日、光緒二十四年六月十五日－光緒二十六年五月十五日に上演されている。

[4] 中国国家図書館編纂『中国国家図書館蔵清宮昇平署檔案集成』（中華書局，2011.5）第78、79冊所収。

その九集本『鉄旗陣』ならびに『昭代簫韶』との対応状況からみて，両者の共通祖本，すなわち原『鉄旗陣』のものとみてよい。一方，二字名の齣は，情節こそ九集本『鉄旗陣』に類するものもあるが，曲牌や曲詞はほとんど一致せず，後述する『故宮珍本叢刊』[5]所収『鉄旗陣』の題綱、串頭、曲譜、乱弾本戯のいずれにも類するものがない。よってごく少数の残存する齣による判断ではあるが，原『鉄旗陣』以前の，より古い時期の『鉄旗陣』のものとみなせる（以下では先の原『鉄旗陣』と区別するため，原型『鉄旗陣』とよぶことにする）。以上については詳しく後述するが，それに先立ち，九集本『鉄旗陣』の特徴ならびにそれに対する筆者の見解を以下にまとめて記しておくことにしたい。

朱墨套印された『昭代簫韶』とは異なり，九集本『鉄旗陣』に序、凡例、總目などからなる巻首はない。各齣の冒頭に韻目の表示はなく，第一段第一齣冒頭の「新水令」に「双角套曲」とある以外，齣を構成する曲牌には宮調の表示がなされない。本文のみであるから当然抬頭もなされない。その一方，本文天頭に配役が詳細に記されていたりする。以上のすべては九集本『鉄旗陣』が皇帝の御覧に入れるべく制作された安殿本などではなく，昇平署備え付けの総本またはその過録（移録）本に特定の上演時の責任者が配役などを書き込んだもの（またはその過録本）だったことを強く示唆しよう。なお『昭代簫韶』にあった福台、禄台、仙楼といった舞台の指定は九集本『鉄旗陣』にはいっさいみあたらない。よってこれを三層の戯台での上演を目当てに制作されたものとみなすことはできない。三層の戯台での上演を目当てに制作された『昭代簫韶』と同時期ないしそれ以前に成立していたはずの九集本『鉄旗陣』に三層の戯台の影がないなら，それが三層の戯台建造以前に完成していたものを基本的に継承している可能性は高かろう。むろん原『鉄旗陣』のそれはより高いことになる（もちろん原『鉄旗陣』、原型『鉄旗陣』にも福台、禄台。仙楼といった舞台の指定はみられない）。

最後にこれまで論じてきたことをもう一度まとめたい。原『鉄旗陣』の第十五段以降を三層の戯台での上演用に改め朱墨套印したもの，それが全十本二百四十齣からなる『昭代簫韶』であり，原『鉄旗陣』の残った第十四段以前に修改を加えて独立させたもの，それが九集本『鉄旗陣』であった。では原『鉄旗陣』と，それを分割独立させた九集本『鉄旗陣』ならびに『昭代簫韶』の間には，いかなる相違が存在していたのか。以下では節を改めこの問題について論ずることにしたい。

三　原『鉄旗陣』にみる楊家将父子征遼故事

ここで改めて昇平署旧蔵残鈔本『鉄旗陣』串関の四字齣名冊について検討することにしたい。四字齣名の六冊のうち五冊が『昭代簫韶』に対応すること，その齣名が『昭代簫韶』のそれと異なっていることについては既述した。ここで検討したいのは，残る一冊，「十四段」を構成する八齣のうち，六齣は九集本『鉄旗陣』の第十五段に対応する齣がみいだせるが，残る二齣は第十五段どころか九集本『鉄旗陣』のどこにもそれがみいだせないという点である。それもそのはず，この二齣は『昭代簫韶』第一本の第十二、第十三の二齣に対応していたからである。以下に三者の関係を表にして示しておこう。

[5] 故宮博物院編，海南出版社，2000.6。

表一　昇平署旧蔵残鈔本『鉄旗陣』第十四段と『鉄旗陣』・『昭代簫韶』対照表

昇平署旧蔵残鈔本鉄旗陣		九集本鉄旗陣		朱墨套印本昭代簫韶	
14段1齣	攻奪采石	15段2齣	双雄尽忠		
14段2齣	議取東易			1本12齣	如神妙算賛中枢
14段3齣	擒将拠州			1本13齣	振先声龍驤虎賁
14段4齣	喬扮投充	15段3齣	喬装応募		
14段5齣	比武就謀	15段4齣	比武就謀		
14段6齣	彰討宣化	15段5齣	彰討宣化		
14段7齣	克敵安邦	15段6齣	致書剖情		
		15段7齣	計成内応		
14段8齣	受降奏捷	15段8齣	納疑(款)受降		

昇平署旧蔵残鈔本『鉄旗陣』「十四段」の問題の二齣，第二齣「議取東易」と第三齣「擒将拠州」を『昭代簫韶』第一本の第十二、第十三齣に対応すると筆者が断じたゆえんは何か。両者の情節のみならず，曲牌、曲詞、韻目がほぼ一致しているからである。以下に両者を構成する曲牌、韻目をあげ，その点を確認しておきたい。

『昭代簫韶』第一本第十二齣「如神妙算賛中枢」皆来韻
　天下楽前－天下楽後－黒麻序－又一体－玉胞肚
昇平署旧蔵残鈔本『鉄旗陣』第十四段第二齣「議取東易」（皆来韻）
　引－引－黒麻序－前腔－玉胞肚
『昭代簫韶』第一本第十三齣「振先声龍驤虎賁」古風韻（／は換韻箇所）
　西地錦－水底魚児－又一体／粉蝶児－酔春風－迎仙客－紅繡鞋－喜春来－柳青娘－煞尾
昇平署旧蔵残鈔本『鉄旗陣』第十四段第三齣「擒将拠州」（古風韻）
　引－水底魚－前腔／粉蝶児－酔春風－迎仙客－紅繡鞋－喜春来－柳青娘－煞尾

次に考察すべきは，昇平署旧蔵残鈔本『鉄旗陣』「十四段」の第二齣「議取東易」と第三齣「擒将拠州」が，本来それがあるべき位置に置かれていたのかであろう。だがその点を検討するには，先立って『故宮珍本叢刊』所収の『昭代簫韶』の題綱をみておく必要がある。題綱は提綱とも表記されるが，場面ごとに登場人物の出番や上演時間といった全体の流れを記したメモのごときもので，衣裳係や大道具、小道具の係が手元に置いていたものとみられる。題綱に曲牌や曲詞が記載されているわけではないから，これと『昭代簫韶』とを比較対照しようとすることにはそもそも無理があるが，情節の異同の確認程度なら可能である。

『故宮珍本叢刊』は故宮博物院所蔵の四部の珍本に南府ならびに昇平署旧蔵の劇本や檔案などを加えて全七百三十一冊とした一大叢刊であるが，その「清代南府与昇平署劇本与檔案」を構成する「各種題綱」に，『鼎峙春秋』、『森羅彰報』、『昭代簫韶』、『鉄旗陣』の題綱がそれぞれ複数セット収められていた（第

692 冊)。その『昭代簫韶』の題綱の第一（頭）段第七、第八齣の名が，昇平署旧蔵残鈔本『鉄旗陣』の「十四段」と同じく「議取東易」、「擒将拠州」とされていた（別表三「『昭代簫韶』各種文本対照表」を参照されたい）。このことは「議取東易」、「擒将拠州」の二齣が『故宮珍本叢刊』所収の題綱本『昭代簫韶』にあっては第一段の第七、第八齣であったことを意味している。

ところで昇平署旧蔵残鈔本『鉄旗陣』には『昭代簫韶』に対応する五冊と既述の「十四段」以外にも四字名の齣があった。「二段」の第八齣「誆困六郎」がそれである。「二段」の他の二字名の六齣（第一～第六齣）とこの第八齣の間にはあってしかるべき第七齣がなく，情節も接続していない。よってこの第八齣が「二段」のものでないことは明らかである。では第何段に属する齣なのか。

昇平署旧蔵残鈔本『鉄旗陣』の「廿三段」は，他の四字名の齣の段が八齣からなるのと異なり六齣からなっていて，齣名は順に「連擒義釈」、「智服孟良」、「乗隙進讒」、「畳遇顛危」、「冒呈赤鯉」、「智賺驌驦」であった。ここで演ぜられている情節は『昭代簫韶』の第四本第一～第九齣のそれにあたる（別表三を参照されたい)。故宮博物院所蔵の『昭代簫韶』の題綱によれば，題綱本『昭代簫韶』でこれに対応する齣は順に「一擒孟良」、「二擒再釈」、「三擒伏良」、「王強譖景」、「嘉山結盟」、「冒名進魚」、「剖露真情」、「施薬病馬」、「智賺驌驦」の九齣であって，「中途截救」を挟み「誆困六郎」に続くことになっていた。とすれば，昇平署旧蔵残鈔本『鉄旗陣』の「廿三段」からは第七、第八の二齣が失われており，その齣名については「中途截救」と「誆困六郎」であった可能性が高いということになろう。昇平署旧蔵残鈔本『鉄旗陣』の「二段」第八齣「誆困六郎」は本来「廿三段」に配されるべきものだったのである。

ひるがえって先の昇平署旧蔵残鈔本『鉄旗陣』「十四段」の第二齣「議取東易」と第三齣「擒将拠州」であるが，この二齣も「二段」第八齣「誆困六郎」と同様，本来それがあるべき位置に置かれず，たまたま欠けていた「十四段」の第二、第三齣にはめ込まれていたものであったのか。この疑問は次節で述べる首都図書館蔵呉曉鈴旧蔵本『鉄旗陣』により氷解する。

四　原『鉄旗陣』の構成

北京の首都図書館には「十二段」、「十三段」、「十六段」、「十七段」、「二十段」、「二十一段」、「二十六段」、「二十七段」、「二十八段」、「三十七段」、「三十八段」、「三十九段」のあわせて十二段十二冊からなる，昇平署旧蔵残鈔本と同体裁の呉曉鈴旧蔵『鉄旗陣』串関残鈔本が蔵されている。これと既述の昇平署旧蔵残鈔本『鉄旗陣』とは，残存部分がまったく重ならない。後者は影印本しか見ていないが，行款その他の体裁も前者と同一とみなせる。このことは両者が同一の鈔本の離れであることを強く示唆する。それゆえ以後は国家図書館蔵本に，目録[6]では南府旧蔵本とされるこの呉曉鈴旧蔵残鈔本を合わせ，昇平署旧蔵残

[6] 首都図書館編『首都図書館古籍善本書目』（国家図書館出版社，2011.12）には以下のごとく著録されている。なおこの『鉄旗陣』の抄本は『綏中呉氏蔵抄本稿本戯曲叢刊』（学苑出版社，2004）には収められていない。

鉄旗陣 : 三十九段二百四十六齣/（清）佚名撰. --抄本. --京師 : 南府，清中期（1736～1826）. --12 冊. --残本，存 12 冊，缺第 10-11 段串関。本書為第 12、13、16、

鈔本とよぶことにしたい（ただし 2012 年 9 月の時点で修書中であった「二十七段」、「三十九段」の二段については今回調査が及んでいない）。

昇平署旧蔵残鈔本『鉄旗陣』の齣目とその情節については別表二の一「昇平署旧蔵残鈔本『鉄旗陣』と九集本『鉄旗陣』・『昭代簫韶』の関係（附：情節）」ならびに別表三を参照されたいが，首都図書館蔵本の調査をへても，原『鉄旗陣』の第十四段までが『鉄旗陣』であって，第十五段以降第四十二段までが『昭代簫韶』であるとの結論に変わりはない。ただしそれが楊家将父子征戦南唐故事と楊家将父子征遼故事を単純に繋げただけのものではなく，もっと両者の有機的な繋がりに配慮したものであったことが新たにわかった。

すなわち第十四段以前の第十二段第一齣「蕭后打囲」、第七齣「勅議辺章」、第十三段第五齣「奏朝窃柄」、第八齣「大駕親征」も，先の第十四段第二齣「議取東易」、第三齣「擒将拠州」と同様，楊家将父子征遼故事を演じるものだったのである。つまり原『鉄旗陣』の第十二段から第十四段は楊家将父子征戦南唐故事から楊家将父子征遼故事への漸進移行地帯となっていたのである。

原『鉄旗陣』第十二段第一齣の「蕭后打囲」に，耶律休格らに続いて登場した蕭后が矢を放ち狩りをしつつ，南唐が滅びないうちに宋のすきをつく（俺久蓄報雪之心，況宋主一掃南唐，必起伐遼之心，俺今趁他未滅南唐，先発兵攻其不備便了）と述べる場面があるが，これこそ原『鉄旗陣』の編者が，楊家将父子征戦南唐故事と楊家将父子征遼故事を，因果関係を持ったものとして一体化して演じようとした伏線に相違ない。また第十四段第八齣「受降奏捷」は金陵城で楊継業が南唐降伏の式典に臨む場面であるが，その楊継業のセリフに「前者，随解餉官帯来旨意説，聖上要親総六師，征伐遼邦，此時未知起駕否」とあり，なおかつそこにそれを削除する記しが附されていた。これこそ原『鉄旗陣』が楊家将父子征戦南唐故事と楊家将父子征遼故事を有機的に結合させたものであり，その後それを分割する方向での修改がなされたことの証拠であろう。九集本の『鉄旗陣』ならびに『昭代簫韶』は，ひとたびは有機的に結合されたふたつの故事を，再度独立した連台戯とすべく分割修改されたものだったのである。昇平署旧蔵残鈔本『鉄旗陣』「十四段」の第二齣「議取東易」と第三齣「擒将拠州」は，「二段」第八齣の「誆困六郎」とは異なり，ともにそれが原『鉄旗陣』で置かれるべき場所に置かれていたのである。

では原『鉄旗陣』とそれが分割された九集本『鉄旗陣』ならびに『昭代簫韶』の間で劇情にいかなる相違が生じたのか。以下ではこの点について考察してみたい。なお原『鉄旗陣』全般の情節については別表二の一に掲げた要約を参照されたい（ただし別表一に記した九集本『鉄旗陣』の情節の要約とこの要約とでは遺憾ながら精粗のレベルが異なっている。大きな相違については遺漏なきよう心がけたが，細かい相違についてはそれが保し難いことを予めここでお断りしておく）。

五　原『鉄旗陣』の情節

原『鉄旗陣』の楊家将父子征戦南唐故事の現存部分は，第十二段から第十四段にいたる二十四齣中上記の楊家将父子征遼故事部分を除いた十八齣であっ

17、20、21、26-28、37-39 段的串関。書名頁題“串関”。鈐“旧大班”墨印．--毛装：呉曉鈴贈書　(己)/304

て，長江渡河作戦を中心とする部分である。よって九集本『鉄旗陣』との比較も，第十二段第八齣「水操戦艘」以降に限ることにしたい。この部分は九集本『鉄旗陣』全十五段中唯一齣名のない第十五段に相当する。したがって，九集本でもっとも変更された，あるいはまったく新たな構想で書き直された部分であって，曲詞などはとりあえず完成にこぎつけたが，齣名決定までにはいたらなかった段，それが九集本の第十五段ではなかったかとの予測が立てられる。

九集本『鉄旗陣』の第十五段は，第十四段以前が，七郎楊希とその二人の妻，呼延赤金と杜玉娥を中心とする楊家の諸将が南唐軍の立て籠もる臨淮関、汜水関といった関所を抜き徐々に金陵に逼ると要約される部分であるのに対し，先に南唐軍の宋万に捕らえられ，金陵への護送中に今は南唐の宰相となっている孫乾相の指示により，その娘で許婚の玉英らに助けられ匿われていた八郎楊順が，南唐軍の募兵に乗じて仕官し，宋軍に内通して金陵を開放するというものであって，趣向も主人公も異なっていた。宋軍の長江渡河作戦の次第に触れる齣はわずかに二齣で，第一齣で南唐二大王李豹の命により呂燦ら四将が采石磯の守備についたことが演ぜられ，第二齣で六郎楊景が柴王から拝借した（第十一段第一齣）鎮海軍の二将が先陣を切って采石磯の崖を登るが，待ち受けていた守備軍に矢を射掛けられて死に，霊となって「長潮」を起こし，水面を上昇させた龍王とともに宋軍を援けるとされるに過ぎない。かくて継業らは采石磯を奪取し，渡河作戦は成功裏に終了するというのが九集本なのであるが，あまりに唐突な長江渡河作戦の始まりであり，楊家将父子征戦南唐故事のクライマックスとしてはいかにも物足りない（ちなみに先の「長潮」は有名な銭塘江の逆流と同じものであろう）。

これに対する原『鉄旗陣』の長江渡河作戦は，采石磯での闘いの情節こそ同一であり，曲牌、曲詞も一致するが，それ以前の部分が格段に丁寧に演ぜられている。九集本『鉄旗陣』はその部分を丸ごと省いたのである。以下に原『鉄旗陣』の長江渡河作戦の情節を挙げておこう。

南唐水軍都督趙凱が登場し，水軍を訓練する（第十二段第八齣）。健歩軍、火炮軍、鎮海軍、蓬頭軍がそれぞれの大将と登場。揚州水軍虞候樊若水が降伏し，長江を渡る船が手に入ったので祭江開船すると述べる。楊業らによる祭江開船。趙凱が三十里の水寨で対岸を守っているとの高君保の知らせ。夜に漁人に化けて敵情を探ることにする（第十三段第一齣）。漁郎人に化けた楊貴、赤金，漁婆に化けた高君保、玉娥が唐軍のスパイ江通行と江中でであい，唐の陣営に連れ込まれ，宋軍の水寨につき尋問される。赤金と趙凱の滑稽なやりとり。魏の曹操軍のごとき水寨（第二齣）。趙凱と継業との水軍による闘い。継業は敗れる（第三齣）。呼延賛が継業の敗戦を知り，叉陣の時のお返しにいやみをいう。呼延賛は夜襲策を強要し，継業親子に拒否されると鎮海軍を差し向ける。一方趙凱は江通行に再度偵察を命ずる。双方が双方の寨を騒がし帰還中にぶつかりひと騒ぎ（第四齣）。趙凱の寨攻略を相談する宋軍陣営。六郎が火攻めを提案する。引火物を載せて突入するのは高君保と楊貴それぞれの夫婦。趙凱は以前宋軍の情報をくれた漁人と思い，うかつにも陣中に引きいれる。中営から火が起こり南唐の水寨は焼け落ちる（第六齣）。趙凱は陸に上がって逃げ出すが，継業，続いて六郎に待ち伏せされて射殺され，他の者も殺される（第七齣）。

かくしていよいよ采石磯の戦い（第十四段第一齣）となるのであるから，唐突感はなかった。ではなぜこの部分が九集本『鉄旗陣』で削除されることになったのか。この部分が『三国志演義』の赤壁の戦いをモデルとしたものであることは誰の目にも明らかであろう。おそらくそれがこの部分が原『鉄旗陣』から省かれた原因であろう。

原『鉄旗陣』を割裂し九集本『鉄旗陣』と『昭代簫韶』とする際に，第十二段から第十四段にかけて散在していた楊家将父子征遼故事部分については第十五段以降のしかるべき場所に移され，赤壁の戦いをモデルにしたことが明らかな長江渡河作戦部分については削除された。だが本来全十四段からなっていた原『鉄旗陣』の楊家将父子征戦南唐故事から合わせて一段以上を省いたわけであるから，九集本『鉄旗陣』は全十三段であってもおかしくなかったはずである。しかし現実には全十五段となっている。これはなぜか。按ずるに原『鉄旗陣』は各段すべて八齣からなっていたが，九集本では情節のまとまりを重視し，五齣、六齣からなる段の存在も許容しているからであろう（原『鉄旗陣』以前の『鉄旗陣』においては，九集本と同様，各段の齣数が八以下の不定数だった可能性もある）。九集本全十五段の齣数は百三であった。原『鉄旗陣』の第十四段以前がすべて八齣からなっていたと仮定すればその齣数は百十二のはずである。これから長江渡河作戦部分と楊家将父子征遼故事の先行部分を削除すれば，百三前後の数になるはずである。しからば九集本『鉄旗陣』は，上述の独立に伴う措置を除けば，原『鉄旗陣』の楊家将父子征戦南唐故事をほぼそのまま継承していたと考えることができるのではあるまいか。ちなみに長江渡河作戦部分が削除された理由であるが，それが陳腐であからさまな剽窃であったからではあるが，『三国志演義』を連台戯とした『鼎峙春秋』の成立がその影を落としていたとも考えられる（待攷）。

ひるがえって原『鉄旗陣』の後半，楊家将父子征遼故事部分から『昭代簫韶』への修改についてであるが，別表二の一に示した情節，別表二の一ならびに二の二「昇平署旧蔵残鈔本『鉄旗陣』と九集本『鉄旗陣』・『昭代簫韶』の関係」に示した齣の対応状況，別表四「九集本『鉄旗陣』・『昭代簫韶』と昇平署旧蔵残鈔本『鉄旗陣』対照表」に示した具体的な曲牌と曲詞の対応状況から明らかなように，一部少数の新設された齣を除き，後者は前者の情節を基本的に継承しているとみて差し支えなさそうである。

その具体的な状況であるが，原『鉄旗陣』の第十五、第十八、第十九、第二十四、第二十五、第三十～第三十二、第三十四～第三十六、第四十、第四十一の十三段が現存せず，第二十七、第三十九の二段が修書中で調査不能だったため明確には述べがたいが，原『鉄旗陣』の第十五段が『昭代簫韶』の第一段前半から後半に，第十八、第十九段が第二段の後半から第三段にかけて，第二十四、第二十五段が第四～第五段にかけて，第二十七段が第五段のなかばに，第三十～第三十二段が第六段後半から第七段前半に，第三十四～第三十六段が第七段から第八段に，第三十九～第四十一段が第九段後半から第十段に相当したであろうと推察されるうえ，分離あるいは統合された齣も存在したであろうから，まったくの新増齣はごく少数と思しい。とはいえ情節がほぼ同一であっても曲牌の数や順序、曲詞に変更が加えられている例は枚挙に暇がない（事例の詳細については上記の別表四を参照されたい）。ちなみに『昭代簫韶』で省か

れた齣であるが，残存する部分でみる限り，原『鉄旗陣』の第二十一段第八齣「新帥督戦」、第二十八段第六齣「天威駭遼」の二齣のみであるから，おそらく全体でも二桁には届くまい。

六　原型『鉄旗陣』にみる楊家将父子征戦南唐故事

前節では原『鉄旗陣』から九集本『鉄旗陣』ならびに『昭代簫韶』にいたる修改の状況をみたが，本節では原型『鉄旗陣』から原『鉄旗陣』（さらには九集本『鉄旗陣』）にいたる楊家将父子征戦南唐故事の情節の変遷について論じたい。

既述のごとく，昇平署旧蔵残鈔本『鉄旗陣』には二字名の齣，すなわち原型『鉄旗陣』が混在していた。X 段の八齣と「二段」の第一～第六の六齣がそれである。以下に X 段、「二段」の順にその情節を紹介しておく。

禅州の柴王が楊景の求めに応じ，陳琳、柴幹、景亮、羌彪に火砲軍、蓬頭軍、健歩軍、鎮海軍を率いて出陣させる（第一齣）。南唐の李袞は郭良玉に指示し美女を集めるが，集まらない（第二齣）。南唐の宰相孫乾相は宋軍に内通しようと考え，楊順、成搏虎に投軍応武させ，娘の玉英とその侍女明霞にも美女進内に応じさせるが，その身を案じ，郭良玉に二人の保護を依頼する。郭良玉は二女を皇后婁氏に預けることを請合う（第三齣）。李豹の命で南唐の五教授，雷鳴振、楊福通、関漢英、何海洋、富宥亨が将兵を募集する。楊虎、成順と変名した楊、成の二人がやってきて招軍旗を抜き，二教授と立ち合ってこれを打ち負かす（第四齣）。玉英、明霞が婁氏の庇護を受ける（第五齣）。楊、成の二人が五営総鎮の黄定辺、姚思明と立ち合ってこれを殺す。李豹は二人を罰せず総鎮にしようと考える（第六齣）。二人が総鎮となる（第七齣）。趙凱の部下の拒海蛟周洪らが宋軍の進攻に備えて水軍の訓練をする（第八齣）。－以上 X 段

李豹が楊、成の二人を呼び寄せ，兄李袞に取って代わろうとする野望に協力するよう求める（第一齣）。女楽教師の李歪纏と賈老実がふざけているところへ郭良玉が現われ，教楽の遅れを指摘する。そこへ李袞と婁氏が現われ，婁氏が李袞に苦言を呈する（第二齣）。孫乾相と楊、成の二人が夜ひそかに宋軍への内通の打ち合わせをする（第三齣）。楊希の二人の嫁赤金と玉娥の，楊希を暗箭で落馬させた秦氏と闘いたいとの求めを継業が許す（第四齣）。（計略合戦のすえ継業を破った）宋万と秦氏のもとへ赤金と玉娥がやってきて闘いを挑む。秦氏は出陣する（第五齣）。赤金と玉娥が秦氏と交互に闘うが勝負がつかず，日がくれ秦氏は陣営に戻る（第六齣）。－以上「二段」

原『鉄旗陣』の楊家将父子征戦南唐故事部分は第十一段までが失われているが，原型『鉄旗陣』の X 段第二齣以降と「第二段」第三齣以前は幸い原『鉄旗陣』の第十四段に対応しており，なおかつ X 段は「二段」にスムーズに接続している。しからば X 段を「二段」と離れた「八段」とすべきではあるまい。だが X 段を第一段とみることはできまい。X 段は楊家将父子征戦南唐故事の終末近くの段でなければならないからである。しからば「二段」は「十二段」の誤りであって，X 段はその前の「十一段」であったとみるのが妥当なのではあるまいか。ちなみに X 段第一齣「助兵」は九集本『鉄旗陣』では第十一段第二齣

の「楊景閲兵」にあたる。だが第二齣「覓艶」以下は九集本の第十一段第三齣以下にではなく，第十五段の第三、第四齣に対応しており，「二段」の後半第四齣以降も九集本『鉄旗陣』の第七段から第九段に対応するとみなせるから，原型『鉄旗陣』から原『鉄旗陣』への修改は相当大幅な書き替え、組み替えをともなうものであったとみてよかろう（なお九集本『鉄旗陣』の情節については別表一を参照されたい）。

たとえば玉英、明霞の二人は原型『鉄旗陣』では宮女として宮中に送り込まれることになっているのだが，原『鉄旗陣』でも九集本『鉄旗陣』でも男装して夫ともども郷勇に応ずるとなっていた。さらに原型『鉄旗陣』では南唐当主李袞の弟李豹が兄に異心を持っていて，その野望を達成するために楊順、成搏虎の二人を手なずけようとするとなっている。だがそうした情節は原『鉄旗陣』以下にはみられない。言い換えるなら，原『鉄旗陣』は九集本『鉄旗陣』と近い関係にあるが，原型『鉄旗陣』はそれとは遠い関係にあるということになろう。このことは原『鉄旗陣』が原型『鉄旗陣』に遅れて新作または修改されたものであり，それを再度修改したものが九集本『鉄旗陣』であることを物語ろう。これが昇平署旧蔵残鈔本『鉄旗陣』の二字名の齣を原型『鉄旗陣』のものとしたゆえんである。

とはいえ一部ではあるが両者の対応する齣の間には曲牌や韻目を中心に明らかな継承関係がみとめられる。ただ両者の情節の相違を反映してか，その場合でも曲詞の一致率は低い。以下にその具体的な例として，両者（ただし佚失している原『鉄旗陣』にかえ九集本『鉄旗陣』を比較の対象とするから，正しくは原型『鉄旗陣』と九集本『鉄旗陣』の継承関係というべきであろう）の曲牌の配列が類似し韻目が一致する齣を例としてあげておく。

九集本『鉄旗陣』第十一段第二齣「楊景閲兵」（寒山韻）
　点絳唇－新水令－駐馬聴－沈酔東風－雁児落－得勝令－七弟兄－梅花酒
昇平署旧蔵残鈔本『鉄旗陣』X 段第一齣「助兵」（寒山韻）
　新水令－駐馬聴－沈酔東風－雁児落－得勝令－七弟兄－梅花酒

もっとも修改は原型『鉄旗陣』と原『鉄旗陣』の間でなされただけではなく，既述のごとく原『鉄旗陣』と九集本『鉄旗陣』の間でも同様になされていた。以下に原『鉄旗陣』と九集本『鉄旗陣』の間でなされた曲牌の加除の例もあわせてあげておこう。

九集本『鉄旗陣』第十五段第三齣（魚模韻）
　引－引－尾犯序－好事近－撲燈蛾－尾声
昇平署旧蔵残鈔本『鉄旗陣』第十四段第四齣「喬扮投充」（魚模韻）
　引－尾犯序－引－好事近－前腔－撲燈蛾－前腔－尾声

こうした例は，先に述べた楊家将父子征戦南唐故事と楊家将父子征遼故事の漸進地帯に目立つ。たとえば九集本の第十四段第五齣「喬粧賺関」は原『鉄旗陣』第十二段第五齣「喬粧賺関」に，九集本の第十五段第四、第八齣（ともに齣名はない）はそれぞれ原『鉄旗陣』第十四段の第五齣「比武就謀」、第八齣

「受降奏捷」に対応するが，曲牌はいずれも九集本より原『鉄旗陣』のほうが多い。

最後に，原『鉄旗陣』と九集本『鉄旗陣』の先後関係を示すものとして，九集本『鉄旗陣』第十五段第六、第七齣と，これに対応する原『鉄旗陣』第十四段第七齣「克敵安邦」の曲牌を以下にあげておく（ちなみにこの例では同一曲牌の曲詞はほぼ同一である）。

九集本『鉄旗陣』第十五段第六齣
　　引
九集本『鉄旗陣』第十五段第七齣
　　一枝花－九転貨郎児－三転－四転－六転－九転－煞尾
昇平署旧蔵残鈔本『鉄旗陣』第十四段第七齣「克敵安邦」
　　引－一枝花－九転貨郎児－二転貨郎児－三転貨郎児－四転貨郎児－五転貨郎児－六転貨郎児－七転貨郎児－八転貨郎児－九転貨郎児－煞尾

これにより九集本『鉄旗陣』の第十五段第六、第七齣が昇平署旧蔵残鈔本『鉄旗陣』の第十四段第七齣「克敵安邦」を割裂し，九転、二転、三転、四転、五転、六転、七転、八転、九転と続く貨郎児の二転、五転、七転、八転を省いたものであることが明らかとなろう。〇転貨郎児の〇にあたる数字は連続していなければならないからである。

七　題綱、串頭からみた『鉄旗陣』

既述の『故宮珍本叢刊』は，『昭代簫韶』と同様，『鉄旗陣』についても複数セットの題綱を収めていた(692 冊)。このうち九集本『鉄旗陣』と同様の，六または八の齣を収める全十五の段からなるグループ[7]（以下では第二グループとよぶ）については，九集本『鉄旗陣』以後に書かれたことが明らかである。その第八段に「咸豊六年八月廿七日」，第九段に「咸豊六年九月十一日」，第十二段に「六年十二月二十五日」（影印の不備で一部が見えない）とあるからである。したがって第二グループの題綱は咸豊時期の『鉄旗陣』のものとみなしてよかろう[8]。問題は第二グループの半数の三ないし四齣を一本とするグループ（以下では第一グループとよぶ）の題綱の位置づけである。

ひるがえって連台戯の齣名であるが，当初二字であったものがその後四字と

---

7 九集本『鉄旗陣』は第三段のみ奇数の五齣からなるが，現存する『鉄旗陣』の題綱はすべてこの段を六齣としている。九集本が，それ以前は六齣からなっていた第三段の第五、第六の二齣を統合したか，逆に九集本以後に偶数齣の段とすべく分割されたかのいずれかであろうが，両者の韻目が同一であることに鑑み，後者とみたい。ちなみに題綱本では九集本第三段第二十葉裏の最後の行，「健勇健将引楊景上，唱」以下が第六齣とされている。

8 王芷章編の『清昇平署志略』第四章「分制」によれば，『鉄旗陣』は道光十五年、二十三年、咸豊五年、光緒二十三年の四度上演されたことになっており，咸豊六年の上演記録はみあたらない（ちなみに咸豊五年の上演については「七月初一日演起，十二月十五日演至十一段中輟」となっている）。ここでは『清昇平署志略』の「咸豊五年」が「咸豊六年」の誤りである可能性を指摘しておきたい。なお下記の第一グループの頭本にも「咸豊六年九月□」の文言がみえるものがある。

なり，印本の時点でより雅な七字句とされたと思しい。しからば齣によって構成される連台戯の基本単位は本来段だったのか本だったのか，またそこに含まれる齣の数はどのように変遷したのか。以下ではこの点について検討したい。

概していうなら，段は八を中心とした偶数の齣からなり，本の大半は四以下不定の齣からなっている。既述の『昭代簫韶』の第二グループ、『鉄旗陣』の第二グループはいずれも段からなっており，『昭代簫韶』の第一グループ、『鉄旗陣』の第一グループは本からなっていた（それがグループ分けしたゆえんである）。両者の比較では，段の齣の数が本のそれより多いが，『昭代簫韶』の朱墨套印本ごとく一本二十四齣からなるものもあり，両者の用法に差異があったとは思えない。

ここで改めて楊家将父子征戦南唐故事を演ずる連台戯（『鉄旗陣』）の成長過程について，判明している事実をまとめておきたい。

『鉄旗陣』には次にあげる三段階の文本があった。

①・昇平署旧蔵残鈔本『鉄旗陣』の二字名齣の串関により推知される原型『鉄旗陣』

『鉄旗陣』同様楊家将父子征戦南唐故事を演じていたが，情節の細部はこれと相当異なるもの。構成単位は段。

②・昇平署旧蔵残鈔本『鉄旗陣』の四字名齣の串関から推知される原『鉄旗陣』

①を別行していた楊家将父子征遼故事と一体化して演じたもの。構成単位は段。

③・九集本『鉄旗陣』

②を楊家将父子征遼故事部分から分離し，長江渡河作戦部分を削除するなどしたもの。構成単位は段。

以下にこれに若干の補足をしておく。

『鉄旗陣』の第一グループの題綱には齣名の記載がないが，第二グループの題綱の第二段、第七～第十段、第十二～第十五（末）段にはそれがあり，第二段の第三、第五の二齣を除く齣名と，齣分けのすべてが③と一致する（ただし③の第十五段には齣名がない）。よって第二グループの題綱本と③九集本の関係が密接なことは明らかである。

『故宮珍本叢刊』は，連台戯の題綱のみならず串頭も収めている（695-696冊）。『故宮珍本叢刊』所収の『鉄旗陣』の串頭も，題綱と同様二グループに分けられる。題綱の第二グループと同様段を構成単位とするものと，第一グループと同様本を構成単位とするものがそれである。後者の数は少なく，「十四本一出」、「八本一出」の二齣にとどまるが，その情節は③の九集本と甚だしく異なっている。「十四本一出」は最後に呼延赤金が標で陸応魁を殺すことになっており，九集本の第八段第五～第八齣を一齣にまとめたものとみなせる。第五段第一齣に相当すると思われる「八本一出」は，南唐軍の宋万と秦氏が陣を敷く場面に相違ないのだが，その陣が八門金鎖陣とされるのみならず（ちなみに金鎖陣は『昭代簫韶』にみえる），この両人が九集本ではまだ登場していない呼延賛、杜玉娥と闘うことになっている（第一グループの題綱第八本第一齣は対応する第二グループ第五段第一齣の題綱と同じであって，この串頭とは異なる）。「本」を構成単位とする第Ｉグループの串頭から推知される『鉄旗陣』には，「段」を構成単位とするものに比し，九集本『鉄旗陣』から遠いものが存

在する可能性があるかもしれない。ちなみに串頭とは齣ごとにすべての登場人物の入退場ならびに白、唱の有無などを記したものであって，題綱に比し舞台で演ぜられる情節の理解が容易なものであった。

八　曲譜からみた『昭代簫韶』刊行以後の『鉄旗陣』と『昭代簫韶』

『故宮珍本叢刊』には「崑弋本戯曲譜」(687-689 冊)も収められており，その 687 冊に南府旧蔵の『鉄旗陣』の曲譜，688 冊に南府及び昇平署旧蔵の『昭代簫韶』の曲譜が収められている。このうち『鉄旗陣』の曲譜は残本といってよいもので，第一段第一齣～第二段第八齣、第九段第四～第六齣、第十二段第一～第六齣，第六段と誤写する第十五段第二～第八齣のみ現存するに過ぎない。一方『昭代簫韶』の曲譜は，各齣を構成するすべての曲牌の曲詞を工尺譜つきで収めており，九集本との比較が可能な有用な資料である（残存状況については別表三を参照されたい)。『鉄旗陣』の曲譜は『昭代簫韶』のそれに比し簡略であるうえ残闕が甚だしいが，これを九集本『鉄旗陣』と比較した結果，いくつかの点が判明した（なお別表五「『鉄旗陣』各種文本対照表」を参照されたい)。

第一は，この曲譜は九集本『鉄旗陣』の曲譜といってもよいものであり，原『鉄旗陣』のそれではないという点である。この曲譜（以下では曲譜本『鉄旗陣』とよぶ）の第十五段（前述のごとく第六段と誤写する）第七齣の曲牌は，順に一枝花、九転、三転、四転、六転、九転の貨郎児ならびに煞尾となっていた。第二は，にもかかわらずこの曲譜には九集本『鉄旗陣』にあった曲牌のいくつかが見えないという点である。第一段第八齣の「四辺静」，第二段第七齣の「烏衣啼」がそれである。これにより曲譜本『鉄旗陣』が九集本『鉄旗陣』の曲牌の一部を削除してなったものであることがわかる。第三は，曲譜本『鉄旗陣』(の残された齣）のおよそ三分の一（第一段の第一、第四、第六齣，第二段の第五、第六齣，第十二の段第一～第三齣，第十五段の第五、第六齣）が「弋腔」の文字のみで，曲牌、曲詞がまったく記されていないという点である。これは曲譜本『鉄旗陣』が崑弋混淆の劇本であることを端的に示している。当該の齣の多くには一曲を数人が「仝唱」ないしリレーで「唱」する場面が見られる。

既述のごとく『故宮珍本叢刊』の「崑弋本戯曲譜」には『昭代簫韶』の曲譜も二セット収められており，それぞれ南府及び昇平署旧蔵の曲譜とされている。これらが朱墨套印本以後のものであることは，曲譜の第十本第六、第十齣を朱墨套印本の当該齣と比較してみれば一目瞭然である。朱墨套印本の場合，この二齣の曲牌の配列は以下のようになっている（筆者において「又一体」の実態を括弧書きした。なお「鵴」の字はいずれの曲譜においても「氵＋束＋鳥」となっている)。

第十本第六齣　小桃紅－双鸂鶒－又一体（双鸂鶒）－慶餘
第十本第十齣　琥珀貓児墜－又一体（琥珀貓児墜）

これに対し，『昭代簫韶』の曲譜では以下のようになっている。

第十本第六齣　小桃紅－又一体（双鸂鶒）－慶餘

第十本第十齣　琥珀貓児墜－双鸂鶒－又一体（琥珀貓児墜）

これは『昭代簫韶』の曲譜が第六齣の「双鸂鶒」を第十齣の「又一体（琥珀貓児墜）」の前に移したが，ふたつの「又一体」を本来の曲牌名での表示に戻さなかったために生じた齟齬に相違ない。『昭代簫韶』の曲譜も朱墨套印本以後のものに相違ない。では両者はいつごろのものなのか。

『昭代簫韶』の曲譜二セットの第一（頭）本はいずれも朱墨套印本の第一本第一、第二齣を欠き，第三齣を第一齣とする（以下順にずれる）。他の九本が一本二十四齣であるにもかかわらず，頭本だけが二十二齣なのは不自然である。この二齣の上演には福台が必要だったし，情節にも関わらない。よって後日の上演に際しこの二齣を省き，第三齣以降を繰り上げたとみるべきであろう。

さらに二セットの曲譜はともに第一本第九齣の曲牌を，絳都春序－画眉序－又一体－三段子－（楊継業唱）西皮倒板－（蕭綽里特唱）西皮倒板－双声子－（楊継業唱）乱弾－帰朝歓－（楊継業仝唱）乱弾とする（ただし昇平署の曲譜は西皮倒板、乱弾の曲詞を欠く）。朱墨套印本のこれに対応する第一本第十一齣の曲牌は，絳都春序－画眉序－又一体－三段子－双声子－帰朝歓－慶餘であった。以下に南府旧蔵の曲譜の当該部分を引いておく。

【三段子（略）】楊継業唱西皮倒板「両軍対塁旌旗繞。遼将竟敢逞英豪。今朝遇俺天兵到。殺的你屍横遍野望風逃。」蕭綽里特唱西皮倒板「楊継業不必逞英豪。郡馬爺善戦姓名標。万人敵威名誰不曉。殺得爾全軍覆没報功労。」楊希仝唱【双声子（略）】楊継業唱乱弾「神威一陣畎槍埽。全憑俺神鋒定宋九環宝刀。」蕭達蘭仝唱【帰朝歓（略）】楊継業仝唱乱弾「坐鎮雄関威風浩。震赫遼邦姓名高。五万強兵一陣埽。紅旗捷報奏当朝。」仝下。

しからば『昭代簫韶』の曲譜は西皮倒板や乱弾が京師北京で流行ないし流行の兆しをみせ始めた時期の上演の際に新たに作成されたものとみてよかろう[9]。では結局のところ上記の『昭代簫韶』ならびに『鉄旗陣』の曲譜はいつごろの『昭代簫韶』と『鉄旗陣』の姿を反映するものなのであろうか。

九　ふたつのグループの題綱が示すもの－咸豊本と光緒本

『清昇平署志略』は『鉄旗陣』の光緒二十三年の上演につき，「四月初一日演起十二月十五日終場（此次改段為本，亦係翻成皮簧演唱，毎本四齣，僅及旧作九段而止）」と述べ，『昭代簫韶』の光緒二十四年の上演につき，「六月十五日演起二十六年五月十五日演至三十九段中輟（此次係翻成皮簧演唱，尚有四十本排而未演，即行西幸，故未能終場。）」と述べる。ここまで『昭代簫韶』ならびに『鉄旗陣』の一段八齣を基本とする第二グループの題綱については述べてきたが，一本四齣を基本とする第一グループの題綱については，それがいつご

[9]『俗文学叢刊』「075 戯劇：崑曲」には『昭代簫韶』に関わる「昭代簫韶十五段　抄本」、「欽斬四悪金星　抄本」、「欽斬四悪寇準軍士　抄本」、「問罪誅奸寇準　抄本」、「昭代簫韶諸角脚本(一)　抄本」、「昭代簫韶諸角脚本(二)　抄本」、「昭代簫韶柴幹　抄本」、「昭代簫韶　抄本」が収められている。それらによれば，『昭代簫韶』の第十一本第二齣、第十三本第三齣にも「揺板西皮」が使われている。

ろのものか論じてこなかった。

『清昇平署志略』によるなら，『鉄旗陣』の光緒二十三年における修改は，形式面においては段を本に改め，一本を四齣とするものであり，音楽面においては皮簧による演唱に替えるというものであったらしいが，その作業は旧作の九段までにしか及ばなかったといい，『昭代簫韶』の光緒二十四年における修改も『鉄旗陣』の場合と同様皮簧に替えるものであったが，第四十本が上演される以前に中断を余儀なくされたという。ひるがえって『鉄旗陣』の第一グループの題綱であるが，九集本の第九段（正確には第十段第一齣）までに相当する第十六本までしか残っていないし，『昭代簫韶』の第一グループの題綱も第三十九本第一齣までしか残っていない。しからば『鉄旗陣』、『昭代簫韶』の第一グループの題綱は，西太后の命を受けた光緒末年における連台戯の皮簧への改変作業の様相を反映するものだったに相違なかろう[10]。

そもそも『故宮珍本叢刊』の「清代南府与昇平署劇本与檔案」には「乱弾本戯」の部があり，その 680～681 冊には『鉄旗陣』の，683～684 冊には『昭代簫韶』の，西太后の命により崑弋本から改変されたと思しき乱弾本が影印して収められている。『鉄旗陣』は十六本の第三齣「赤金被擒」まで，『昭代簫韶』は三十九本第一齣「破金鎖陣」までであり，『鉄旗陣』ならびに『昭代簫韶』の第一グループの題綱の残存状況と符節を合している。なお『昭代簫韶』には，三十九本に続き，本数附記の「昭代簫韶一出總本　第一出 攝九環鋒」が存在している。これは「破金鎖陣」に続く四十本に相違ない。おそらく西太后の蒙塵の混乱により，本数を記載されるに至らなかったのであろう。

ひるがえって『鉄旗陣』と『昭代簫韶』について，「乱弾本戯」と「崑弋本戯曲譜」を比較すると，いくつかの相違に気づく。もとづく音楽が異なる以上，曲牌も韻字も変わり，曲詞も変わらざるをえなくなる。情節に変更が施される

---

[10] 朱家溍、丁汝芹著『清代内廷演劇始末考』（中国書店，2007.1）の光緒二十四年の項に『恩賞日記檔』から「五月初六日　王得祥伝旨，着本署排『昭代簫韶』，俱改乱弾曲白，本署人数不敷用，着外学上角。再不敷用，着本宮上角」を引き，周明泰の「『昭代簫韶』之三種脚本」（『劇学月刊』第三巻第一、二期所収，1934 年，筆者未見）を踏まえた按語が附されており，そのなかで「『昭代簫韶』，雖然是演楊家将故事，但情節人物和通行大路的楊家将不太一様，改成西皮二簧以後也只在宮中演唱，并不等同外面戯班所演西皮二簧楊家将戯。下面挙例説明其中有些情節尽管不同，而唱法完全不一様，劇中人名也不尽相同」として，『昭代簫韶』総本の第三十四本第四齣「桂英探保」、第三十五本第一齣「木寨招親」、第二齣「焚寨賺降」、第三十六本第一齣「轅門斬子」、第二齣「桂英闖帳」を挙げている。これらは第三十四本第一齣の「桂英探保」を第四齣と誤る以外，本数、齣数とも『昭代簫韶』第一グループの題綱のそれに一致している。また顔全毅『清代京劇文学史』（北京出版社，2005.5）の第三編第五章第三節「宮廷演劇対京劇文学的影響」は上記の「轅門斬子」につき，やはり周明泰の「『昭代簫韶』之三種脚本」を引きつつ，「像流行版的《轅門斬子》本従梆子戯翻演，高潮系楊六郎拒絶母親及衆将求情時的一大段西皮唱段。而宮廷《昭代簫韶》第三十六本第一出《轅門斬子》，楊六郎一出場就是一大段西皮正段（即後来的慢板）唱段：“欽奉聖命掌専征……”顕然，這種翻改是直接把原来以曲為主的崑弋唱詞改成皮簧唱詞，缺乏従舞台演出需要出発的真正改編。改編後《昭代簫韶》因為規模過于庖大、戯目也缺乏精細，因而宮中演出次数都很少，遑論流伝宮外了」と述べる。ちなみに周明泰(1896-1994)は字を志輔，号を幾礼居主人といい，安徽至徳県人。九集本『鉄旗陣』の旧蔵者である。

のはいわば当然であった。つまり，両者は物語としては同一であっても，演劇としては別物なのである。細かい相違は枚挙に暇がないから略に従うこととし，以下では『昭代簫韶』の場合に限り，乱弾本作成にかかる状況の一端を窺わせる事象につき一言しておきたい。

『昭代簫韶』の場合，頭本は二度乱弾本が作られた。乱弾本は朱墨套印本の第一本第一、第二齣を省き，第三齣以降をその修改の対象としている。この点は曲譜本も同様である。ただし曲譜本が朱墨套印本の曲牌と曲詞を抜き出し忠実に曲譜としたものであるのに対し，乱弾本は当初全般に亙り第一グループの題綱本によって乱弾化され，その後頭本のみ朱墨套印本によって再度乱弾化されたとみられる。否，正しくは『昭代簫韶』の第一グループの題綱は乱弾本の題綱であったというべきであろう。ちなみに『昭代簫韶』第一次乱弾本の齣名は四字，第二次乱弾本は七字からなっていた。乱弾本『昭代簫韶』の二つの頭本の相違は齣名のみではなかった。第二次本の頭本には登場人物の行当や衣裳などに関する詳しい記載がなされていた。

なお第二次乱弾本の頭本第三齣「囲合龍沙馳万騎」は遼の蕭后が狩りに名を借りて軍事演習を行い，関中の虚実動静を窺いつつ機を見て侵略しようとする場面であるが，狩りの場面の割合が肥大している。乱弾化を担当した者が西太后の意向を忖度して取った措置ではあるまいか。景宗の死後，幼少の聖宗を即位させ臨朝専政を行った遼の蕭后は，誰の目にも西太后そのものに映ったに相違ないからである。按ずるに，おそらくそれゆえに『昭代簫韶』は西太后の治下では最後まで演ぜられることはなかったであろう。『昭代簫韶』の蕭后は最後に娘たちの勧めを受け入れ宋に降伏しているからである。しからばその場面のある末段を有する第二グループの題綱は『鉄旗陣』の第二グループの題綱と同様咸豊以前のものとみてよいことになろう。

九集本『鉄旗陣』は，嘉慶帝の意を受け原『鉄旗陣』から『昭代簫韶』が独立して朱墨套印された際，原『鉄旗陣』の残余の部分から誕生した。その後，演劇の常として，おそらく上演の度ごとに修改が繰り返されたはずであるが，それを具体的に跡付けられるのは，第二グループの題綱などで推知される咸豊本と，第一グループの題綱と乱弾戯本で推知される光緒本である。

『昭代簫韶』も『鉄旗陣』と同様咸豊本と光緒本があったが，ほかに道光本も存在している[11]。このうち注目されるのは第二グループの題綱で推知される咸豊本であろう。咸豊本は木桂英と六郎が宗保の軍令違反をめぐって闘う寸前となる第十五段第八齣「桂英闖帳」までと末段しか残っていない。つまり打天門陣の黎山老母が登場する部分以降が削除され，いきなり甲馬軍が打ち破られた遼軍が敗走し降伏するとなっていた。たまたまその部分が失われた可能性も否定はできないが，そうでないなら，三層の戯台を使ってこそ演出効果があがる打天門陣後半のアクロバティックな部分が削除されたことになろう。しからば三層の戯台を使っての上演がまれになっていたこともあろうが，それのみな

11 故宮博物院所蔵の崑弋本戯に「道光二十三年六月十四日」の日付を持つ頭段八出がある。これこそが『清昇平署志略』に見える『昭代簫韶』の第二次上演，「道光二十四年正月十五日演起 二十五年九月初一日終場」に対応するものと考えられる。なおこの文本は徳昭役専用のものであるのでここでこれ以上は論じない。ちなみに崑弋本戯とあるようにこの文本はいまだ乱弾化していない。

らず，そうした大胆な変更を実行可能とした要因があったに相違ない。それは何か。按ずるに，この部分がそもそも三層の戯台での演出を目的に原型『昭代簫韶』に付加されたものだったからではなかったか。さすれば西太后による光緒末年の乱弾本への修改も，『昭代簫韶』に限っては蒙塵によって中断したわけではなく，すでに一応の完成をみていたのかもしれない。

では原『鉄旗陣』以前はどうであったか。原『鉄旗陣』以前に楊家将父子征戦南唐故事と楊家将父子征遼故事を独立して演ずる連台戯があり，前者が，筆者が原型『鉄旗陣』と命名したものであることはほぼ間違いのないところであろう。ただ原『鉄旗陣』以前に楊家将父子征遼故事を演じていたはずの原型『昭代簫韶』については，現在までそれと思しき文本を発見できていない。

十　原『鉄旗陣』と原型『鉄旗陣』の成立した時代

原型『昭代簫韶』の存否に関わらず，原『鉄旗陣』以前に原型『鉄旗陣』が存在したことは間違いのないところであるが，それに原型『昭代簫韶』を接続一体化（あるいは新たにその部分を創作）し原『鉄旗陣』としたのはなぜか，またその時期はいつか。この点については確実な証拠こそないのだが，筆者は現在以下のごとく想定している。

原型『鉄旗陣』で演ぜられる楊家将父子征戦南唐故事は康熙帝による三藩の乱の平定を，原型『昭代簫韶』に演ぜられていたはずの楊家将父子征遼故事は同じく康熙帝によるロシアとのネルチンスク条約の締結の過程を念頭に置き，その大業を讃美するために創作されたものではないかと。呉三桂が三藩の乱をおこしたのは康熙十二(1673)年，その平定は康熙二十(1681)年であり，康熙帝が本格的にロシア人作戦を開始したのは康熙二十一(1682)年，ネルチンスク条約の締結は康熙二十八(1689)年であった。しからば原型『鉄旗陣』の成立は康熙二十年以降の康熙年間でなければならず，原型『昭代簫韶』の成立は康熙二十八年以降の康熙年間のはずである。では原『鉄旗陣』の成立はいつごろであったのか。

原『鉄旗陣』のすべてが現存しているわけではないし，現存部分にしてもそれが成立当初のものであるとの保証はない。だから原『鉄旗陣』後半の楊家将父子征遼故事の現存部分と『昭代簫韶』の比較考察にはそもそも限界があるのだが，それを承知で敢えていうなら，両者の相違はさしてないといえる。とはいえ皆無ではないから，原『鉄旗陣』の散逸部分については慎重に考察する必要がある。『昭代簫韶』の第十本第八齣に，宋の太宗がいきなり徳昭らに後をまかせて都にもどること宣言する場面がある。徳昭が太宗に代わり九龍飛虎谷に押し込められることになるゆえんであるが，この一連の経緯はいかにも唐突に感じられる。筆者はかつてこれを乾隆帝即太宗から嘉慶帝即徳昭への代替わりを象徴的に演じたものとみた[12]。嘉慶帝が『昭代簫韶』を観る者にそうした印象を与えようとしたことは間違いあるまい。ただ同じ場面が原『鉄旗陣』から存在していたのなら，原『鉄旗陣』の編者がこの齣に与えた意味づけについてはそれと別に考えておく必要があろう。だが『昭代簫韶』の第十本第八齣に相当する齣は原『鉄旗陣』には残っていない（おそらく第四十段に収められて

[12] 拙論「『昭代簫韶』と楊家将物語」（『清朝宮廷演劇文化の世界』，東北大学東北アジア研究センター，2012 年 12 月）を参照されたい。

いたろう)。そこで筆者としては想像を逞しくし，原『鉄旗陣』の成立に関わる状況を仮に以下のように考えておきたい。

原『鉄旗陣』における楊家将父子征戦南唐故事と楊家将父子征遼故事の連続上演が，康熙帝による三藩の乱の平定とロシアとのアルバジン攻撃をへてのネルチンスク条約締結を念頭においたものであったなら，原『鉄旗陣』の成立時期として相応しいのは康熙帝の在位中であろう。この場合，そこで徳昭はさしたる活躍をしていなかったはずだから，現存の原『鉄旗陣』はその後に徳昭の存在を際立たせたかった者による改作の可能性がでてくる。ではその時期はいつでそれは誰か。

考えられるケースは以下の四つであろう。最初は康熙帝が康熙六十一(1722)年十一月に急死し雍正帝が即位した後の，おそらくその喪があけた時期であり，改作を指示した者は雍正帝もしくはその意を受けた者という場合である。雍正帝の即位が真に康熙帝の意に副ったものであったかは不明であり，雍正帝には自身の康熙帝の後継者としての立場を早期に確立する必要があったはずだからである。二番目はネルチンスク条約締結以後の，皇太子が最初に廃された康熙四十二(1703)年後で，再度そして最終的に廃位され咸安宮に禁錮された康熙五十一(1712)年までの間に，皇太子が自己の地位を保全すべく，指示して改作上演させたという場合である。この場合，皇帝である父康熙帝を差し置いて皇太子にそんなことができたかいささか疑問であるが，当初父皇帝に深く信任され将来を嘱望されていたが，結局は傲慢不遜をもって廃位された皇太子であってみれば，そうした可能性も皆無とはいえまい。三番目は二番目と同時期に，康熙帝が自身の偉業を自ら寿ぐとともに，とかく問題を起こし苦しい立場にあった皇太子の将来を案じ，その後継者たることを暗に示そうとしたという場合である。最後の四番目は，宋の太祖の子徳昭が八王の称を持っていたことに鑑み，康熙帝の子で，皇太子や後の雍正帝四爺と皇位をめぐって暗闘を繰り返し，雍正帝即位後まもなく失脚した八爺が，皇太子と同様，自身が康熙帝の後継者たることを示そうとしたという場合である。この場合，原『鉄旗陣』の成立時期は康熙年間の，八爺が事実上後継者としての地位を失った康熙五十三(1714)年冬以前に絞られることになろう[13]。以上四つのケースのいずれが真実に近いかはひとえに原『鉄旗陣』の第四十段の様相とその初演時期にかかってくるのだが，それが判明することは現在のところ期待薄である。ただ，以上いずれの場合にあっても，その後しばらくの間は原『鉄旗陣』が上演されることはなかったと思しい。なお宋初を時代背景とする宮廷長篇連台戯における徳昭の役割は本来皇帝を舞台に登場させないという駕頭雑劇の禁の流れを回避するための方便だったと思しいが，後には欠くべからざる人物となったようだ。

原『鉄旗陣』はその後幾度かの修改をへたと思しい。原『鉄旗陣』の第十二段第二齣「敗績回営」に「九宮格式，誰敢混改」というセリフがある。この「九宮格式」が乾隆十一(1746)年に朱墨套印された『九宮大成南北詞宮譜』を指すなら，この年以後にも修改をへていることになろう。嘉慶帝はそうしたいわく因縁のある原『鉄旗陣』で暗躍する王欽に目をつけ，その部分を独立させ，新たに『昭代簫韶』の名を与え，自身の乾隆帝の後継としての立場を闡明する手段とし，あわせて父帝の晩年に乱れた宮廷の綱紀粛正を図ろうとしたのではあ

---

13 陳捷先「談雍正其人」(『雍正 清世宗文物大展』所収，国立故宮博物院，2009.9)。

るまいか。

十一　余論－『鉄旗陣』の名の由来

最後に『鉄旗陣』の名の由来について考えてみたい。楊家将や薛家将の活躍するいわゆる家将小説[14]やこれを演ずる長篇連台戯は，皇帝の命により（あるいは皇帝とともに），まつろわぬ異邦を征伐にゆく家将英雄が，敵方の異能の軍師が布き，その同党の妖道が守る各種の陣を，助勢に駆けつけた神仙とその女弟子が打ち破るという共通の情節を有している。『鉄旗陣』の名も，南唐方が布いた陣の名に由来するが，鉄旗陣はかつての楊継業の同輩宋万が布いたものだったから，まともな陣であって，守将も妖道などではなかった。按ずるに『昭代簫韶』の天門陣のごとき陣立は，歴史物語から当初それが文字化される際にはめられた演義という歴史化の箍が，印刷文化の進展と読者層の増加によってはずされ，語られるままに書物とすることが可能，否むしろ好まれるようになって以後雨後の竹の子のように増殖したものであって，小説楊家将においては『楊家府世代忠勇通俗演義』がその嚆矢となった趣向であった。

ひるがえって家将小説（ならびに関連する長篇連台戯）にみえるそうした陣の名称であるが，薛仁貴の活躍する『説唐後伝』では飛刀陣、龍門陣，薛仁貴の子の薛丁山が活躍する『説唐三伝』では烈焔陣、金光陣、五龍陣などといった。家将小説の範疇には入るまいが，扱っている時代がこの両作品に先行し，連作の第一作にあたる『説唐全伝』には火雷陣、銅旗陣といった陣名もみえている。銅旗陣は鉄旗陣と同工異曲の陣であって，陣中央に陣取る旗の指示により陣立を瞬時に千変万化させるというものであった。『説唐後伝』にみえる薛仁貴物語は，先行する作品として『成化説唱詞話』に『新刊全相唐薛仁貴跨海征遼故事』が，『永楽大典』に『薛仁貴征遼事略』があることに鑑み，明初以前にすでに語られていたことが明らかであるが，そこにみえる龍門陣は龍門県出身の薛仁貴自らが布く陣であって，その性格も天門陣などとは異なり，銅旗陣や鉄旗陣に近いものであった。

『説唐全伝』には乾隆元年の序を冠する刊本が，『説唐後伝』には乾隆三年の姑蘇緑慎堂蔵板があるから，『説唐三伝』も含め，薛家将を主人公とするいわゆる英雄伝奇小説はいずれも乾隆以後に編集出版されたものとみなせる。つまり清朝宮廷で長篇連台戯が演ぜられていた時期とその出版時期が一致するのである。では上述した『楊家府世代忠勇通俗演義』における陣立はどうなっていたのか。椿岩の布く七十二座天門陣は，妊婦の屍体を逆さまに埋め威力を高めるという怪しげな陣であって，敵味方とも女将が重要な働きをするものではあるが，妖道が次々に登場する『昭代簫韶』や『二十打天門陣』まで刊行された鼓詞の天門陣とは様相を異にしていた。

按ずるに乾隆年間に刊行されたいわゆる英雄伝奇小説ならびにこれに先行する作品にみえる陣立としては，まず英雄の布く正統的な陣立による龍門陣があり，次いでそれが敵方の布く天門陣に変わり，それがさらに鉄旗陣や銅旗陣にかわったと思しい。では「門」陣から「旗」陣に変わったのはなぜか。『水滸伝』第七十六回「呉加亮布四斗五方旗　宋公明排九宮八卦陣」では，宋江が

---

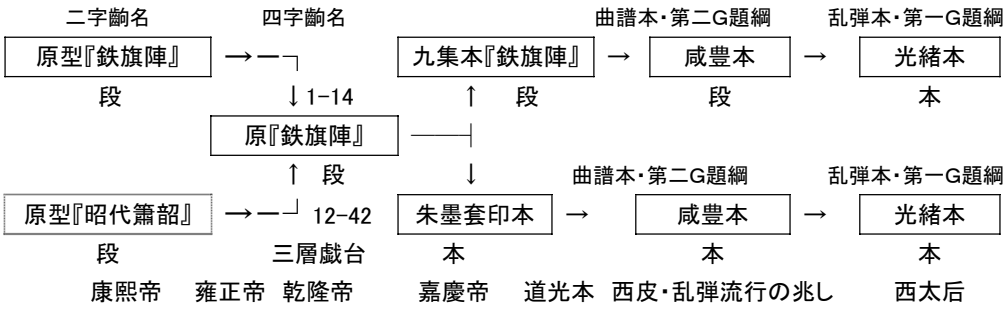
[14] 家将小説については張清発『明清家将小説研究』（学生書局，2010.11）などを参照されたい。

軍師の呉用とともに九宮八卦陣を布き四斗五方旗を立てることになっている。この四斗五方旗など，鉄旗、銅旗の先蹤とみてよかろう。また陣の中央に配された旗を倒すという趣向が，清代にあっては政治体制の根幹であった八旗を連想させるということもあったかもしれない。この場合，鉄旗陣が布かれる『鉄旗陣』や銅旗陣の布かれる『説唐全伝』は清朝成立以後に構想された物語ということになり，いわゆる英雄伝奇小説[15]の登場と清朝宮廷における長篇連台戯の盛行とは無関係ではなく，前者は後者の民間版，乾隆帝の十全武功を称えた銅版画に対する民間の戦闘時事版画と同様な性格をもつものだったということになろう[16]。今後はこの観点から両者の関係に関する研究を進めてゆきたいと考えている。なお，銅旗陣と鉄旗陣のいずれが先に構想されたかは定かでないものの，鉄旗が宋代の盛り場の演芸のひとつで専門に宋代の戦争を語っていたとされる鉄騎児[17]の鉄騎と同音であるから，筆者は鉄旗陣が先行していたとみている。ちなみに『水滸伝』第五十五回「高大尉大興三路兵　呼延灼擺布連環馬」にみえる連環馬こそが鉄騎児あるいは鉄騎陣の正体であったかもしれない。

最後に本論で述べた『鉄旗陣』,『昭代簫韶』の変遷を示意図として下記に示しておこう。

なお原型にせよ原にせよ，『鉄旗陣』や『昭代簫韶』を構成する齣のすべてがオリジナルなものであるはずはなく，その多くが明清の先行する関連戯曲を祖本としていると思われるのであるが，そうした点まで今回は調査が及ばなかった。博雅の示教を待ちたい。

図1 『鉄旗陣』、『昭代簫韶』変遷示意図



2012.10.09 初稿了　2012.10.18 二稿了

JSPS KAKENHI Grant Number 20001001

---

15 英雄伝奇小説については上田望「清代英雄伝奇小説成立の背景－貴州安順地戯よりの展望－」(『日本中国学会報』第 46 集所収，1994.10) などを参照されたい。

16 拙論「「戦闘時事版画」の誕生をめぐって」(『埼玉大学紀要教養学部』第 48 巻第 1 号所収，2012.9) を参照されたい。

17 胡士瑩『話本小説概論』(中華書局，1980.5) 第四章第三節「銀字児与鉄騎児」など。

《铁旗阵》与《昭代箫韶》

《铁旗阵》与《昭代箫韶》均为上演于清代宫廷中的长篇戏曲，且同收于《古本戏曲丛刊》中。两者都是扮演在宋实现全国统一的过程中，杨家诸将（杨家将）的英勇事迹的。征战南唐故事的《铁旗阵》相当于上篇，而征遼故事的《昭代箫韶》相当于下篇。由于嘉庆帝旨意，嘉庆十八年,《昭代箫韶》被朱墨套印。在那之前,两者是紧密联系在一起的一部作品，叫做《铁旗阵》。从这个原《铁旗阵》中除去《昭代箫韶》后残存下来的部分后来独立成篇，就是现存的《铁旗阵》。原《铁旗阵》中征战南唐故事的部分原有一部更先行的作品，可以称其为原型《铁旗阵》。原型《铁旗阵》的完成时期应在康熙中期以后，而原《铁旗阵》则可认为是在康熙后期至雍正前期之间。此后，上演之次,《铁旗阵》与《昭代箫韶》均被作有一些反映时代的修改。到了咸丰年间，受当时正流行于京师的西皮、乱弹的影响，便有部分取其特点而作成的剧本。到清末的光绪年间，更诞生了遵照西太后旨意而进行了全面修改的乱弹式的剧本。
关键词：《铁旗阵》、《昭代箫韶》、原《铁旗阵》、原型《铁旗阵》、乱弹

別表一 『古本戯曲叢刊』第九集所収『鉄旗陣』情節

	段*齣	齣名	情節
1	1*1	太乙遣仙双角套曲	太乙天尊登場。金童玉女に弟子の任道安を呼び出させ、楊景に兵書戦法を、楊希に避箭之術を伝授させ、金華山の呼延赤金と鳳鳴荘の杜玉娥の姻縁を遂げさせるよう指示する。
2	1*2	議伐南唐	太宗と群臣が南唐征伐のことを論ずる。太宗が徳昭に金鞭を賜う。
3	1*3	打擂招尤	楊家兄弟が天斉廟にゆき、ひとり別行動をとった楊希が天斉廟に設けられた擂台で潘豹を打ち殺す。楊希は兄弟に開封府にゆき罪を認めるといって別れる。
4	1*4	投監認罪	楊希、開封府の呂蒙正のもとに赴き、自ら入獄する。
5	1*5	父子自縛	楊千、続いて兄弟が佘太君のもとに駆けつけ経緯を語る。知らせを聞いてやってきた令公が兄弟と自身を縛って太宗のもとに行こうとするが、楊順は納得しない。そこで楊順が義理の息子であることが明かされる。それを聞き楊順もおとなしく縛られる。一同は出頭する。
6	1*6	伏闕請誅	潘仁美の奏上により、太宗は楊父子全員斬首とする。諸臣は八殿下に救いを求めることにする。
7	1*7	西市待刑	佘太君が排風をつれ刑場にゆく。排風の立ち回り。佘太君と令公、八兄弟の愁嘆場。
8	1*8	法場計救	刑場に徳昭がかけつけ楊一族を救う。
9	2*1	金殿明冤	徳昭と諸臣の奏上により、楊希のみ刑部送り、令公は免職、他は釈放となる。
10	2*2	虬龍耀武	南唐の宋万が五虎将を闘わせ、大力の虬龍を宋への使者に選ぶ。
11	2*3	玉娥勧父	杜玉娥が父の杜金に、杜金の妹婿呼延昭の娘で、両親の死後におじを頼ってきた不美人の呼延赤金と角突き合せないよう諭す。霊壁山の草寇姚雲漢が玉娥を圧寨夫人にと押し掛けてくるが、玉娥と赤金に撃退される。
12	2*4	赤金奪寨	赤金はおじのもとを離れるべく、杜家の下僕などを率いて姚雲漢を追い、これを下して草寇の頭に収まる。
13	2*5	従師授鎗	潘仁忠に劾奏され、楊令公によって命拾いした宋の五虎将の一人王源と軟禁中の楊希が廻りあい、楊希は王源の弟子となり鎗法を伝授される。
14	2*6	難邦保希	南唐の使臣虬龍が鳥跡篆と鉄胎弓を宋にもちこむ。楊希と王源が獄から解放され宮中に呼ばれる。
15	2*7	開弓読篆	徳昭が楊希と王源を推挙し、楊希は鉄胎弓を引き折り、王源は鳥跡篆を読む。
16	2*8	鎗挑虬龍	比武で楊希は虬龍を殺す。太宗は令公を掃唐大元帥に任命する。
17	3*1	授命興師	楊継業らが南唐李袞の征伐を命ぜられる。継業は掃唐大元帥、楊希が前部正先鋒、楊順が副先鋒となる。継業は徳昭に困ったときは柴王のところへゆけと手札をもらう。
18	3*2	南唐驚報	南唐の兵馬大元帥の宋万が宋軍の進攻にそなえ諸将を辺関に配置する。宋から逃げかえった二人の驍将がやってきて難邦の次第を報告する。
19	3*3	碭山大戦	方良臣、方良弼の兄弟が碭山県界牌関を守っているところに七郎と八郎がやってきて、さっそく戦いとなる。敵わずと見た方兄弟はいったん関に引き上げる。
20	3*4	茂林伏箭	方兄弟は伏兵をあらかじめ茂林におき、七郎を誘い出して射殺しようとする。
21	3*5	箭攢楊希	六郎楊景が七郎の暴走を案じ、援兵を率いて登場し八郎と会う。方兄弟は計画通り七郎をおびき出すが、矢はあたらない。そのすきに六郎が界牌関を陥とす。方兄弟は討ち取られる。
22	4*1	両抛礮石	宿州の陸応高が登場。徐遊が降伏とみせ七郎を城下に誘き寄せ、石を投げ落とす計略を立て実行する。七郎は最初の石を受け止め、二度目の石は城壁の上に投げ返す。城下での決戦。徐遊は金を鳴らし城内に陸応高を撤退させる。
23	4*2	詐降中計	徐遊が、父老を宋軍にゆかせ、陸応高を縛ったと称して七郎を城内に誘い込もうとする。
24	4*3	三攩銅錘	城内に誘い込まれて八郎と分断され伏兵にあった七郎が、陸応高の錘に苦戦し、かろうじて城外に逃げだす。
25	4*4	経径許婚	七郎の仙師任道安から因縁を聞かされ、援けて婿にするよう言われた呼延赤金が、逃げてきた七郎を待ちうけ、約束を取り付けたうえで陸応高を斬首する。七郎は呼延赤金が醜婦なので逃げ出す。
26	4*5	潜奔投荘	杜玉娥の父杜金のもとへ任道安がやってきて、玉娥と七郎の因縁を告げて去る。杜金はさっそく婚礼の準備をする。そこへ七郎がやってくる。七郎はこのまま帰っても軍規により斬首との杜金の言葉に従い結婚を承諾する。
27	4*6	仙縁奇配	そこへ呼延赤金がやってきて、杜金にこれまでの経緯を告げる。杜金は一夫二婦でまるく収める。
28	4*7	束装帰寨	天雄寨の姚雲漢が呼延赤金の命に従い鳳鳴荘にあらわれ、楊希らは寨にゆく。
29	4*8	軍変破関	楊継業の本隊が到着し、徐州城は陥ちるが、徐遊は降伏の説得に耳をかさず、堦に頭をぶつけて自殺する。
30	5*1	扼関佈陣	宋万が臨淮関から二十里離れて鉄旗陣を敷くよう命ずる。宋万と楊継業はかつてともに劉王を輔佐した間柄であることが宋万の口から明らかにされる。
31	5*2	継業探陣	息子たちは止めるが、楊継業は宋万の人柄を語り、鉄旗陣に入って偵察する。
32	5*3	遣子借兵	帰陣後、継業は楊景に禅州柴王に四千の兵を借りにゆかせ、行方不明の楊希に代わり楊順を先鋒に任じ、楊貴に楊景の代わりに中営を与るよう指示する。
33	5*4	楊順被擒	楊順が継業の命を聞かず、宋万を侮って夜襲を掛け、予め備えていた五虎将らに捕らえられる。
34	5*5	遣英解順	楊順が継業の命を無視して夜襲を掛けたことを知っていた宋万は、楊順を斬首せず、金陵に送らせ、宋軍が必ず楊順の消息を探りにくるはずだから実情を漏らさぬよう指示する。

35	5*6	探信誤聞	楊貴は闘う相手のすべてから楊順が斬首されたと聞き、帰陣して報仇の計を考えることにする。
36	6*1	馳章請援	楊泰に宋万は仁義の士だから楊順を殺していないといわれた継業が、楊泰を都に救援を求めにゆかせる。潘仁美があらかじめ家将に待ち伏せさせていたが、あえなく楊泰に蹴散らされる。
37	6*2	議救東床	南唐の孫乾相が宋万から楊順を都に送るとの書状をえて、楊順の許婚で娘の玉英や侍女の明霞と相談し、楊順が都に着く前に、匿っている壮士成搏虎とともにこれを奪い返し、屋敷に匿うことにする。
38	6*3	激諄俠士	玉英が成搏虎と計画を練る。明霞の提案により毒酒の計を使うことにする。
39	6*4	巧刼囚車	成搏虎が棲霞嶺の古廟に毒酒を用意し、しょば代を求める和尚を盛り倒し、護送の一行をまちうける。下っ端役人は酔いつぶれるが、姚雷、章彪は酔わなかったため、闘ってこれを殺し、男装し狩と称して様子を探りに来ていた玉英らと楊順を奪って城内に逃げ込む。
40	6*5	嫉債争雄	陸応高の兄弟の陸応魁が牛大力、熊巨猛と登場し、宋万が副帥と先鋒を求めているので自分が応ずると孫乾相に述べる。宋万の妻秦氏が黄蛟、黄螭と登場し、同様に述べる。二人は孫乾相にそれとなく嗾けられ張り合う。
41	6*6	武場奪帥	武場での比武の結果秦氏が勝ち、秦氏が副帥となる。
42	7*1	楊景借兵	楊景が柴王に兵を借りに行く途中、飛雲嶺で耿亮に道を阻まれこれを撃退する。耿亮は一大王の段鉄牛、二大王で兄の耿忠を連れてもどってくるが、柴王が国門外に擂台を設けたとの知らせに、双方闘いをやめる。
43	7*2	柴王立擂	柴王のもとに任道安が現われ、柴王の妹の姻事に関わる詩を残して去る。諸臣がその解釈を試みるがわからない。柴王の部下の陳琳、柴幹が擂台の準備が終わったと報告する。
44	7*3	較武招親	擂台に耿兄弟らが現われ、陳琳、柴幹と闘う。そこへ楊景が現われ、兄弟の正体が暴露される。楊景は柴王のもとに呼ばれ、師の任道安から柴王に示された、その妹媚春との姻事を遂げるよう求められる。そこへ耿兄弟らが城外にやってきたとの知らせが入る。
45	7*4	督師除暴	楊景が出陣し、段鉄牛は死に、耿兄弟は捕らえられる。
46	7*5	継業中矢	継業と秦氏が闘い、毒を塗った袖箭で継業が負傷する。
47	7*6	秦氏設謀	継業は自分が死んだと欺き、襲撃を掛けてくるのを待ち伏せすることにする。秦氏は継業の死の真偽を確かめるため、宋万と秦氏の偽者を宋軍に弔いにゆかせる。
48	7*7	両営仝計	宋陣営に偽の宋万、秦氏がやってくる。楊継業は二人を陣営に入れ捕らえようとするが、本物の二人が陣営に突入してきて、継業と楊貴は離れ離れになる。本物と偽者のふざけた対話。
49	7*8	冲囲大戦	傷の痛みに継業が昏倒したところに楊貴がやってくる。救命にやってきた任道安の薬で回復した継業は、指示に従い楊貴と西北へ脱出する。
50	8*1	遇敵断鎗	呼延賛が援軍として派遣されるが、継業に会えず、継業を追ってきた陸応魁と闘ってかなわず、緩軍の計を用い、明日再戦と称して逃げ出す。
51	8*2	賢良巧値	楊希が霊壁山から抜け出し鳳鳴荘に向かうが陸応魁から逃げ出してきた呼延賛に出くわし、互いに黒面将軍、黒面大王と称して闘う。楊貴が捜山虎といったことで、呼延賛はその正体を知る。相手が呼延賛と知った楊希は逃げ出す。
52	8*3	翁媳奇逢	楊希がいなくなったことを知った杜玉娥と呼延赤金が霊壁山を下りて捜索していて、継業と楊貴に闇夜に出会い闘うが、舅と知って霊壁山に逃げ帰る。継業らは霊壁県を目指す。
53	8*4	追希投寨	呼延賛が楊希を追いかけ、裏道から寨に辿り着く。楊希は姚雲漢に門を閉ざすよう命じ、前門から逃げ出すが、姚雲漢は呼延賛の勢いに門を開け、中に通して事情を話す。
54	8*5	羞避回山	呼延赤金と杜玉娥が前門から寨に入ろうとして楊希に出くわし、赤金の提案でそろって寨にもどることにする。
55	8*6	悞聞馳援	先行した呼延賛の身を案じた高君保が夜を徹して行軍し、呼延賛が囚われていると思い込み、陸応魁の陣に突入してこれと闘う。事実を知った高君保は軍を引く。
56	8*7	呼延督戦	高君保が呼延賛からの連絡兵に遭い、霊壁山へゆく。そこへ陸応魁が追跡してくる。宋軍は車掛りで陸応魁と闘い、赤金が応魁の馬の脚を砍り、応魁は逃げ出す。
57	8*8	応魁中標	再度攻めて来た応魁を赤金の標が倒す。
58	9*1	継業捜山	昨夜の二人の山賊を宋軍に取り込むべく継業が霊壁山に向かう。そこへ霊壁山無名大王からの迎えが来る。継業はいぶかりつつ応ずる。
59	9*2	議接楊帥	呼延賛の機転で楊希らは許される。そこへ宋万が虹県関に撤退しているとの知らせ。継業は楊希に追撃を命ずる。
60	9*3	唐師避鋭	宋軍の追尾が急で、宋万は虹県関を棄て、五河県を目指す。
61	9*4	五河対陣	五河での決戦、宋万は杜玉娥に感心し、早めに明日の再戦にむけ収兵を命ずる。
62	9*5	約戦擅兵	不機嫌な宋軍の楊継業。刺激され、呼延赤金と杜玉娥が秦氏と誰が闘うかを争う。杜玉娥の鎗法は聖母が授けたもの。そこへ秦氏から杜玉娥に明日の一騎打ちを求める書状がとどく。
63	9*6	収取金鎗	継業は免戦牌を出すが、杜玉娥は呼延賛の「担当」をえて秦氏と城池を賭けて闘う。劣勢の秦氏は負けを認めず、夜の歩戦を求める。二人の金鎗はもともと任道安の師呂道賓が降した孽龍であり、定められた数の将を傷つけたとて、回収にきていた任道安に、闘いの最中に取り上げられる。
64	10*1	赤金被擒	玉娥から金鎗が失われたと聞いた赤金が、伏兵の待ち受ける五河城に忍び込み捕われる。

65	10*2	玉娥奮義	赤金が捕われたと聞いた玉娥が赤金を救いにゆき、先に捕われ唐軍に編入されていた宋の健将の手引きで唐陣に忍び込み、張漢を斬り赤金を救出するが、今度は玉娥が捕われる。
66	10*3	救妹罹羅	一度は自力で脱出した赤金だが、玉娥のことを知り、楊希にいやみをいわれたこともあり、玉娥の救出にむかってまた捕われる。
67	10*4	憐妻求救	楊希が呼延賛にあとをたのみ、二人の救出にむかう。
68	10*5	義忿提兵	楊希が唐陣営に鉄騎とともに乗り込む。後難を慮り、秦氏は宋万の留守に赤金らを斬首しようとするが、戻って来た宋万にとめられる。そこへ楊希が来たとのしらせ。秦氏は落とし穴の計を提案する。
69	10*6	援妻自陥	落とし穴に落ちて楊希は捕われる。
70	11*1	柴王接旨	柴王のもとに謝庭芳が現われ、宋主の意向を伝える。柴王の妹は徳昭が主婚となり、平南の後に楊景と成婚することとなる。楊景は柴王が召集した四援軍とともに閲兵の後に出発することになる。陳琳と柴幹は柴王の将官。
71	11*2	楊景閲兵	火砲軍周虎臣、蓬頭軍羌彪、鎮海軍韓英、健歩軍李雄が登場、閲兵に参加して出陣する。
72	11*3	呼延命将	やきもきする呼延賛。楊希が捕われたとの知らせ。高君保を呼び、継業に内密で三人を救出するよう依頼する。
73	11*4	君保冲宮	高君保が唐陣に突入するが、救出を断念し脱出する。
74	11*5	議兵聞報	楊景の軍が到着し、高君保の試みが失敗したと知り、三人が金陵に護送されるおりに奪還しようとし、事情を知らず、あらかじめ継業にそのむねを知らせる。
75	11*6	破檻施威	唐軍の唐国柱、胡邈、呉廸、李世勲の四人が登場し、楊希らを護送する任務につく。指示を与える宋万。そこへ檻を破った三人が現われ混戦となるが、所詮多勢に無勢、取り囲まれる。
76	11*7	赴援揮軍	楊景の率いる援軍が唐陣に到着する。囲まれて苦戦する三人。
77	11*8	突囲救弟	楊景らに救出される三人。宋万と秦氏は臨淮関に退き、鉄旅陣を整え、継業らを陣内に閉じ込めようと考える。
78	12*1	救弟回営	赤金、玉娥が楊景と初対面の挨拶をする。事情を知り後悔する楊景に、一同は呼延賛のせいにしようと一決する。
79	12*2	陳情幾諫	継業が楊貴とともに登場。楊貴は三人の功績を述べるが、継業はひたすら斬首示衆を主張する。楊貴と楊景は呼延賛に救いを求めることにする。
80	12*3	呼延詐病	継業からの呼び出しにも楊景の依頼にも仮病を使って動こうとしない呼延賛だったが、楊景の再三の頼みに観念して継業のもとに赴くことにする。
81	12*4	継業斬子	継業が楊希を斬ろうとしているところに呼延賛がやってくる。初めは白を切っていた呼延賛も最後は自分が命じたことを認め、高君保の口ぞえなどがあり、継業はとりあえず許して馬の秣切りをさせることにする。そこへ唐軍から戦書が届けられる。継業は十日後の決戦を伝える。
82	12*5	餽釵激将	継業が動こうとしないため、挑発の目的で呼延賛に女ものが届けられる。赤金や玉娥にも使唆され、呼延賛は出陣することにし、玉娥に随軍護守を命ずる。
83	12*6	打陣罹羅	呼延賛が鉄旗陣に閉じ込められるのを見た玉娥がもどってそのことを報告する。
84	13*1	玉娥報信	玉娥の報告をうけ、継業が急遽出陣することにし、鉄旗陣の旗を倒す役割を楊希にやらせることにし、赤金にそれを伝えるための令箭を渡す。
85	13*2	楊希鏘草	馬夫の楊希をめぐる滑稽なやりとり。秣切りをならう楊希。赤金にからかわれる楊希。継業からの指令に勇み立つ楊希。
86	13*3	点将分兵	継業が各将に指示を与える。自らが臨淮関を間道から責めるとみせておとりとなり、宋万、秦氏を陣外におびき出し、その隙に楊希を突入させ、四軍の協力を得て鉄旗を倒させることにする。
87	13*4	攻城趨救	継業が臨淮関に向かっているとの知らせに宋万、秦氏の二人は間道に向かう。宋万は翟雷、徐力の二人を呼び寄せることにする。
88	13*5	倒旗破陣	楊希が鉄旗陣に突入し、なかで闘い続けていた呼延賛と合流する。あわやというところに連珠砲を合図に四軍が突入し、鉄旗は倒される。
89	13*6	夫婦全名	進退窮まった宋万と秦氏は獅子奮迅の働きの後、ともに討ち死にする。
90	14*1	飛叉大陣	馬元とその子の守仁、守義、守礼、守智、守信が氾水関前に鋼叉陣を敷く。呼延賛が赤金に嗾けられ、馬元の守る鋼叉陣に藤牌手とともにむかい。旧知の間柄とて降伏を説くが聞き入れられず、陣に突入する。
91	14*2	敗績回営	呼延賛と赤金のただ二人だけが逃げ帰る。二人の滑稽なやりとり。二人は面の皮を厚くして陣営にもどる。継業は楊景の提案に従い、貔貅を使うことにする。呼延賛は夢でも叉陣に怯える。
92	14*3	鼓武貔貅	粮草を運んできた王源を交え、宋軍が鳩首協議する。呼延賛が登場し、協議に遅れた理由を語る。赤金は夢を見ず。宋軍は出陣する。
93	14*4	蕩除叉陣	貔貅軍が貔貅を持って登場し、叉陣は破れ、馬元らは氾水関に立て籠もる。
94	14*5	喬粧賺関	呼延賛、楊景、高君保、王源、赤金、玉娥などが送親の行列に化け、氾水関に潜り込む。入り口で首実検のため演奏をさせられる。
95	14*6	捐軀殉節	内外からの攻撃に馬元は自殺し、兄弟五人中四人は討ち死にし、関は陥る。
96	15*1		唐の武将の呂燦、王信、潘国珍、方昆、温掬海、姚撼山、唐安国、黄定辺が登場、二大王の李豹の指示で呂燦ら四人が采石磯の守りに着く。楊通ら四人の四営教授が登場し、郷勇を募るよう命ぜられる。

97	15*2		采石磯をめぐる闘い。鎮海軍の李雄、羌彪が先陣を切って崖を登るが、待ち受けていた守備兵に矢を射掛けられて死に、霊となって長潮を起こし、水面を上昇させた龍王とともに宋軍を援ける。かくて継業らは采石磯を奪取し、唐の八将は討ち死にする。
98	15*3		孫家に匿われている楊順が登場し、自分と玉英、成搏虎と明霞が夫婦になっていることを述べる。孫乾相と相談し、内応するためには唐軍に仕えていることが重要と、郷勇に応ずることになる。二人は李豹と孫乾相の眼前で四教授と闘いこれを打ち負かす。
99	15*4		四総鎮と楊順ら四人が闘い、四人が勝ち、新たに総兵に任命されることになる。
100	15*5		王源と楊貴が降伏勧告の書状を渡す。李豹は降伏に反対し、城を枕に討ち死にすると述べ、城を出て闘うが敗れて撤退する。楊順らは内応を知らせる矢を宋軍に射ち込む。
101	15*6		継業らが内応の矢文を見てこれまでの事情を知る。
102	15*7		最後の決戦。親子の再会。宋軍に取り囲まれる李豹。降伏を勧める城壁の孫乾相を城外の李豹が矢で撃ち殺す。李豹は死に、李袞は降伏する。
103	15*8		受降台での降伏の儀式。一行は凱旋のはこびとなる。

別表二の一　昇平署旧蔵残鈔本『鉄旗陣』と九集本『鉄旗陣』・『昭代簫韶』の関係（附：情節）

段*出	原型鉄旗陣	原鉄旗陣	九集本鉄旗陣	昭代簫韶	情節	備考
X*1	*助兵*		(11*2)		禅州の柴王が楊景の求めに応じ、陳琳、柴幹、景亮、羌彪に火砲軍、蓬頭軍、健歩軍、鎮海軍を率いて出陣させる。	
X*2	*竇艶*		(15*3,15*4)		南唐の李袞の指示で郭良玉が美女を集めるが集まらない。	
X*3	*仮充*				南唐の宰相孫乾相が相談のうえ、楊順、成博虎に投軍応武、玉英、明霞に美女進内させることにする。そこへ郭良玉がやってくる。これ幸いと孫乾相は二女を宮中に送り込む。郭は皇后の婁氏に二女を預けることを約束する。	
X*4	*招軍*				李豹の命で南唐の五教授雷鳴振、楊福通、関漢英、何海洋、富宥亨が招軍をする。そこへ楊虎、成順と変名した楊、成二人がやってきて、招軍旗を抜いたため、二教授と教場での立ち合いとなり、これを打ち破る。	
X*5	*献媚*				玉英、明霞が郭良玉により婁氏のもとにつれてゆかれ、その庇護を受けることになる。	
X*6	*就謀*				楊、成の二人が五営総鎮の黄定辺、姚思明と闘い、これを殺す。李豹はかえて二人を総鎮にしようとする。	
X*7	*奏朝*				二人は総鎮となる。	
X*8	*操舶*				趙凱の部下の拒海蛟周洪らが水軍の訓練をする。	
2*1	*密謀*				李豹が楊、成二人を呼び、兄李袞に取って代わろうという野望への協力を求める。	
2*2	*教楽*				女楽教師の李歪纏と賈老実がふざけているところへ郭良玉が現われ、教楽の遅れを述べる。李袞と婁氏が現われ、婁氏が李袞に苦言を呈する。	
2*3	*夜叙*				孫乾相と楊、成の二人が夜に宋軍への内応の打ち合わせをする。	
2*4	*遣媳*				継業が楊希の二人の嫁、赤金と玉娥の、楊希を暗箭で落馬させた秦氏と闘いたいとの求めを許す。	
2*5	*報敵*				(計略合戦のすえ継業を破った)宋万と秦氏のもとへ赤金と玉娥がやってきて闘いを挑む。秦氏は出陣する。	
2*6	*大戦*				赤金と玉娥が秦氏と交互二闘うが勝負がつかず、日がくれ秦氏は陣営に帰る。	
2(23)*8		誆困六郎		4*11	驢騮馬を盗み出した焦賛を追ってきた遼軍と陳琳、柴幹らが闘う。	不全。
12*1		蕭后打囲		(1*5)	耶律休格らが登場、続いて蕭后が登場して矢を撃ち狩りをする。蕭后が南唐が滅びないうちに宋のすきをつくと述べる（俺久蓄報雪之心、況宋主一掃南唐、必起伐遼之心、俺今趁他未滅南唐、先発兵攻其不備便了）。	九宮格式、誰敢混改。
12*2		*敗績回営*	14*2		あやうく叉陣を逃げ出した赤金と呼延賛の滑稽なやりとり。楊継業に馬元が降らなかったこと、三千の兵を率いて敵の敷く陣に入って全滅したことを呼延賛が報告し、かろうじて敗戦をごまかす。継業は六郎の提案により皷貅を使うことにする。呼延賛は夢でも鐵叉に怯える。	
12*3		*鼓武皷貅*	14*3		粮草を運んできた王源を交え、宋軍が鳩首協議する。呼延賛が登場し、協議に遅れた理由を語る。赤金は夢を見ず。宋軍は出陣する。	
12*4		*蕩除叉陣*	(14*4)		誰を先陣にするかをめぐる滑稽なやりとり。貔貅軍が貔貅を持って登場し、叉陣は破れ、馬元らは氾水関に立て籠もる。	
12*5		*喬粧賺関*	(14*5)		呼延賛、楊景、高君保、王源、赤金、玉娥などが送親の行列に化け、氾水関に潜り込む。入り口で首実検のため演奏をさせられる。	
12*6		*殉節墜崖*	14*6		内外からの攻撃に馬元は自殺し、兄弟五人中四人は討ち死にし、関は陥る。	

12*7		勅議辺章		(1*8)	宋の重臣が登場し、太原防禦使賀懐浦が征遼を請う上奏を寄こしたと述べる。潘仁美が楊令公は鐵旗陣を破った微功で賞軍を要請してけしからんと述べる。大軍を擁している継業の南回を待っては北伐が遅れるので募兵せよ、親征するとの太祖の意向が紹介され、慮多遜が反対する。楊継業の勝利の知らせが届く。潘仁美はことごとに継業のあらさがしをし、継業が帰国したら平遼軍を起こし、揮下に一家を入れて復讐すると述べる。	皇帝は誰か不明。
12*8		*水操戦艘*			南唐水軍都督趙凱が登場し、水軍を訓練する。	
13*1		*祭江開艦*			健歩軍、火炮軍、鎮海軍、蓬頭軍がそれぞれの大将と登場。揚州水軍虞候樊若水が降伏し、長江を渡る船が手に入ったので祭江開船すると述べる。楊業らによる祭江開船。趙凱が三十里の水寨で対岸を守っているとの高君保の知らせ。夜に漁人に化けて敵陣を探ることにする。	
13*2		*漁隠問津*			漁郎人に化けた楊貴・赤金、漁婆に化けた高君保・玉娥が唐軍のスパイ江通行と江中でであい、唐の陣営に連れ込まれ、宋軍の水寨につき尋問される。赤金と趙凱の滑稽なやりとり。魏の曹操軍のごとき水寨。	
13*3		*截江交兵*			趙凱と継業との水軍による闘い。継業は敗れる。	
13*4		*互相刼寨*			呼延賛が継業の敗戦を知り、叉陣の時のお返しにいやみをいう。呼延賛は夜襲策を強要し、継業親子に拒否されるが、鎮海軍に担当させる。一方趙凱は江通行に再度偵察を命ずる。双方が双方の寨を騒がし帰還中にぶつかりひと騒ぎ。	地井。
13*5		奏朝窃柄		(1*9)	潘仁美の手下の王佐らがよからぬ話をしている。潘仁美が天波府にゆき楊家の四兄弟を入朝させよと指示する。聖上を言いくるめ親征が決まる。楊家四兄弟が仁美に元帥たる自分に従うよう命ぜられる。徳昭が事情を知り、仁美を責めるが聖上の意思としらをきる。心配し徳昭に保護を求める佘夫人。徳昭が行営総理都監軍となり三日後出発となる。	
13*6		*火攻水寨*			趙凱の寨攻略を相談する宋軍陣営。六郎が火攻めを提案する。引火物を載せて突入するのは高君保と楊貴夫婦の四人(劉金定は影も形もない)。趙凱は以前宋軍の情報をくれた漁人と思い、安易に陣中に引きいれる。中営から火が起こり唐の水寨は焼け落ちる。	
13*7		*江皋伏箭*			趙凱は陸に上がって逃げ出すも、継業、続いて六郎に待ち伏せされ射殺され、他の者も殺される。	
13*8		大駕親征		(1*10)	徳昭が行営総理都監軍となったことを知り、軍前で別の手を使おうと考える仁美。太宗(ここで初めて太宗が登場する)が親征に出発する。	
14*1		*攻奪采石*	15*2		采石磯をめぐる闘い。鎮海軍の李雄、羌彪が先陣を切って崖を登るが、待ち受けていた守備兵に矢を射掛けられて死に、霊となって長潮を起こし、水面を上昇させた龍王とともに宋軍を援ける。かくて継業らは采石磯を奪取し、唐の八将は討ち死にする。	地井あり。九集本に地井なし。
14*2		議取東易		1*12	宋太宗、徳昭と仁美に易州攻撃を命ずる。	
14*3		擒将拠州		1*13	遼将劉宇と楊氏兄弟の戦い。賀懐浦が劉宇を斬り、易州を陥す。	
14*4		*喬扮投充*	(15*3)		楊順、成搏虎、玉英、明霞が登場し、孫乾相に宋軍に内応するため四人とも郷勇に応じまず教授を打ち負かせ、李豹が罰しようとしたら自分が調停し四人の総鎮と比武させるから、四人を殺せと指示する。楊、成の二人は李豹と孫乾相の眼前で四教授と闘い、孫乾相の思惑通り総鎮との比武となる。	
14*5		*比武就謀*	(15*4)		四総鎮と楊順ら四人が闘い、四人が勝ち、新たに総鎮に任命されることになる。	
14*6		*彰討宣化*	15*5		王源と楊貴が降伏勧告の書状を渡す。李豹は降伏に反対し、城を枕に討ち死にすると述べ、城を出て闘うが敗れて撤退する。楊順らは内応を知らせる矢文を宋軍に射ち込む。	
14*7		*克敵安邦*	15*6,(15*7)		継業らが内応の矢文を見てこれまでの事情を知る。最後の決戦。親子の再会。宋軍に取り囲まれる李豹。降伏を勧める城壁の孫乾相を城外の李豹が矢で撃ち殺す。李豹は死に、李袞は降伏する。原鉄旗陣は曲牌が多く、四人の果たした役割を丁寧に述べる。	

14*8		*受降奏捷*	(15*8)		金陵城民が登場し、城内の平穏無事を寿ぐ。李袞が群臣を責めつつもやむなく大元帥の軍営にゆく。原鉄旗陣には楊継業の「前者、随解餉官帯来旨意説、聖上要親総六師、征伐遼邦、此時未知起駕否」などのセリフがあり、なおかつそれを省く記しが付いている。受降台での降伏の儀式。一行は凱旋のはこびとなる。	楊継業のセリフとそれを削除する記しの存在は、原鉄旗陣が「楊家将父子征戦南唐故事」と楊家将父子征遼故事を結合させており、その後それを分割する方向で修改がなされたことを窺わせる。
15						
16*1		招婿発令		(2*1)	遼軍の韓徳譲らが登場し宋の君臣が涿鹿で囲まれ、講和の計を用いて宋主を東門から脱出させたが、継業の子三人を殺し、一人を虜にしたと述べる。かの少年は蕭后の命で瓊娥郡主の郡馬木易となる。	
16*2		奸党設謀		1*21	救駕の功を楊家に攫われたと悶悶とする仁美、部下を呼んで酒を呑む。仁美は領兵断後の際、七郎に祖宗と呼ばされたことを恨み、聖上の怒りをかって出鎮されたことを根に持ち、楊家の父子を前線にこさせるよう図る。おりよく遼軍が雁門関に逼る。仁美は蕭達蘭にさんざんに打ちのめされ、楊継業父子の救援を求める。	
16*3		**褒爵慰労**		1*22,(1*23)	太宗、楊継業をいたわり、死んだ三兄弟に追贈する。五郎はこのとき悟覚禅師に封ぜられる。呼延賛のセリフに「昨日蒙聖恩、因平定南唐、献俘授職、李袞封為逆命侯、楊令公加封無敵上将軍、伊子皆封都指揮…」とある。宗孝登場、十六歳。潘虎と傅鼎臣が悪巧みをする。兄弟の妻、佘太君、楊金花、銀花(八娘、九妹か)らがそろって登場。宮中から帰ってきた継業らの報告を聞く。そこへ傅鼎臣が行営総先鋒として三子を率いて仁美の揮下に入れとの聖旨をもたらす。なげく一家。徳昭に援けを求めるよう柴媚春が提案する。	1王魁英、2耿金花、3董月娥、4韓月英、5馬賽英、6柴媚春、7呼延赤金・杜玉娥、8孫玉英。
16*4		奏保良将		(1*23)	楊景は呼延賛とともに徳昭に援けを求め、延賛が上方剣を得て八郎とともに同行することになる。	
16*5		暗襲雁門		(1*24)	遼軍が雁門を襲い、あわやの仁美を呼延賛が救う。	
16*6		計陥呼延		(2*2)	遼将韓徳譲の勾注山で戦おうとの申し入れに、仁美はわざと呼延賛を戦わせる。八郎が諫めるのも聞き入れず、八郎の同行も拒んで呼延賛が窮地に陥る。傍観する仁美に八郎が救出に向かう。	
16*7		**八郎遭擒**		(2*2)	八郎楊順が延賛を救うが、自らは捕らえられ、蕭太后のもとに送られる。継業・楊希らが駆けつけ延賛は救われる。韓徳譲は宋の降将劉子喩が楊希に似ているのに驚き、反間計を思いつく。	
16*8		計行反間		(2*3)	仁美が呼延賛の帰還に驚く。継業らが仁美に目通りする。しゃにむに継業を罰しようとする仁美と七郎が対立する。劉子喩が宋営を夜襲をかける。仁美は楊希と思い込み、継業らを斬首しようとして、反対する呼延賛と対立する。	王侁のセリフに「大忠呢、巴給個金童玉女、幾対幢幡、引上雲兜、大奸呢、巴給個冥府都鬼、把鐵叉、送入地井」とある。
17*1		詐言絶糧		(2*4)	仁美、仲直りと称して呼延賛らを宴席に招き、その場で王侁の詐言絶糧之計により不足している糧食の運搬のためと称して呼延賛を都に追いやる。心配する延賛に、仁美は陰謀をめぐらすようなら鉄叉地獄に落ちると誓う。	仁美のセリフに「昔日足下在劉王駕下、曽射下官一箭、讐之一也、七郎打死潘豹、讐之二也、千歳為太郎、奏烹吾弟仁忠、讐之三也、前者涿鹿被擒、七郎出吾之醜、讐之四也」とある。
17*2		**威赫遼邦**		(2*3)	蕭綽里特と蕭達蘭の軍状をめぐる会話。万人敵蕭綽里特が出陣する。王強登場し王侁と会う。仁美のけんもほろろの扱いに来たことを後悔する王強。蕭綽里特と闘う楊景、楊希、陳林、柴幹。無人敵継業が蕭綽里特を斬る。遼軍は震え上がる。	
17*3		踹奪宋営		(2*5)	王強が遼に投降する。遼軍の夜襲。楊希に似た劉子喩のために混戦となる。宋軍五十里撤退。	

17*4		設伏排兵		(2*6)	蕭太后、宋から投降した王強から潘・楊の不仲を聞き、継業をおびき寄せ陳家谷に閉じ込めるため、諸将を各所に配置する。	
17*5		懐讐逼戦		(2*7)	仁美、楊継業と二子のみを五千の兵とともに出陣させる。六郎が陳林と柴幹は柴王から借りたものだから連れてゆくというが仁美はそれも許さない。	
17*6		激将遭囲		(2*8)	継業が仁美により陳家谷狼牙村へ敵を追うようしむけられ、伏兵にあう。楊継業が谷口に救援の兵を配置するよう要請し、賀懐浦もそれを促すが、仁美は無視して引き返す。賀懐浦は座視できず陳家谷の西口に待機する。	
17*7		救父闖囲		(2*9)	楊希が陳家谷を脱出する。継業らは谷に閉じ込められる。	滚白。
17*8		求兵遭害		2*10	楊希の救援要請にけんもほろろの応対をする仁美。激高した楊希を乱箭で射殺しようとするが矢は中らない。金童玉女らの迎えがあり、星君楊希は自ら割皮蔽目を申し出て帰天する。	
18						
19						
20*1		焦賛刼糧		3*4	紅桃山の呂彪・鄒仲・王昇・王義・林栄・朱茂が登場し、自分たちが神火将軍(大王)孟良の部下となった経緯、その後金頂太行山九龍神張蓋、宝珠寨胥徐大王と気脈を通じたことを語る。孟良が登場し、かつて沙陀国郡主雲英の群馬になったこと、火を吹く葫蘆を離宮将吏から贈られ六使を扶けよといわれたと述べる。芭蕉山鉄面大王焦賛が部下の陸程・陳雷と登場し、太行山張蓋が義弟の劉超に命じて孟良に贈ろうとした糧草を奪うが、孟良がこれを法術で奪い返す。	
20*2		**松下思親**		(2*23)	楊景が陳林・柴幹と登場し、松の根元で休み父と七郎の死を聞けば母がいかばかり嘆くかを思い悲嘆にくれ、冤鼓司に訴えると述べる。待ち伏せしていた銭秀がこれを聞いて襲ってくる。銭秀は殺したが情報は都に伝わる。	
20*3		旅中写状		3*3	楊景が王強に訴状を書いてもらう。王強はうまく立ち回る。	
20*4		**空営取勝**		(2*24),(3*1)	李敬源と劉廷譲が剣の自鳴で夜襲を知り、空営計で対抗することにする。楊貴が瓊娥公主と宋陣に夜襲をかけ、待ち伏せされて慌てふためく。李、劉は追撃する。蕭太后が登場し二人の急を救う。	
20*5		鏖兵敗没		(3*2)	宋・遼の戦い。李敬源は戦死、劉廷譲はかろうじて逃げ出す。	
20*6		見母訴因		(3*5)	楊宗保の迎えにより呼延賛が畢顕につきそわれいやいや楊府に行き、佘太君・杜玉娥・呼延赤金・柴媚春と会う。そこへ六郎が登場し、これまでの経緯を語る。楊府は一家をあげ悲嘆にくれる。	
20*7		撃鼓伸冤		(3*6)	潘虎が母舅の傅鼎臣に策を求め、鼎臣は黄玉とともに六郎を亡き者にする手はずを整える。六郎はまず徳昭に訴える。そこへ仁美の奏上を受けた皇帝から徳昭に呼び出しがかかる。六郎は徳昭の指示により冤鼓台に行くが、鼎臣らの手はず通り打ちすえられてしまう。	
20*8		逼滚釘板		(3*7)	黄玉が六郎を釘板で拷問しているところに徳昭が登場し、金鞭で黄玉を打ち殺し、太宗の面前での審理となる。傅鼎臣は仁美を庇う。	滚白。
21*1		密諭賞辺		3*8	密命により前線へ先行する呼延畢顕、後行する徳昭と張斉賢。	
21*2		屈斬黄龍		3*9,3*10	宋軍の仁美が遼軍の韓延寿に挑戦され点将するが、黄龍の集合が遅れる。仁美は敗退して代州城に逃げ込む。敗北の腹いせに黄龍を斬ろうとする仁美、止めようとする黄虎。そこへ勅使の呼延畢顕が登場し、六郎が斬られたとの偽の知らせをもたらす。仁美は勅使に黄龍を斬首して威光を見せる。	3*9,3*10は同韻。
21*3		賺印杻械		3*11	畢顕が遅れてきた徳昭に状況を報告。畢顕が故意に仁美に陣立てを挑み、印綬を徳昭に預けさせたところで徳昭が勅旨を読み上げ、仁美らを捕らえる。	

21*4		顧親枉法		3*12,(3*13)	傅鼎臣が裁判を司ると聞き、潘虎がさっそく鼎臣に善処を求める。陳琳らは百姓に変装し、裁判の監視に赴く。徳昭が現われ、勅書により鼎臣の位階を剥奪し、韓連に公正な裁きを命ずる。	3*12,(3*13)は同韻。
21*5		韓連納賄		3*14	潘虎が韓連の懼内に乗じ、侍女冬梅を通じ賄賂を渡す。裁判中に院子に耳打ちされた韓連は裁判を延期する。	
21*6		鞭斃貪婪		3*15	韓連が妻田氏のいいなりに六郎を拷問する。徳昭が現われ、冬梅の証言と証拠の品により、韓連を金鞭で打ち殺す。	
21*7		大審奸党		(3*16)	徳昭じきじきに審理にあたる。陳林と柴幹が現われ証言したことにより、仁美は自供する。	
21*8		新帥督戦			張斉賢の宋軍が遼軍と戦い勝利する。	
22*1		森羅発票		3*17	第五殿閻君のもとへ左枢星君が玉旨を伝える。閻君、九差鬼に指示を伝える(儺戯か)。	両者とも「星君請坐」とある。昇天門、酆都門なし。九集が改本。
22*2		廷諍除奸		(3*18)	太宗の減刑の求めと、潘虎・傅鼎臣の要請を受けた王強・謝庭芳の弁護により、仁美一家は朔州充軍となる。太宗の助命の意思がより明らか。	
22*3		欽斬四悪		(3*19)	王強らが獄中に仁美らを訪ねるが、九差鬼も登場し、まず傅鼎臣の魂を奪って殺す。刑場に引き出され六郎に斬首された四人の魂は地井から連れ去られる。仁美は刑場で流刑に減刑される。	地井なし。
22*4		授職防辺		3*20	六郎が、男装をして遺骨収集と称して旅支度をしている八娘・九妹・呼延赤金・杜玉娥を止める。そこへ徳昭が六郎を嘉山寨都巡検使とするとの勅命をもたらし、四人の旅立ちを許す。	
22*5		奸撥残兵		3*21	王強は謝庭芳に指示し、六郎に与える三千の兵を老残兵で数合わせさせる。六郎が唯一有能な岳勝と手合わせし、その能力を認める。	
22*6		争刼巨奸		3*22	護送中の仁美一家。太行山大王九龍神張蓋・金牙太保佘子光・宝珠寨大王小子胥徐仲・大刀関冲・鬼頭刀李虎らは仁美にだまされるが、盤龍山大王金刀大将劉金龍・金叉将郎千・銀叉将郎万は仁美を捕らえる。そこへ楊家の四人とだまされた好漢が集う。	
22*7		循環彰報		3*23	呼延赤金らは仁美に七郎を乱箭で射殺した様子を再現させて潘虎を殺して首を取り、傅氏を斬首し、仁美の心臓を抉って殺し、禄台から仙楼に降りてきて見守る継業と七郎に奉げる。悪人の魂は九差鬼により地獄へ連れ去られる。	禄台、仙楼なし。地井はあり。両者に鼎峙春秋、勧善金科への言及あり。
22*8		**九鬼対叉**		(3*24)	尽節将卒の魂のため、五台山の悟覚禅師が建醮をする。地獄へ護送中の仁美らの魂もその施食餞口に与り、隙をついて逃げ出すが、再度捕らえられる。	地井あり。建醮の次第が詳しい。
23*1		連擒義釈		4*1,4*2	六郎が嘉山寨赴任後、岳勝をつれて巡視にでて紅桃山で孟良と闘う。一度捕え、火を吹く葫蘆を取り上げて放免する。夜襲にきた孟良を落とし穴で捕え、再度放免する。	4*1,4*2は同韻。
23*2		智服孟良		(4*3)	悔しがる孟良。烏漢国の使臣が現われ、遼国内で蕭天佑に表文などを奪われたと六郎に訴える。六郎は都の徳昭に上奏するよう指示する。策により孟良を香巌閣山で捕える。そこへ郎千・郎万の兄弟が、張蓋・劉金龍・徐仲を伴って現われ、仲間入りする。	
23*3		乗隙進讒		4*4	徳昭にあえなかった烏漢国使臣は王強らに使嗾され、太宗の前で、宋国内で貢物を奪われたが六郎はそれに対処しなかったと讒言する。太宗は十日以内で取り返すよう六郎に命ずる。	
23*4		畳遇顛危		4*5	六郎は芭蕉山で焦賛に捕えられるが、あわやの際に白虎が出現し、一転焦賛は六郎に下る。祝賀の宴席に勅使がやってくる。自殺しようとする六郎を止め、孟良が遼に忍び込むことになる。焦賛は孟良に四郎を探し出せという。	
23*5		冒呈赤鯉		4*6,(4*7)	孟良が蕭后の生日で警戒厳しい幽州への入場許可証となる令旗を持つ張子網に遭遇し、打ち殺して子網に成り済まし、蕭皇后に鯉を献上する。一度は化けの皮がはがれそうになるが、子網の子といつわり、四郎と接触することに成功する。孟良が四郎に六郎の危機を伝えているのを公主が立ち聞きする。その場に踏み込んだ公主に二人は正体を明かし、協力を求める。公主は孟良の計略の片棒を担ぐことを承知する。	(4*6),(4*7)は同韻。滚白。原鉄旗陣の方が詳しい。

23*6		智賺驌驦		4*8,4*9	公主は厩にゆき、烏漢国献上の馬の口に薬を塗りつける。蕭后らが六郎対策を協議中に（馬夫が馬がよだれをたらし病気の症状を示しているとの報告にやってくる。）	
24						
25						
26*1		仁君恩宥		(5*4),(5*5)	処刑場で六郎は監斬官の徳昭に無実を訴える。祖吉の娘婿謝庭芳の家に王強とともに乗り込んだ徳昭は、持参の偽の奏上をあたかも発見したかのように取り出して六郎を無罪とする。徳昭が仁美の謝庭芳にあてた六郎を亡き者とせよとの書状を発見し、六郎らは放免される。六郎は汝州預けとなる。嘉山寨都指揮となった祖吉に指示し、王強が六郎の部下を逃散させ、自らは蕭后に密書を送り国境を騒がせる。王強は勅旨を偽造し、六郎を即日刑具をつけて出発させる。母子の愁嘆場。焦賛は鄧州従軍となる。	
26*2		強梁奪艶		5*6	太歳董鉄虎が鄧州の王士亨の酒屋にやってきて争いになる。たまたまいあわせた孫世傑と妻の周若蘭がそれに巻き込まれ、周若蘭が董鉄虎に連れ去られる。	
26*3		鬧董家林		(5*7)	焦賛がやってきて王士亨とともに董鉄虎の妾迎春・麗春が営む酒店にやってきて二人を殺し、董鉄虎も殺す。	
26*4		首陽郡馬		5*8	王強の命を受けた汝州の守将で祖氏の兄の祖忠が、知府胡綱正の二人の息子と酒楼で酒を飲んだおりに壁に書いた六郎の詩を改竄し、謀反の詩として王強に報告する。	
26*5		羣英失散		5*9	六郎の後任で祖氏の父祖吉に恥辱を与えられた六郎の部下は太行山にゆき山賊になる。祖吉は王強の命を受け、戦場で遼軍と連絡をとる。岳勝と孟良は汝州にゆくことにする。	
26*6		解詩賜死		5*10	祖忠から報告を受けた王強は、毎度徳昭に邪魔されていることに鑑み、使者を徳昭のもとにゆかせ、徳昭に奏上せざるを得なくさせる。太宗は迷うが、折悪しく祖吉から六郎の部下が逃散したとの知らせが入る。太宗は呼延畢顕に反詩の真偽を確かめ、真筆なら六郎を斬首せよと命ずる。徳昭は畢顕に「好自為之」と指示する。	
26*7		捨身全義		5*11	酒楼で確認後六郎を尋ねる畢顕。六郎と容貌の似る胡綱正の長子胡守徳が代わりに死に、綱正が斬り落した首を畢顕が持ち帰る。	
26*8		森羅彰報		(4*24)	五殿閻王が玉旨により潘仁美らを各種地獄に落とす。	
27@						修書中。
28*1		鄧州訪賛		5*20	かつての六郎の部下が魏府の危機を聞き、打ちそろって出陣し、六郎が死んだと思い僧道と供養をしている焦賛と合流する。	
28*2		汝州召景		5*21	呼延畢顕の口から真実を知った太宗は、徳昭を汝州に調査にむかわせる。胡綱正と胡守善・楊宗保などが登場し、銅台のことを案じ六郎と善後策を協議する。相談のうえ、六郎は妻の柴媚春には都へ戻って自身の生存を母に知らせるよう指示し、綱正には妹の八娘を胡守信にとつがせると約束する。そこへ徳昭がやってくる。太宗救援に出発するに先立ち綱正は祖忠を審問することにする。	
28*3		活捉祖忠		5*22	六郎らが祖忠を審問する。最後は胡守徳の魂が土地・差鬼とともに祖忠を取り殺す。	
28*4		会合勤王		5*23	六郎が岳勝らと合流する。徳昭の兵も合流する。	
28*5		神箭褫魄		(5*24)	宋遼の戦い。宋太宗の矢が蕭天佑に中る。そこへ六郎らが登場し、遼軍をさんざんに打ち破る。六郎らは太宗に目通りする。蕭后は広平に逃げ込む。広平城南門が六郎に打ち破られ、蕭后は北門から趙州に逃げ出す。	
28*6		天威駭遼			趙州城に逃げ込む遼軍。勢いに乗る宋軍。城を落された遼軍は晋州に向かう。	
28*7		連取三城		(6*1)	遼軍が晋州城に逃げ込む。攻めかかる宋軍、蕭后は北門から逃げ出す。宋軍は晋州に入る。	
28*8		大破遼兵		(6*2)	晋州を棄て幽州を目指す遼軍。さんざんに打ち破られる。	

29*1		招兵借兵		(6*3),6*4	六郎が臨潢からの新手の遼軍を策略で打ち破る。四郎楊貴ひそかに六郎の勝利を喜ぶ。蕭后は卑鮮国・森羅国・黒水国・西夏国・長沙国の五カ国に援兵をもとめ、合わせて国内で英賢を募る。	(6*3),6*4は同韻。九集本は聖上への礼賛を欠く。寇準の「前者、主上督兵取城、我也曾諫阻、帰衆勿撃。聖上道、城之気出而北、可克之城、何言勿撃。果然連取三城」、六郎の「頼主上天威、又得全勝」など。
29*2		椿仙掲榜		6*7	椿岩が登場。姿を変え、厳洞賓と名乗って遼の募兵に応じ、護国軍師に任ぜられる。	
29*3		王懐憶盟		6*6	西夏国の王懐が登場し、昔継業とともに劉王に仕え同じく令公だったこと、娘の素真が六郎と許婚だったが、自分が西夏国に求められ、継業が宋に投じたためそのままになっていることを述べる。幽州への途次、卑鮮国の黒達令公馬栄、森羅国の王子孟金龍、長沙国の郡馬蘇和慶・郡主蕭覇真、黒水国の鉄頭元帥黒太保と合流する。	
29*4		神授兵書		6*5	後闕。金刀聖母が登場し、妖道椿岩が呂洞賓の陰符の術により七十二座の天門陣を敷くこと、女弟子の杜玉娥・金頭馬氏・木桂英・王素真では未熟なので、桂英に宿縁があり、佘氏に率いられ一族の女将とともに前線にやって来た楊宗保を呼び寄せ、兵書と刀法を授けると述べる。虎に導かれ化身老道に七つの紅桃と五つの饅首を与えられて大力となる宗保。夢中で金刀聖母に刀法と兵書を授かる。	
29*5		椿岩佈陣		6*8	遼の将軍に五カ国の援軍の指揮官をまじえ、厳洞賓が天門陣を敷く。天門陣は八門金鎖陣・青龍陣・朱雀陣・元武陣・地煞天魔陣・迷魂陣などの陣から成っている。厳洞賓は使者を宋軍に送り、陣立てを破る日取りを決めるよう求める。九天玄女でなく梨山老母。	
29*6		得図観陣		6*9	使者を追い返し、自ら高みに立って陣立てを見る六郎。徳昭は太宗のもとへ使者を送る。	
29*7		探陣遇親		6*10	楊宗保らが遼軍の巡視に化けて天門陣をさぐるが、焦賛・孟良を知る蕭天佐に見破られ、窮地に陥る。王懐・王素真がこれを援けて天門陣を脱出させる。四つの陣に不備を見つける。陣図の説明が詳しい。	
29*8		神術勝妖		6*11	破陣の相談のおり、杜玉娥がかつて聖母から請神牌と霊符呪語を賜ったと述べる。宗保も王父娘のことを伝えるが、六郎は信じない。勅命を受けた王欽が宗保から陣立ての不備を聞き出し、それを遼軍に伝える。厳洞賓と杜玉娥の方術による戦いは玉娥に軍配が上がる。碧蘿山でなく蓬莱洞。	
30						
31						
32						
33*1		白雲護陣		7*13	厳洞賓が狐の精の白雲仙子を連れて遼陣に戻り、蕭氏・四郎・八郎らと会う。	
33*2		推譲発令		7*14	人和陣を攻略する段になるが、鍾離道人により宗顕の死に場所と予め知らされていたため、六郎と徳昭は出陣命令を躊躇するが、やむなく命を下す。	
33*3		宗顕陥陣		(7*15)	宗顕が白雲仙子により人和陣で捕らえられる。女将のメンバーを換える。	
33*4		香童代獲		7*16	黎山老母に連れられた侍香童が天井から雲兜に乗って現われ、宗顕に替わる。偽の宗顕が白雲仙子に捕らえられる。	天井、雲兜なし。侍香童に名乗らぬよう口止め。
33*5		剪梅救夫		7*17	両翼の女将が中央から攻めてきたとの知らせ。仙子が出陣し、洞賓は偽宗顕を殺して晒し物にする。そこへ李剪梅が登場。女将らと陣を脱出するが、偽の宗顕を本物と思い込む。	天井、雲兜なし。
33*6		誤聞救子		7*18	六郎が出陣し、晒されている宗顕の死体を見る。	
33*7		派兵接援		7*19	木桂英らが帰陣して李剪梅を徳昭に目どおりさせるが、六郎らと出会わなかったとて、再度救援に行く。	
33*8		際会成功		(7*20)	李剪梅が蕩魔童子を呼び寄せ、人和陣を守る動物の精を捕らえさせ、洞賓と白雲仙子は毒気で李剪梅の鏡の光を遮って逃げ出す。陣は破られる。	

34						
35						
36						
37*1		犒労敷恩		(8*23)	朱雀陣破りを孟良と宗顥が命ぜられる。孟良が子の孟吉に巡り合ったことを報告する。焦賛がわが身を嘆く。孟良が破陣の次第を報告する。渓化妖道は任仙師に山に導かれる。厳洞賓が迷魂陣で挑んでくる。	
37*2		行軍遇敵		(9*1)	長沙国が上将洪世傑と海賽花の夫婦を追加派遣する。洪世傑と海賽花の夫婦は胡守信・八娘・焦松と争い、敗れて天門陣めざして逃げ出す。	
37*3		迷魂大陣		9*2	楊宗孝が迷魂陣の偵察を命ぜられる。逃げた長沙国の二人は厳洞賓にあい、胡守信ら追手を迷魂陣に誘い込むよう命ぜられる。厳洞賓が迷魂陣に各種鬼を呼び出す。宗孝は迷魂陣で昏倒するが、楊泰の霊に救出される。	地井あり。
37*4		誤聞回報		(9*3)	帰陣した宗孝の報告で、一同が焦賛の先走りと思い込んだおりに当の焦賛が現われる。かくて迷魂陣に入ったのは焦賛ではなくその長子焦松らしいと分かり、焦賛が救助に向かうことを申し出る。	
37*5		重瞳下山		9*4	宋軍の五将が迷魂陣に閉じ込められていて、その中には父の張蓋もいると師の王敖老祖から知らされた重瞳張鶴拳は、辟悪返魂扇を持って雲夢山から九龍谷に赴く。辟悪返魂扇の効用。張鶴拳が再度登場し、扇を使ってさまざまな鬼を追い払う。焦賛父子・張蓋父子が再会する。	
37*6		椿岩遇友		(9*5)	もと大雷音寺外の銅獅子でいま碧羅山で椿岩の隣に住む九頭禅師が登場する。	
37*7		杖撃天佐		9*5	九頭禅師が蕭天佐の守る羅漢陣の不備を指摘する。九頭禅師は邪神を召し阿羅漢、迷魂長老のさまをさせることを提案する。五郎が杜玉娥・李剪梅らと羅漢陣前で闘う。厳洞賓は羅漢陣に逃げ込む。五郎が蕭天佐と闘いこれを殺す。単身入陣した李剪梅を救うため、玉娥・五郎も陣に入る。	一頁以上の付箋あり。陣の数が少なく道具立ても簡素。
37*8		玉娥破法		(9*6)	李剪梅に追われた厳洞賓が九頭禅師に援けを求める。九頭禅師が鈴を振り呪文を唱えると羅漢が李剪梅を取り囲む。李剪梅は天井から下りてきた雲杓に乗り脱出しようとするが、禅師が鐘を投げるしぐさをすると大鐘が天井から下りてくる。杜玉娥が錘を投げるしぐさをすると天井から大錘が下りてきて大鐘を破壊する。一同はこれを潮に陣から脱出する。	天井あり。
38*1		截兵闘法		(9*7)	逃げる一同を呼延赤金と木桂英が迎え、追手の九頭禅師と闘う。禅師は刀で斬っても火砲で撃っても平気。日暮れをしおに明日の再戦を約す。	
38*2		奸陥忠良		(9*8)	王欽が使嗾し、六郎自ら出陣する。	
38*3		報信請救		9*9	六郎と焦賛が羅漢陣に誘い込まれる。次々に舞い込む急を告げるしらせ。徳昭は鍾仙師の言い置いた言葉に従い五郎を派遣する。また王欽を許さないと誓う。	
38*4		神僧収獅		(9*10)	伏虎禅師が登場し、悟覚聴者の五郎を援け九頭禅師を退散させる。五郎らは遼の諸将を斬り、六郎を救出する。	
38*5		套言得計		(9*11)	八郎が妻の耶律青蓮に宋のために功績を挙げたいと語りかける。厳洞賓が帰ってきて負け戦さを知らせ、次の長蛇万弩陣に主陣の大将二人が足らないと述べる。二人は厳洞賓を欺き、陣を破るには飛虎貔貅軍と火砲軍が必要と聞きだす。蕭后は申し出に従い二人を主将とする。	
38*6		偽戦洩機		(9*12)	八郎と妻の耶律青蓮が杜玉娥・木桂英・楊宗保と陣前で戦うとみせて万弩陣破りの方法を教える。	
38*7		回営調軍		(9*13)	帰陣した宗保が六郎と徳昭に経緯を報告する。徳昭は、攻撃に先立ち、陣前で八郎と青蓮を一騎打ちの相手に指名し、二人を難から逃れさせるよう、宗保と桂英に指示する。	

38*8		驚雷破陣		(9*14)	厳洞賓に怪しまれるが二人は無事に陣を抜け出し、万弩陣は陥ちる。洞賓は土遁で逃げ出す。	
39@						修書中。
40						
41						
42*1		投城避兵		(10*16)	幽州に逃げ込む蕭后。追う宋軍。追手を阻む韓徳讓、出迎える胡杰と張猛。明日の再戦を約したその夜、蕭后は郡馬の降伏提案を拒否する。	
42*2		背城決戦		(10*17),(10*18)	幽州城での決戦。遼軍の将の大半が戦死。二人の郡馬が身元を明かし、一時撤兵を求める。二人の郡主が母の蕭后に郡馬が四郎と八郎であることを明かし、降伏を勧める。蕭后は怒り狂うが後の祭り。やむなく降伏の勧めを受け入れる。徳昭と六郎が総攻撃に移ろうとしているおり、四郎らが城から降伏文書を持って出てきて、翌朝城外で降伏の儀式を執り行うことになる。	(10*17),(10*18)は同韻。
42*3		納款班師		10*19	降伏の儀式。四郎らは太宗に戦勝を知らせるため先行し、郡主二人は母蕭后と別れ、宋軍と行をともにする。より詳しい。「吾主上前者回鑾時、預有恩旨、道、若得遠人向化投降、免其献俘闕下。朕正当興滅国、継絶世、放還臨潢、仍自鎮守、逓年只取土貢、則辺境自安矣」とある。九集本は「聖上回鑾時、預有恩旨、只要遼邦誠服向化、帰附天朝、朕当興滅国、継絶世、放還臨潢、免其献俘闕下、安守辺境、仍自鎮守、逓年只取土貢、則辺境自安矣」となっている。	康熙帝の外モンゴル親征を意識したものか。
42*4		郊労封功		(10*20)	太宗の命により、張斉賢・呂蒙正らが都の城外で凱旋軍を出迎える。太宗は功績に応じて徳昭・六郎らに褒賞を与える。四郎らも罪を許され加恩に預かる。王素真は六郎との婚儀を命ぜられる。自白しない王欽の取調べに四郎が任ぜられる。	
42*5		問罪誅奸		(10*21)	取調べに頑として口を割らない王欽も四郎により腕の賀驢児の刺青の存在を暴かれ、甕に入れられ火に焚かれる拷問の末自供する。無常鬼らが登場し、処刑されたら森羅殿での裁きが待っている旨を述べる。王欽の処刑。王欽の魂は差鬼らに連れ去られる。王欽の屍骸は布にくるみ油をかけ、火をかけて松明とされる。	地井なし。
42*6		賜宴団円		(10*22)	宮中での宴が終わり、徳昭が南清宮に帰るのを見送った後、佘氏により、六郎と王素真、宗保と木桂英、宗顕と李剪梅の婚儀が執り行われる。	
42*7		森羅円案		10*23	北嶽大帝が登場し、劉継文が遼に投じ兄の仇を晴らそうとしたことに始まった劫運が終わったので、玉旨により酆都に行き、十殿王と結審すると述べる。大帝は閻王とともに王欽・潘仁美らを再度裁き、その後復命のために戻る。	禄台なし。
42*8		永慶昇平		10*24	諸神が玉皇上帝とともに現われ、上帝にむかい太平の世を寿ぐ。その実この劇を見る皇帝に太平の世であることをアピールする。最後は諸神が「民安国正天心順、慶叶簫韶雅頌申、天上人間祝聖君」と歌って終わる。	寿台、禄台、仙楼なし。南北合套。

@　修書中　　*斜字体*: 征戦南唐故事
太字: 相違が比較的大

別表二の二　昇平署旧蔵残鈔本『鉄旗陣』と九集本『鉄旗陣』・『昭代簫韶』の関係

昇平署旧蔵残鈔本『鉄旗陣』			九集本『鉄旗陣』	『昭代簫韶』
段*齣	中国国家図書館・首都図書館蔵昇平署旧蔵残鈔本		上海図書館	中国国家図書館他
	原型鉄旗陣	原鉄旗陣	古本戯曲叢刊九集	古本戯曲叢刊九集
x*1	*助兵*		(11*2?)	
x*2	*竟艶*			
x*3	*仮充*			
x*4	*招軍*			
x*5	*献媚*			
x*6	*就謀*			
x*7	*奏朝*			
x*8	*操舶*			
2*1	*密謀*			
2*2	*教楽*			
2*3	*夜叙*			
2*4	*遣媳*			
2*5	*報敵*			
2*6	*大戦*			
2(23)*8		誑困六郎		4*11
12*1		蕭后打囲		(1*5)
12*2		*敗績回営*	14*2	
12*3		*鼓武狻猊*	14*3	
12*4		*蕩除叉陣*	(14*4)	
12*5		*喬粧賺関*	(14*5)	
12*6		*殉節墜崖*	14*6	
12*7		勅議辺章		(1*8)
12*8		*水操戦艘*		
13*1		*祭江開艦*		
13*2		*漁隠問津*		
13*3		*截江交兵*		
13*4		*互相刼寨*		
13*5		奏朝窃柄		(1*9)
13*6		*火攻水寨*		
13*7		*江桑伏箭*		
13*8		大駕親征		(1*10)
14*1		*攻奪采石*	15*2	
14*2		議取東易		1*12
14*3		擒将拠州		1*13
14*4		*喬扮投充*	(15*3)	
14*5		*比武就謀*	(15*4)	
14*6		*彰討宣化*	15*5	
14*7		*克敵安邦*	15*6,(15*7)	
14*8		*受降奏捷*	(15*8)	

昇平署旧蔵残鈔本『鉄旗陣』		九集本『鉄旗陣』	『昭代簫韶』
段*齣	中国国家図書館・首都図書館	上海図書館	中国国家図書館他
	原鉄旗陣	古本戯曲叢刊九集	古本戯曲叢刊九集
16*1	招婿発令		(2*1)
16*2	奸党設謀		1*21
16*3	**褒爵慰労**		1*22,(1*23)
16*4	奏保良将		(1*23)
16*5	暗襲雁門		(1*24)
16*6	計陥呼延		(2*2)
16*7	**八郎遭擒**		(2*2)
16*8	計行反間		(2*3)
17*1	詐言絶糧		(2*4)
17*2	威赫遼邦		(2*3)
17*3	踹奪宋営		(2*5)
17*4	設伏排兵		(2*6)
17*5	懐讐逼戦		(2*7)
17*6	激将遭囲		(2*8)
17*7	救父闖囲		(2*9)
17*8	求兵遭害		2*10
20*1	焦賛刼糧		3*4
20*2	**松下思親**		(2*23)
20*3	旅中写状		3*3
20*4	**空営取勝**		(2*24),(3*1)
20*5	鏖兵敗没		(3*2)
20*6	見母訴因		(3*5)
20*7	撃鼓伸冤		(3*6)
20*8	逼滚釘板		(3*7)
21*1	密諭賞辺		3*8
21*2	屈斬黄龍		3*9、3*10
21*3	賺印杻械		3*11
21*4	顧親枉法		3*12,(3*13)
21*5	韓連納賄		3*14
21*6	鞭斃貪婪		3*15
21*7	大審奸党		(3*16)
21*8	新帥督戦		
22*1	森羅発票		3*17
22*2	廷諍除奸		(3*18)
22*3	欽斬四悪		(3*19)
22*4	授職防辺		3*20
22*5	奸撥残兵		3*21
22*6	争刼巨奸		3*22
22*7	循環彰報		3*23
22*8	**九鬼対叉**		(3*24)
23*1	連擒義釈		4*1,4*2
23*2	智服孟良		(4*3)
23*3	乗隙進讒		4*4
23*4	畳遇顛危		4*5
23*5	冒呈赤鯉		4*6,(4*7)
23*6	智賺驌驦		4*8,4*9
26*1	仁君恩宥		(5*4),(5*5)
26*2	強梁奪艶		5*6
26*3	鬧董家林		(5*7)
26*4	首陽郡馬		5*8
26*5	羣英失散		5*9
26*6	解詩腸死		5*10
26*7	捨身全義		5*11
26*8	森羅彰報		(4*24)
28*1	鄧州訪賛		5*20
28*2	汝州召景		5*21
28*3	活捉祖忠		5*22
28*4	会合勤王		5*23
28*5	神箭褫魄		(5*24)
28*6	天威駭遼		
28*7	連取三城		(6*1)
28*8	大破遼兵		(6*2)
29*1	招兵借兵		(6*3),6*4
29*2	椿仙掲榜		6*7
29*3	王懐憶盟		6*6
29*4	神授兵書		6*5
29*5	椿岩佈陣		6*8
29*6	得図観陣		6*9

斜字体: 征戦南唐故事
下線の齣: 首都図書館蔵
太字の齣: 相違が比較的大

29*7	探陣遇親		6*10
29*8	神術勝妖		6*11
33*1	白雲護陣		7*13
33*2	推譲発令		7*14
33*3	宗顕陥陣		(7*15)
33*4	香童代獲		7*16
33*5	剪梅救夫		7*17
33*6	誤聞救子		7*18
33*7	派兵接援		7*19
33*8	際会成功		(7*20)
37*1	犒労敷恩		(8*23)
37*2	行軍遇敵		(9*1)
37*3	迷魂大陣		9*2
37*4	誤聞回報		(9*3)
37*5	重瞳下山		9*4
37*6	椿岩遇友		(9*5)
37*7	杖撃天佐		9*5
37*8	玉娥破法		(9*6)
38*1	截兵闘法		(9*7)
38*2	奸陥忠良		(9*8)
38*3	報信請救		9*9
38*4	神僧収獅		(9*10)
38*5	套言得計		(9*11)
38*6	偽戦洩機		(9*12)
38*7	回営調軍		(9*13)
38*8	驚雷破陣		(9*14)
42*1	投城避兵		(10*16)
42*2	背城決戦		(10*17),(10*18)
42*3	納款班師		10*19
42*4	郊労封功		(10*20)
42*5	問罪誅奸		(10*21)
42*6	賜宴団円		(10*22)
42*7	森羅円案		10*23
42*8	永慶昇平		10*24

別表三 『昭代簫韶』各種文本対照表

故宮本各種題綱					故宮本乱弾本戯 下線は首都図書館にも所蔵。		国図本・首図本 鉄旗陣串関		古本戯曲叢刊第九集				故宮本崑弋本戯曲譜 崑弋本戯總本・崑弋本戯散齣總本		
通算番号	第一G 本*齣	第二G 段*齣	第三G *齣	齣名	本*齣	齣名 $は題綱あり。	段*齣	齣名	本*齣	齣名	福台禄天井	仙楼地井	南府 本*齣	昇平署 本*齣	附記（下線は散齣總本）
									1*1	万国春台同兆庶	福禄	天地			
									1*2	三霄帝座拱星辰	福禄仙				
1		1*1		太宗朝議	1*1$ 1	集鵷班議防辺釁 太宗朝議			1*3	集鵷班議防辺釁			1*1	1*1	1*1太宗朝議(徳昭・弋)。cf.道光二十三年六月十四日、下同。
					1*2$	聯鴈序訓守家箴			1*4	聯鴈序訓守家箴			1*2	1*2	
2		1*2		簫(蕭)后打囲	1*3$ 2	囲合龍沙馳万騎 蕭后打囲	(12*1)	蕭后打囲	1*5	囲合龍沙馳万騎			1*3	1*3	
3		1*3	*3	遼将寇辺	1*4$ 3	檄伝鴈塞寇三辺 遼将寇辺			1*6	檄伝鴈塞寇三辺			1*4	1*4	
									1*7	潘楊警隙於斯始			1*5	1*5	
4		1*4	*4	奏請代(伐)遼	4	奏請伐遼	(12*7)	勅議辺章	1*8	遼宋干貨自此興			1*6	1*6	1*4奏請伐遼(徳昭・弋)。
							(13*5)	奏朝窃柄	1*9	報私讐権臣窃柄			1*7	1*7	
5		1*5	*5	太宗親征	2*5(1)	太宗親征	(13*8)	大駕親征	1*10	申天討御駕親征			1*8	1*8	1*5太宗親征(徳昭・昆)。
6		1*6	*6	威赫遼邦	2*6(2)	威赫遼邦			1*11	無敵威名驚北塞			1*9	1*9	西皮倒板、乱弾各二曲新増(但し乱弾一曲は慶餘と差し替え)。
7		1*7		議取東易	2*7(3)	議取東易	14*2	議取東易	1*12	如神妙算賛中枢			1*10	1*10	1*7議取東易(徳昭・弋)。九集本1*12と1*13による。
8		1*8		擒将拠州	2*8(4)	擒将拠州	14*3	擒将拠州	1*13	振先声龍驤虎賁			1*11		1*13擒将拠州(徳昭・昆)。九集本1*13と1*10による。
9	3*1	2*1		蕭邦赴援	3*1	蕭邦赴援			1*14	合勁旅鯨奮豨張			1*12		
10	3*2	2*2		徳昭遣将	3*2	徳昭遣将			1*15	宋帥嫉功縦強敵			1*13		
11	3*3	2*2(3)		仁美妬功	3*3	仁美妬功									
12	3*4	2*4		解囲反困	3*4	解囲反困			1*16	遼師奮勇困堅城			1*14		
13	4*1	2*5		父子勤王	4*1	父子勤王			1*17	臣解君憂退虎旅			1*15	1*15	
14	4*2	2*6		君臣定計	4*2	君臣定計			1*18	子承父志仮龍袍			1*16	1*16	
15	4*3	2*7		喬粧議和	4*3	喬粧議和			1*19	好弟兄全忠死義			1*17	1*17	
16	4*4	2*8		分兵追襲	4*4	分兵追襲			1*20	賢父子扈駕回鑾			1*18	1*18	
							16*2	奸党設謀	1*21	明薦暗謀図雪怨			1*19	1*19	
							16*3	褒爵慰労	1*22	褒封進秩為酬労			1*20	1*20	
							(16*3)		1*23	挙監軍護持良将			1*21	1*21	
							(16*4)	奏保良将							
							(16*5)	暗襲雁門	1*24	駆健卒襲取雄関			1*22	1*22	
17	5*1	3*1		蕭后招壻	5*1	蕭后招壻	(16*1)	招婿発令	2*1	慕少年絲蘿誤結				2*1	

18	5*2	3*2		計陥呼延	5*2	計陥呼延	(16*6)	計陥呼延	2*2	救老将兄弟連擒				2*2		
							(16*7)	八郎遭擒								
							(16*8)	計行反間	2*3	面真同謀傾勇将				2*3		
							(17*2)	威赫遼邦								
							(17*1)	詐言絶糧	2*4	糧仮絶計撤監軍				2*4		
19	5*3	3*3		冒希刧営	5*3	冒希刧営	(17*3)	踹奪宋営								
20	5*4	3*4		踹奪宋営	5*4	踹奪宋営			2*5	劫宋塞欣得王強				2*5		
21	6*1	3*5		蕭后設伏	6*1	蕭后設伏	(17*4)	設伏排兵	2*6	投遼邦先図継業				2*6		
							(17*5)	懐讐逼戦	2*7	難挽回黒心元帥				2*7		
22	6*2	3*6		激将遭困	6*2	激将遭困	(17*6)	激将遭囲	2*8	苦逼迫赤胆先鋒				2*8		
23	6*3	3*7		求救闖囲	6*3	求救闖囲	(17*7)	救父闖囲	2*9	単鎗闖寨思全孝				2*9		
24	6*4	3*8		箭射七郎	6*4	箭射七郎	17*8	求兵遭害	2*10	万箭攅身先尽忠#		天		2*10		
25	7*1	4*1		義感群心	7*1	義感群心			2*11	慕義孤軍甘捨命				2*11		
26	7*2	4*2		懐浦抒忠	7*2	懐浦抒忠			2*12	抒忠烈将願捐躯				2*12		
27	7*3	4*3		分兵突谷	7*3	分兵突谷			2*13	突絶谷将死兵傷			2*13	2*13		
28	7*4			楊景得信	7*4	楊景得信			2*14	求救軍父囲弟歿			2*14	2*14		
29	8*1	4*4(5)		撞碑失忠	8*1	撞碑失忠			2*15	頭触碑欹心未泯#		天	2*15	2*15		
									2*16	屍埋地冷涙難乾#			2*16	2*16		
									2*17	避世兄勇気猶存			2*17	2*17		
									2*18	埋名婿苦情漫述			2*18	2*18		
30	8*2	4*6		埋親中箭	8*2	埋親中箭										
31	8*3	4*7(題誤)		王強献計	8*3	王強献計			2*19	献謀刺臂期傾宋			2*19	2*19		
									2*20	聞機回軍急援幽			2*20	2*20		
									2*21	詳夢境憂疑莫釈			2*21	2*21		
									2*22	宿郵亭性命幾戕			2*22	2*22		
							(20*2)	松下思親	2*23	楊景渡頭遭暗算			2*23	2*23		
32	8*4	4*7(8)		瓊娥会戦	8*4	瓊娥会戦	(20*4)	空営取勝	2*24	瓊娥陣上展雄威			2*24	2*24		
33	9*1	5*1		瓊娥刧営	9*1	瓊娥刧営	(20*4)		3*1	暗偸営瓊娥計拙			3*1	3*1		
							(20*5)	鏖兵敗没	3*2	明対陣廷譲軍残			3*2	3*2		
34	9*2	5*2		代写冤状	9*2	代写冤状	20*3	旅中写状	3*3	巧写状借剣殺人			3*3	3*3		
							(20*6)	見母訴因	3*5	見慈母言随涙下			3*5	3*5		
35	9*3	5*3		撃鼓伸冤	9*3	撃鼓伸冤	(20*7)	撃鼓伸冤	3*6	撃冤鼓声竭心摧			3*6	3*6		
36	9*4	5*4		逼滚釘板	9*4	逼滚釘板	(20*8)	逼滚釘板	3*7	滚釘難洗孤児血			3*7	3*7		
37	10*1	5*5		密諭賞辺	10*1	密諭賞辺	21*1	密諭賞辺	3*8	持節先労聖主心			3*8	3*8		
38	10*2	5*6		仁美失機	10*2	仁美失機	21*2	屈斬黄龍	3*9	不量力失機遷怒			3*9	3*9		
39	10*3	5*7		屈斬黄龍	10*3	屈斬黄龍	21*2		3*10	懐私怨斬将示威			3*10	3*10		
40	10*4	5*8		賺印扭解	10*4	賺印扭解	21*3	賺印杻械	3*11	賺兵符奸邪拘執			3*11	3*11		
41	11*1	6*1		廷譲敗逃	11*1	廷譲敗逃										
42	11*2	6*2		潘虎求救	11*2	潘虎求救	21*4	顧親枉法	3*12	売国法狼狽寅縁			3*12	3*12		
43	11*3	6*3		顧親枉法	11*3	顧親枉法	(21*4)		3*13	仮虎威不分鱸鯉			3*13	3*13		
44	11*4	6*4		韓連納賄	11*4	韓連納賄	21*5	韓連納賄	3*14	懼獅吼強納金珠			3*14	3*14		
45	12*1	6*5		鞭斃貪婪	12*1	鞭斃貪婪	21*6	鞭斃貪婪	3*15	挙金鞭義除貪酷			3*15	3*15		
46	12*2	6*6		大審奸党	12*2	大審奸党	(21*7)	大審奸党	3*16	定鉄案罪著奸雄			3*16	3*16		

47	12*3	6*7		群英悦服	12*3	群英悦服	21*8	新帥督戦								
48	12*4	6*8		焦賛刧糧	12*4	焦賛刧糧	20*1	焦賛刧糧	3*4	莽劫糧因風放火			3*4	3*4		
49	13*1	7*1		森羅発票	13*1	森羅発票	22*1	森羅発票	3*17	冥主拘魂聚差鬼			3*17	3*17		
50	13*2	7*2		廷諍除奸	13*2	廷諍除奸	(22*2)	廷諍除奸	3*18	賢王執法諫明君			3*18	3*18		
51	13*3	7*3		欽斬四悪	13*3	欽斬四悪	(22*3)	欽斬四悪	3*19	四悪雖除継二佞		地	3*19	3*19	欽斬四悪。冒頭に大きな相違。	
52	13*4	7*4		楊景授職	13*4	楊景授職	22*4	授職防辺	3*20	一官暫授守三関			3*20	3*20	景収岳勝。別に教場比武とする一本あり。	
53	14*1	7*5		奸撥残兵	14*1	奸撥残兵	22*5	奸撥残兵	3*21	残兵聚虎豹潜蔵			3*21	3*21		
54	14*2	7*6(刧)		争利仁美	14*2	争刧仁美	22*6	争刧巨奸	3*22	義旅伸鴟鴞並獲			3*22	3*22	争刧仁美。箭攢潘虎と一体化、削除あり。	
55	14*3	7*7		箭攢潘虎	14*3	箭攢潘虎	22*7	循環彰報	3*23	山寨復讐開勁弩	禄仙	地	3*23	3*23		
56	14*4	7*8		九鬼対叉	15*4(1)	九鬼対叉	(22*8)	九鬼対叉	3*24	泉台捉鬼擲鋼叉		地	3*24	3*24		
57	15*1	*1	*1	一擒孟良	16*1	一擒孟良	23*1	連擒義釈	4*1	射馬初擒雖被縛			4*1	4*1		
58	15*2	*2	*2	二擒再釈	16*2	二擒再釈	23*1		4*2	墜坑再獲未輸心			4*2	4*2		
59	15*3	8*3	*3	三擒伏良	16*3	三擒伏良	(23*2)	智服孟良	4*3	擒虎将義結金蘭			4*3	4*3		
60	17(15)*4	8*4	*4	王強譖景	17*1	王強譖景	23*3	乗隙進讒	4*4	失龍駒奸施讒譖			4*4	4*4		
61	17(15)*5	8*5(無名)	*5	嘉山結盟	17*2	嘉山結盟	23*4	畳遇顛危	4*5	連鴈心同帰虎帳#			4*5	4*5		
62	18*1	8*6	*6	冒名進魚	18*1	冒名進魚	23*5	冒呈赤鯉	4*6	献魚胆壮探龍潭			4*6	4*6		
63	18*2	8*7	*7	剖露真情	18*2	剖露真情	(23*5)		4*7	識名将順夫成績			4*7	4*7		
64	18*3	8*8	*8	施薬病馬	18*3	施薬病馬	23*6	智賺驢驕	4*8	薬良驥背母行権			4*8	4*8		
65	18*4	8*9	*9	智賺驢驕	18*4	智賺驢驕	23*6		4*9	賺来騏驥排兄難			4*9	4*9		
66	18*5	8*10	*10	中途截救	18*5	中途截救			4*10	逐退熊羆解弟危			4*10	4*10		
67	19*1	9*1		誑困六郎	19*1	誑困六郎	(2*8)→23*8	誑困六郎	4*11	能料敵終堕詭謀			4*11	4*11		
68	19*2	9*2		孟良突囲	19*2	孟良突囲			4*12	敢突囲始称忠勇#			4*12	4*12		
69	19*3	9*3(無名)		截援困城	19*3	截援困城			4*13	勁旅囲一籌莫展			4*13	4*13		
									4*14	禅心定五戒難開			4*14	4*14		
70	20*1	9*4		盗千里風	20*1	盗千里風			4*16	盗追風南宮縦火			4*16	4*16		
71	20*2	9*5(無名)		換万里雲	20*2	換万里雲			4*17	巧易名駒馳万里			4*17	4*17		
72	20*3	9*6		連解双囲	20*3	連解双囲			4*18	迅飛禅杖解重囲			4*18	4*18		
73	21*1	10*1(題誤)		北岳勘奸	21*1	北岳勘奸			4*15	勘悪鬼北嶽施刑			4*15	4*15		
74	21*2	10*2		罵奸起釁	21*2	罵奸起釁			4*19	舌下風雷褫賊魂			4*19	4*19		
									4*20	眼前褒貶快人心			4*20	4*20		
75	21*3	10*3(無名)		奏試驢驕	21*3	奏試驢驕			4*21	試驢驕衝途計険	仙		4*21	4*21		
76	21(22)*1	10*4(無名)		計傾楊府	22*1	計傾楊府			4*22	傾樑棟掃穴謀深			4*22	4*22		
77	21(22)*2	10*5(無名)		拆天波楼	22*2	拆天波楼			4*23	天波楼無端被拆			4*23	4*23		
78	21(22)*3	10*6(無名)		森羅彰報	22*3	森羅彰報	(26*8)	森羅彰報	4*24	森羅殿有案奚逃			4*24	4*24		
79	23*1	11*1		私下三関	23*1	私下三関			5*1	離寨難違慈母命			5*1	5*1		
80	23*2	11*2		私行事洩	23*2	私行事洩			5*2	還京恰堕佞臣謀			5*2	5*2		
81	23*3	11*3(無名)		誅奸洩憤	23*3	誅奸洩憤			5*3	金吾府魚腸洩憤			5*3	5*3		
82	23*4	11*4(無名)		貽禍被拿	23*4	貽禍被拿										
83	24*1	11*5(無名)		法場余生	24*1	法場余生	(26*1)	仁君恩宥	5*4	雲陽市虎口余生			5*4	5*4	設計救賢。	
84	24*2	11*6		仁君恩宥	24*2	仁君恩宥	(26*1)	仁君恩宥	5*5	聖主憐才肆赦宥			5*5	5*5		

85	24*3	11*7(無名)		強梁奪艶	24*3	強梁奪艶	26*2	強梁奪艶	5*6	頑民漁色逞強梁			5*6	5*6	
86	24*4	11*8(無名)		鬧董家林	24*4	鬧董家林	(26*3)	鬧董家林	5*7	奮雄心揮刀誅賊			5*7	5*7	
87	25*1	12*1		計建降台	25*1	計建降台									
88	25*2	12*2(無名)		首楊郡馬	25*2	首楊郡馬	26*4	首陽郡馬	5*8	施毒計易字傾賢			5*8	5*8	不臣陷主2。別に群英被困2とする一本あり。
89	25*3	12*3(無名)		群英失散	25*3	群英失散	26*5	羣英失散	5*9	献私箚喪恥忘廉			5*9	5*9	
90	25*4	12*4		解詩賜死	25*4	解詩賜死	26*6	解詩賜死	5*10	解反詩奇冤極枉			5*10	5*10	
91	26*1			賢王嘆景	26*1	賢王嘆景	26*7	捨身全義	5*11	重義軽身甘入地			5*11	5*11	
		12*5		捨身全義											
92	26*2	12*6(無名)		金堦覆旨	26*2	金堦覆旨(前半のみ)			5*12	帰朝函首巧瞞天			5*12	5*12	
									5*13	計退三城傾宋社			5*13	5*13	不臣陷主1。別に群英被困1とする一本あり。
									5*14	書捜一紙証奸謀			5*14	5*14	
							27*		5*15	恨粗心書帰賊手			5*15	5*15	
									5*16	遭悪計刑及親身			5*16	5*16	
93	27*1	12*7(無名)		暗護鑾輿	27*1	暗護鑾輿			5*17	陳諫不従遥扈蹕			5*17	5*17	
94	27*2	12*8(無名)		受降生変	27*2	受降生変			5*18	受降有変急回鑾			5*18	5*18	
95	28*1	13*1		兵困魏府	28*1	兵困魏府			5*19	強食言遼人肆志			5*19	5*19	
96	28*2	13*2		鄧州訪贇	28*2	鄧州訪贇	28*1	鄧州訪贇	5*20	図報国侠士同心			5*20	5*20	
97	28*3	13*3(無名)		汝州召景	28*3	汝州召景	28*2	汝州召景	5*21	救国患重効馳駆			5*21	5*21	
98	29*1	13*4(無名)		活捉祖忠	29*1	活捉祖忠	28*3	活捉祖忠	5*22	捉奸魂明彰報応		地	5*22	5*22	
99	29*3(2)	13*5		会合勤王	29*2	会合勤王	28*4	会合勤王	5*23	旌旗壁墨群雄会			5*23	5*23	
100	29*3	13*6(無名)		天威赫遼	29*3	天威赫遼	(28*5)	神箭褫魄	5*24	龍虎風雲大武昭			5*24	5*24	
							28*6	天威駭遼							
101	(30)*1	14*1		大破遼兵	30*1	大破遼兵	(28*7)	連取三城	6*1	奮雄威三城連克				6*1	大破遼兵。大破遼兵一出。乱弾本。二本現存、相違あり。
							(28*8)	大破遼兵	6*2	摧勁敵万騎斉奔				6*2	
							(29*1)	招賢借兵	6*3	逢勇将難図後挙				6*3	
							29*1		6*4	借強兵思復前讎				6*4	
							29*4	神授兵書	6*5	一函宝冊由天賜				6*5	
102	(30)*3	14*3		五国応援	30*3	五国応援	29*3	王懐憶盟	6*6	五国雄兵匝地陳				6*6	椿岩掲榜。椿岩掲榜三出。乱弾本。別に一本。
103	(30)*2	14*2	*1	椿岩掲榜	30*2	椿岩掲榜	29*2	椿岩掲榜	6*7	榜始懸妖仙応召				6*7	椿岩掲榜。椿岩掲榜二出。乱弾本。別に一本。
			*2	派兵佈陣			29*5	椿岩佈陣	6*8	陣初佈番帥排兵				6*8	
104	31*1	14*4(瑞)	*3	得図探陣	31*1	得図探陣	29*6	得図観陣	6*9	示図有意驕讎国				6*9	得図探陣。乱弾本。
105	31*2	14*5(無名)	*4	二探天門	31*2	二探天門	29*7	探陣遇親	6*10	探陣無心遇至親				6*10	二探天門。得図探陣二出。乱弾本。
106	31(32)*1	14*6	*5	玉娥闘法	32*1	玉娥闘法	29*8	神術勝妖	6*11	併勝負陣前決戦				6*11	玉娥闘法。玉娥闘法三出。乱弾本。
107	33*1	15*1	*6	素真報信	33*1	素真報信			6*12	通消息月下喬装				6*12	素真報信。乱弾本。
108	33*2	15*2	*7	三探天門	33*2	三探天門			6*13	陣図全驚心駭目				6*13	三探天門。素真報二出。乱弾本。
109	33*3	15*3	*8	任仙済景	33*3	任仙済景			6*14	仙馭降起死回生		地		6*14	任仙済景(削除)。素真報三出。乱弾本。
110	34*1	15*4	*9	桂英擒保	34*1	桂英擒保			6*15	仗神術英雄被縛				6*15	

111	35*1	15*5(木)	*10(木)	穆寨招親	35*1	木寨招親			6*16	結良縁老嫗主婚				6*16	木寨招親(二本)。一に「光緒五年正月廿七日」とある。
112	35*2	15*6	*11	焚寨賺降	35*2	焚寨賺降			6*17	絶帰送孟良縦火			6*17	6*17	
113	36*1	15*7	*12	轅門斬子	36*1	轅門斬子			6*18	違厳令宗保忤親			6*18	6*18	
114	36*2	15*8	*13	桂英闖帳	36*2	桂英闖帳			6*19	奮雄威救夫闖帳			6*19	6*19	
115	37*1		*14	剪梅下山	37*1	剪梅下山			6*20	乗雲馭招壻下山			6*20	6*20	
116	37*2		*15	神鋒耀武	37*2	神鋒耀武			6*21	地現九環耀神武		地	6*21	6*21	
117	37*3		*16	宗顕訂姻	37*3	宗顕訂姻			6*22	仙円双璧訂良縁			6*22	6*22	
118	37*4		*17	収取神鋒	37*4	収取神鋒			6*23	宝器順時帰幼主		地	6*23	6*23	
119	38*1		*18	鐘離輔宋	38*1	鐘離輔宋			6*24	天心消劫降真仙		天	6*24	6*24	
120	38*2		*19	祭纛興師	38*2	祭纛興師			7*1	建大纛奮起雄師				7*1	
121	39*1		*20	破金鎖陣	39*1	破金鎖陣	39*1	無題(故宮本)	7*2	挙神刀劈開金鎖				7*2	
					40?*1	攝九環鋒			7*3	九環被攝因貪績				7*3	
									7*4	二将争功互逞雄				7*4	
									7*5	椿樹精仮幻木刀				7*5	
									7*6	紅顔女巧逢黒煞				7*6	
									7*7	重入北営心益壮				7*7	
									7*8	先尋南将智猶深				7*8	
									7*9	恩愛重夫唱婦随				7*9	
									7*10	夢寐酣帳空刀失				7*10	
									7*11	仮豈混真終受戮				7*11	
									7*12	邪難勝正総成虚				7*12	
							33*1	白雲護陣	7*13	邀狐意合揚氛猛			7*13	7*13	
							33*2	推譲発令	7*14	舐犢情深出令難			7*14	7*14	
							(33*3)	宗顕陥陣	7*15	小将抒忠甘尽命			7*15	7*15	
							33*4	香童代獲	7*16	香童慕色自焼身		天	7*16	7*16	
							33*5	剪梅救夫	7*17	欲解夫危空闖陣		天	7*17	7*17	
							33*6	誤聞救子	7*18	驚聞子厄急衝囲			7*18	7*18	
							33*7	派兵接援	7*19	発援兵令如火急			7*19	7*19	
							(33*8)	際会成功	7*20	破悪陣魔似氷消			7*20	7*20	
									7*21	幻世相仙姥円姻			7*21	7*21	
									7*22	駕妖雲邪魔攝鏡	禄	天	7*22	7*22	
									7*23	夢境迷離偶会合	仙		7*23	7*23	
									7*24	鏡輝明朗大団円	仙	天	7*24	7*24	
									8*1	小豪傑鬪武聯盟			8*1	8*1	
									8*2	妖道人書符作法			8*2	8*2	
									8*3	将帥分符選勁卒			8*3	8*3	
									8*4	神祇奉勅息洪濤	禄仙		8*4	8*4	
									8*5	電雷奮迅撃妖狐		天		8*5	
									8*6	父女忠誠助大宋				8*6	
									8*7	石怪猖狂空作孽				8*7	

									8*8	山霊擁護漫衝営	禄仙	天地		8*8	
									8*9	揚鞭撃鏡陰陽散			8*9	8*9	
									8*10	激帥投淵罪孽深			8*10	8*10	
									8*11	一計潜通傾両陣			8*11	8*11	
									8*12	群妖奮起困全軍			8*12	8*12	
									8*13	王素真故国欣投				8*13	
									8*14	胡守信荒山冤陥				8*14	
									8*15	真仙施法迷方醒	禄	天		8*15	
									8*16	郡主憐姑心向夫				8*16	
									8*17	感神霊陰陽兄妹			8*17	8*17	
									8*18	誇武芸魯莽夫妻			8*18	8*18	
									8*19	曳兵棄甲貽群誚			8*19	8*19	
									8*20	瀝胆披肝服衆心			8*20	8*20	
									8*21	神火猛空放葫蘆			8*21	8*21	
									8*22	孝心堅欣連喬梓		天	8*22	8*22	
								(37*1)	8*23	恩波浹洽酬群虎			8*23	8*23	
									8*24	神火飛騰煉九龍	仙	天	8*24	8*24	
								(37*2)	9*1	誠帰宋寨遇群番			9*1	9*1	
								37*3	9*2	猛探遼営逢衆鬼		天地	9*2	9*2	
								(37*4)	9*3	兵連敗子陥父傾			9*3	9*3	
								37*5	9*4	扇一揮魂消魄散		天	9*4	9*4	
								(37*6)	9*5	鉄杖掄開誅猛将				9*5	
								37*7							
								(37*8)	9*6	金鐘劈破援嬌妹		天地		9*6	
								(38*1)	9*7	九頭獅神通大展				9*7	
								(38*2)	9*8	三関帥忠忿難舒				9*8	
								38*3	9*9	陥主将截回部将				9*9	
								(38*4)	9*10	降神僧攝伏妖僧				9*10	
								(38*5)	9*11	護陣真求破陣計				9*11	
								(38*6)	9*12	洩機仮捏失機形				9*12	
								(38*7)	9*13	調貔貅千軍斉奮				9*13	
								(38*8)	9*14	用鎗砲万弩空埋				9*14	
									9*15	椿岩敗北讒言進				9*15	
									9*16	耶律図南天象違				9*16	
									9*17	書抛一計害三賢			9*17	9*17	
									9*18	陣列三軍囲一帥			9*18	9*18	
									9*19	逆賊険心伝偽檄			9*19	9*19	
									9*20	仁君明鑑得真情			9*20	9*20	
									9*21	仙玉成妖人遁跡				9*21	
									9*22	陣瓦解女帥全忠				9*22	
									9*23	天門開遼軍遊戯	禄			9*23	

									9*24	仙侶会衆陣消除				9*24	
									10*1	宋将斉心出営塁			10*1	10*1	
									10*2	天神奉勅返星垣	禄		10*2	10*2	
									10*3	箭駆邪灯消軍乱			10*3	10*3	
									10*4	仙佑正陣破妖除	仙	天	10*4	10*4	
									10*5	群主同殷孝母心			10*5	10*5	
									10*6	元戎誤中緩兵計			10*6	10*6	九集の双鸂鶒がない。
									10*7	設陥阱奸心愈毒			10*7	10*7	
									10*8	留将相法駕先還			10*8	10*8	
									10*9	演連環明排組練			10*9	10*9	
									10*10	懐狡詐突起戈矛			10*10	10*10	九集の双鸂鶒がここに移っている。
									10*11	聞信移兵添虎翼			10*11	10*11	
									10*12	伝書助米縛鵰翎			10*12	10*12	
									10*13	忠誠奮肝胆包身			10*13	10*13	
									10*14	罪孽盈銀鐺錮体			10*14	10*14	
									10*15	士気委靡馬脱轡			10*15	10*15	
122		末*1		投幽避兵			(42*1)	投城避兵	10*16	人心渙散鳥投宿			10*16	10*16	
123		末*2		背城決戦			(42*2)	背城決戦	10*17	志扶遼双忠尽節			10*17	10*17	
124		末*3		勧母帰降			(42*2)		10*18	心向宋二女勧降			10*18	10*18	
125		末*4		納款班師			42*3	納款班師	10*19	懐徳畏威欣振旅			10*19	10*19	
126		末*5		奏凱回朝			(42*4)	郊労封功	10*20	酬勲錫爵沐推恩			10*20	10*20	
127		末*6		封功錫爵											
128		末*7		問罪誅奸			(42*5)	問罪誅奸	10*21	用厳刑招詳伏法		地	10*21	10*21	
129		末*8		賜宴団円			(42*6)	賜宴団円	10*22	開綺宴奉勅完姻			10*22	10*22	
							42*7	森羅円案	10*23	帝鑑無私著冊籍	禄		10*23	10*23	
							42*8	永慶昇平	10*24	天心有感佑昇平	福禄仙		10*24	10*24	

別表四　九集本『鉄旗陣』・『昭代簫韶』と昇平署旧蔵残鈔本『鉄旗陣』対照表

九集本『鉄旗陣』A			昇平署旧蔵残鈔本『鉄旗陣』B			
	段*齣	齣名	段*齣	齣名	曲牌数A(共通)B	附記
1	11*2?	*楊景閲兵*	(x*1)	*助兵*	8(7)7	Aは点絳唇が多い。他の曲牌は同じだが、曲詞は全く異なる。
2	14*2	*敗績回営*	12*2	*敗績回営*	5(5)5	
3	14*3	*鼓武貔貅*	12*3	*鼓武貔貅*	3(3)3	
4	14*4	*蕩除叉陣*	(12*4)	*蕩除叉陣*	6(5)5	(記載漏れ)
5	14*5	*喬粧賺関*	(12*5)	*喬粧賺関*	3(2)7	AはBの村裏迓鼓、端正好、玉芙蓉、元和令、倘秀才を省き水底魚に替える。
6	14*6	*捐軀殉節*	12*6	*殉節墜崖*	6(6)6	
7	15*2		14*1	*攻奪采石*	7(7)7	
8	15*3		(14*4)	*喬扮投充*	6(6)8	Bは好事近、撲燈蛾が多い。
9	15*4		(14*5)	*比武就謀*	5(4)6	Aは尾声、Bは東原楽、煞尾が多い。
10	15*5		14*6	*彰討宣化*	3(3)3	
11	15*6		14*7	*克敵安邦*	1(1)1	
12	15*7		(14*7)		7(7)11	AはBの二転貨郎児、五転貨郎児、七転貨郎児、八転貨郎児を省く。
13	15*8		(14*8)	*受降奏捷*	4(4)6	Bは荷葉鋪水面、孝順歌が多い。

『昭代簫韶』A			昇平署旧蔵残鈔本『鉄旗陣』B			
	本*齣	齣名	段*齣	齣名	曲牌数A(共通)B	附記
1	1*5	囲合龍沙馳万騎	(12*1)	蕭后打囲	1(1)2	両者に共通の点絳唇がAは異常に長く、Bのすべての曲詞を含む。
2	1*8	遼宋干貨自此興	(12*7)	勅議辺章	3(2)3	Aの燈月交輝がBでは前腔(点絳唇)。共通の滴溜子は曲詞が異なる。
3	1*9	報私讐権臣窃柄	(13*5)	奏朝窃柄	4(4)5	Bは駐馬聽が多い。駐雲飛二首は曲詞がかなり異なる。
4	1*10	申天討御駕親征	(13*8)	大駕親征	4(4)5	Bは駄環著が多い。
5	1*12	如神妙算賛中枢	14*2	議取東易	5(5)5	
6	1*13	振先声龍驤虎賁	14*3	擒将拠州	10(10)10	
7	1*21	明薦暗謀図雪怨	16*2	奸党設謀	6(6)6	
8	1*22	褒封進秩為酬労	16*3	褒爵慰労	4(4)4	
9	1*23	挙監軍護持良将	(16*3)		0(0)5	Bは酔中天、金盞児、酔雁児、後庭花、尾声。
			(16*4)	奏保良将	5(5)6	Bは園林好が多い。
10	1*24	駆健卒襲取雄関	(16*5)	暗襲雁門	7(7)8	Bは拗芝蕪が多い。
11	2*1	慕少年絲蘿誤結	(16*1)	招婿発令	4(4)5	Bは怨回紇が多い。
12	2*2	救老将兄弟連擒	(16*6)	計陥呼延	5(5)6	Bは引が多い。
			(16*7)	八郎遭擒	1(0)4	AはBの一江風、前腔、紅衲襖、香柳娘を金腰児に替える。
			(16*8)	計行反間	3(3)4	Bは舞霓戯千秋が多い。
13	2*3	面真同謀傾勇将	(17*2)	威赫遼邦	0(0)7	Bは絳都春序、画眉序、前腔、三段子、前腔、出隊子、滴溜子。
14	2*4	糧仮絶計撤監軍	(17*1)	詐言絶糧	3(3)5	Bは二犯江児水、前腔(鎖南枝)が多い。
15	2*5	劫宋塞欣得王強	(17*3)	踹奪宋営	5(4)6	Aは撲蝴蝶が、Bは鮑老催、前腔(滴溜子)が多い。
16	2*6	投遼邦先図継業	(17*4)	設伏排兵	7(7)8	Bは点絳唇が多い。
17	2*7	難挽回黒心元帥	(17*5)	懐讐逼戦	4(3)4	Aは紫蘇丸が、Bは引が多い。
18	2*8	苦逼迫赤胆先鋒	(17*6)	激将遭囲	6(6)8	Bは普天紅娘子、芙蓉楽が多い。曲詞が異なるものあり。
19	2*9	単鎗闖寨思全孝	(17*7)	救父闖囲	4(4)5	Bは前腔(駐雲飛その二)が多い。
20	2*10	万箭攢身先尽忠	17*8	求兵遭害	11(10)11	Aの南慶余とBの尾声の曲詞は同じ。Aは南北の区別を記す。(朱墨本独特)
21	2*23	楊景渡頭遭暗算	(20*2)	松下思親	3(0)3	Aは小桃紅、下山虎、余音、Bは榴花好、漁銀燈、三燈並照。
22	2*24	瓊娥陣上展雄威	(20*4)	空営取勝	6(0)0	Aは端正好、滾繡毬、叨叨令、脱布衫、小梁州、尾声。
23	3*1	暗偸営瓊娥計拙	(20*4)		6(4)5	Aは似娘児、青天歌、Bは漿水令が多い。桂枝香、鶯鴨滿渡船、赤馬児、風入松は共通。
24	3*2	明対陣廷讓軍残	(20*5)	鏖兵敗没	6(6)7	Bは出隊子が多い。
25	3*3	巧写状借剣殺人	20*3	旅中写状	3(3)3	
26	3*4	莽劫糧因風放火	20*1	焦賛刼糧	9(9)9	
27	3*5	見慈母言随涙下	(20*6)	見母訴因	5(5)6	Bは五韻美が多い。

28	3*6	撃冤鼓声竭心摧	(20*7)	撃鼓伸冤	4(4)5	Bは五更転が多い。
29	3*7	滾釘難洗孤児血	(20*8)	逼滾釘板	5(3)4	Aは簇御林、黄鶯児が、Bは高陽台が多い。
30	3*8	持節先労聖主心	21*1	密諭賞辺	3(3)3	
31	3*9	不量力失機遷怒	21*2	屈斬黄龍	3(3)3	
32	3*10	懐私怨斬将示威	21*2		1(1)1	無理矢理分けた。
33	3*11	賺兵符奸邪拘執	21*3	賺印杻械	3(3)3	
34	3*12	売国法狼狽寅縁	21*4	顧親枉法	2(2)2	
35	3*13	仮虎威不分鰱鯉	(21*4)		3(3)4	Bは五供養が多い。
36	3*14	懼獅吼強納金珠	21*5	韓連納賄	3(3)3	
37	3*15	挙金鞭義除貪酷	21*6	鞭斃貪婪	3(3)3	
38	3*16	定鉄案罪著奸雄	(21*7)	大審奸党	7(6)6	Aは点絳唇が多い。
			21*8	新帥督戦		(記載漏れ)
39	3*17	冥主拘魂聚差鬼	22*1	森羅発票	7(7)7	
40	3*18	賢王執法諫明君	(22*2)	廷諍除奸	4(4)6	Bは金蕉葉、小桃紅が多い。
41	3*19	四悪雖除継二佞	(22*3)	欽斬四悪	5(4)5	比目魚と水底魚児は同内容。Aは駐馬児、Bは引が多い。
42	3*20	一官暫授守三関	22*4	授職防辺	4(4)4	
43	3*21	残兵聚虎豹潜蔵	22*5	奸撥残兵	3(3)3	
44	3*22	義旅伸鵠鴉並獲	22*6	争刧巨奸	9(9)9	
45	3*23	山寨復讐開勁弩	22*7	循環彰報	4(4)4	
46	3*24	泉台捉鬼擲鋼叉	(22*8)	九鬼対叉	6(6)12	Bは山坡羊、前口(山坡羊)、香讃、水讃、前調(歎孤調)、香讃が多い。
47	4*1	射馬初擒雖被縛	23*1	連擒義釈	4(4)4	
48	4*2	墜坑再獲未輸心	23*1		2(2)2	
49	4*3	擒虎将義結金蘭	(23*2)	智服孟良	5(5)6	Bは道和が多い。
50	4*4	失龍駒奸施讒譖	23*3	乗隙進讒	4(4)4	曲詞が異なる
51	4*5	連鴈心同帰虎帳	23*4	畳遇顛危	7(7)7	曲詞が異なる
52	4*6	献魚胆壮探龍潭	23*5		4(4)4	曲詞が異なる。
53	4*7	識名将順夫成績	(23*5)	冒呈赤鯉	5(4)4	Aは桂皂傍粧台が多い。桂皂傍粧台の曲詞は九集本前齣桂花襲袍香の後半に似る。
54	4*8	薬良驥背母行権	23*6	智賺驌驦	2(2)2	B脱葉。
55	4*9	賺来麒麟排兄難	23*6		3(1)1	B下闕。
56	4*11	能料敵終堕詭謀	23*8(2*8)	誆困六郎	6(1)1	B下闕。
57	4*24	森羅殿有案奚逃	(26*8)	森羅彰報	4(4)6	Bは水底魚、前腔(水底魚)が多い。
58	5*4	雲陽市虎口余生	(26*1)	仁君恩宥	12(0)1	Bは紅衲襖のみ。Aが南北合套で新造したか。
59	5*5	聖主憐才肆赦宥	(26*1)		2(2)6	Bは鮑老催、滴溜子、滴滴金、双声子が多い。
60	5*6	頑民漁色逞強梁	26*2	強梁奪艶	8(8)8	
61	5*7	奮雄心揮刀誅賊	(26*3)	鬧董家林	9(9)13	Bは字字双、絃索調、字字双、玉嬌枝が多い。一部曲詞が異なる。
62	5*8	施毒計易字傾賢	26*4	首陽郡馬	4(4)4	
63	5*9	献私箚喪恥忘廉	26*5	羣英失散	5(5)5	
64	5*10	解反詩奇冤極枉	26*6	解詩賜死	5(5)5	
65	5*11	重義軽身甘入地	26*7	捨身全義	11(11)11	
66	5*20	図報国侠士同心	28*1	鄧州訪贇	6(6)6	
67	5*21	救国患重効馳駆	28*2	汝州召景	6(6)6	
68	5*22	捉奸魂明彰報応	28*3	活捉祖忠	7(7)7	
69	5*23	旌旗壁塁群雄会	28*4	会合勤王	7(7)7	
70	5*24	龍虎風雲大武昭	(28*5)	神箭褫魄	11(8)9	Aは満庭芳、迎仙客、一煞が多く、Bは十二月が多い。
			28*6	天威駭遼		満庭芳、耍孩児、迎仙客、快活三、上小樓、一煞。
71	6*1	奮雄威三城連克	(28*7)	連取三城	7(6)6	Aは慶余が多い。
72	6*2	摧勁敵万騎斉奔	(28*8)	大破遼兵	9(9)10	Bは収江南が多い。
73	6*3	逢勇将難図後挙	(29*1)	招賢借兵	5(5)6	Bは金殿喜重重が多い。
74	6*4	借強兵思復前讎	29*1		2(2)2	
75	6*5	一函宝冊由天賜	29*4	神授兵書	6(6)6	29*5と乱丁。
76	6*6	五国雄兵匝地陳	29*3	王懐憶盟	7(7)7	
77	6*7	榜始懸妖仙応召	29*2	椿仙掲榜	5(5)5	
78	6*8	陣初佈番帥排兵	29*5	椿岩佈陣	9(9)9	29*4と乱丁。

79	6*9	示図有意驕讎国	29*6	得図観陣	4(4)4	
80	6*10	探陣無心遇至親	29*7	探陣遇親	6(6)6	
81	6*11	併勝負陣前決戦	29*8	神術勝妖	6(6)6	
82	7*13	邀狐意合揚氛猛	33*1	白雲護陣	3(3)3	
83	7*14	舐犢情深出令難	33*2	推譲発令	3(3)3	
84	7*15	小将抒忠甘尽命	(33*3)	宗顕陥陣	6(6)7	Bは又一体(八声甘州)が多い。
85	7*16	香童慕色自焼身	33*4	香童代獲	5(5)5	
86	7*17	欲解夫危空闖陣	33*5	剪梅救夫	6(6)6	曲詞がかなり異なる。
87	7*18	驚聞子厄急衝囲	33*6	誤聞救子	4(4)4	曲詞がかなり異なる。
88	7*19	発援兵令如火急	33*7	派兵接援	5(5)5	曲詞がかなり異なる。
89	7*20	破悪陣魔似氷消	(33*8)	際会成功	6(6)10	曲詞も配列順も異なる。Aは風入松、急三鎗、風入松、僥僥令、玉胞肚、喜無窮煞の順、Bは風入松、急三鎗、風入松、急三鎗、風入松、急三鎗、風入松、僥僥令、玉胞肚、喜無窮の順。
90	8*23	恩波浹洽酬群虎	(37*1)	犒労敷恩	4(3)4	Aは慶余が多く、Bは引が多い。
91	9*1	誠帰宋寨遇群番	(37*2)	行軍遇敵	4(4)5	Bは玉芙蓉が多い。
92	9*2	猛探遼営逢衆鬼	37*3	迷魂大陣	6(6)6	滾繍毬の曲詞はかなり異なる。
93	9*3	兵連敗子陥父傾	(37*4)	誤聞回報	5(5)6	Bは供養入江水が多く、江水撥棹の曲詞が異なる。
94	9*4	扇一揮魂消魄散	37*5	重瞳下山	6(6)6	
95	9*5	鉄杖掄開誅猛将	(37*6) 37*7	椿岩遇友 杖撃天佐	0(0)4 5(5)5	錦纏道、朱奴児、普天楽、玉芙蓉。
96	9*6	金鐘劈破援嬌妹	(37*8)	玉娥破法	5(4)6	Bは鵲踏枝が多い。Aの煞尾とB尾声は同じもの。
97	9*7	九頭獅神通大展	(38*1)	截兵闘法	4(4)5	Bは朱奴挿芙蓉が多い。
98	9*8	三関帥忠忿難舒	(38*2)	奸陥忠良	3(3)5	Bは風入松、惜奴嬌序が多い。
99	9*9	陥主将截回部将	38*3	報信請救	10(10)10	
100	9*10	降神僧攝伏妖僧	(38*4)	神僧収獅	3(3)4	Bは前腔(竹馬児)が多い。
101	9*11	護陣真求破陣計	(38*5)	套言得計	4(4)5	Bは酔羅袍が多い。
102	9*12	洩機仮捏失機形	(38*6)	偽戦洩機	6(6)7	Bは喜秋風が多い。
103	9*13	調貔貅千軍斉奮	(38*7)	回営調軍	6(4)5	Aは臘梅花が多く、Aの天下楽とBの引は同じ。
104	9*14	用鎗砲万弩空埋	(38*8)	驚雷破陣	5(5)6	Bは榴子雁声が多い。
105	10*16	人心渙散鳥投宿	(42*1)	投城避兵	3(3)5	Bは番竹馬、前腔(番竹馬)が多い。
106	10*17	志扶遼双忠尽節	(42*2)	背城決戦	10(9)9	Aは堯民歌が多い。
107	10*18	心向宋二女勧降	(42*2)		6(5)5	Aは伴読書が多い。
108	10*19	懐徳畏威欣振旅	42*3	納欵班師	2(2)2	
109	10*20	酬勲錫爵沐推恩	(42*4)	郊労封功	6(5)5	Aは大和仏が多く、BはAの山花子を前腔(山花子)とする。
110	10*21	用厳刑招詳伏法	(42*5)	問罪誅奸	7(5)5	Aは好姐姐、有結果煞が多い。
111	10*22	開綺宴奉勅完姻	(42*6)	賜宴団円	5(5)6	Bは引が多い。
112	10*23	帝鑑無私著冊籍	42*7	森羅円案	7(7)7	
113	10*24	天心有感佑昇平	42*8	永慶昇平	10(10)10	

斜字体:　征戦南唐故事

別表五 『鉄旗陣』各種文本対照表

	故宮珍本叢刊										古本戯曲叢刊第九集		故宮珍本叢刊 乱弾本戯		中国国家図書館蔵 清宮昇平署檔案集成		
	各種題綱					齣名	各種串頭		曲譜		総本		総本		串関		
	第一G		第二G				第ＩG	第ⅡG									
番号	本*齣		段*齣				本*齣	段*齣	段*齣	附記	段*齣	齣名	本*齣	齣名	段*齣	原型	原
1	1*1	1*1	1*1	1*1	1*1				弋		1*1	太乙遣仙	1*1	太乙遣仙			
2	1*2	1*2	1*2	1*2	1*2				1*2	引ナシ	1*2	議伐南唐	1*2	議伐南唐			
3	1*3	1*3	1*3	1*3	1*3				1*3		1*3	打擂招尤	1*3	打擂招尤			
4	1*4	1*4	1*4	1*4	1*4				弋		1*4	投監認罪	1*4	投監認罪			
5		2*1	1*5	1*5	1*5				1*5		1*5	父子自縛	2*1	父子自縛			
6	2*1	2*2	1*6	1*6	1*6				弋		1*6	伏闕請誅	2*2	伏闕請誅			
7		2*3	1*7	1*7	1*7				1*7		1*7	西市待刑	2*3	西市待刑			
8		2*4	1*8	1*8	1*8				1*8	四辺静ナシ	1*8	法場計救	2*4	法場計救			
9	3*1	3*1	2*1	2*1		金殿明冪			2*1		2*1	金殿明冪	3*1	金殿明冪			
10	3*2	3*2	2*2	2*2		虬龍耀武			2*2		2*2	虬龍耀武	3*2	虬龍耀武			
11	3*3	3*3	2*3	2*3		雲漢強親		2*3	2*3		2*3	玉娥勧父	3*3	雲漢強親			
12		3*4	2*4	2*4		赤金奪寨		2*4	2*4		2*4	赤金奪寨	3*4	赤金奪寨			
13	4*1	4}*1	2*5	2*5		遇師授鎗			弋		2*5	従師授鎗	4*1	従師授鎗			
14	4*2	4*2	2*6	2*6		難邦保希			弋		2*6	難邦保希	4*2	難邦保希			
15	4*3	4*3	2*7	2*7		開弓読篆			2*7	烏衣啼ナシ	2*7	開弓読篆	4*3	開弓読篆			
16	4*4	4*4	2*8	2*8		鎗挑虬龍		2*8	2*8		2*8	鎗挑虬龍	4*4	鎗挑虬龍			
17		5*1	3*1	2*4	3*1						3*1	授命興師	5*1	授命興師			
18		5*2	3*2	3*2	3*2						3*2	南唐驚報	5*2	南唐驚報			
19	5*	5*3	3*3	3*3	3*3			3*3			3*3	碭山大戦	5*3	碭山大戦			
20		5*4	3*4	3*4	3*4			3*4			3*4	茂林伏箭	5*4	茂林伏箭			
21		5*5	3*5	3*5	3*5			3*5			3*5	箭攢楊希	5*5	箭攢楊希			
22		5*6	3*6	3*6	3*6			3*6					5*6	報信襲関			
23		6*1	4*1	4*1				4*1			4*1	両抛礟石	6*1	両抛礟石			
24	6*	6*2	4*2	4*2							4*2	詐降中計	6*2	詐降中計			
25		6*3	4*3	4*3				4*3			4*3	三攩銅錘	6*3	三攩銅鎚			
26		6*4	4*4	4*4				4*4			4*4	経径許婚	6*4	截径許婚			
27	7*1	7*1	4*5	4*5							4*5	潜奔投荘	7*1	潜奔投荘			

28	7*2	7*2	4*6	4*6							4*6	仙縁奇配	7*2	仙縁奇配			
29	7*3	7*3	4*7	4*7							4*7	束装帰寨	7*3	束装帰寨			
30	7*4	7*4	4*8	4*8				4*8			4*8	軍変破関	7*4	軍変破関			
31	8*1	8*1	5*1	5*1			8*1	5*1			5*1	扼関佈陣	8*1	扼関佈陣			
32	8*2	8*2	5*2	5*2							5*2	継業探陣	8*2	継業探陣			
33	8*3	8*3	5*3	5*3							5*3	遣子借兵	8*3	遣子借兵			
34	8*4	8*4	5*4	5*4				5*4			5*4	楊順被擒	8*4	楊順被擒			
35	8*5	8*5	5*5	5*5							5*5	遣英解順	8*5	遣英解順			
36	8*6	8*6	5*6	5*6			8*6	5*6			5*6	探信誤聞	8*6	探信誤聞			
37	9*1	9*1	6*1	6*1				6*1			6*1	馳章請援	9*1	馳章請援			
38	9*2	9*2	6*2	6*2							6*2	議救東床	9*2	議救東床			
39	9*3	9*3	6*3	6*3							6*3	激諄侠士	9*3	激諄侠士			
40	10*1	10*1	6*4	6*4				6*4			6*4	巧刧囚車	10*1	巧刧囚車			
41	10*2	10*2	6*5	6*5							6*5	嫉債争雄	10*2	嫉債争雄			
42	10*3	10*3	6*6	6*6				6*6			6*6	武場奪帥	10*3	武場奪帥			
43	11*1	11*1	7*1	7*1		楊景借兵		7*1			7*1	楊景借兵	11*1	楊景借兵			
44	11*2	11*2	7*2	7*2		柴王立擂					7*2	柴王立擂	11*2	柴王立擂			
45	11*3	11*3	7*3	7*3		較武招親		7*3			7*3	較武招親	11*3	較武招親			
46	11*4	11*4	7*4	7*4		督師除暴		7*4			7*4	督師除暴	11*4	督師除暴			
47	12*1	12*1	7*5	7*5		継業中矢		7*5			7*5	継業中矢	12*1	継業中矢			
48	12*2	12*2	7*6	7*6		秦氏設謀					7*6	秦氏設謀	12*2	秦氏設謀			
49	12*3	12*3	7*7	7*7		両営仝計		7*7			7*7	両営仝計	12*3	両営仝計			
50	12*4	12*4	7*8	7*8		冲囲大戦		7*8			7*8	冲囲大戦	12*4	冲囲大戦			
51		13*1	8*1	8*1		遇敵断鎗		8*1			8*1	遇敵断鎗	13*1	遇敵断鎗			
52	13*	13*2	8*2	8*2		賢良巧値		8*2			8*2	賢良巧値	13*2	賢良巧値			
53		13*3	8*3	8*3		翁媳奇逢		8*3			8*3	翁媳奇逢	13*3	翁媳奇逢			
54		13*4	8*4	8*4		追希投寨					8*4	追希投寨	13*4	追希投寨			
55	14*1	13*5	8*5	8*5		羞避回山					8*5	羞避回山	14*1	羞避回山			
56	14*2	14*1	8*6	8*6		悞聞馳援	14*1	8*6			8*6	悞聞馳援	14*2	悞聞馳援			
57		14*2	8*7	8*7		呼延督戦		8*7			8*7	呼延督戦	14*3	呼延督戦			
58	14*3?	14*3	8*8	8*8		応魁中標		8*8			8*8	応魁中標	14*4	応魁中標			
59	15*1	15*1	9*1	9*1		継業捜山					9*1	継業捜山	15*1	継業捜山			
60	15*2	15*2	9*2	9*2		議接楊帥					9*2	議接楊帥	15*2	議接楊帥			

61	15*3	15*3	9*3	9*3		唐師避鋭		9*3			9*3	唐師避鋭	15*3	唐師避鋭			
62	15*4	15*4	9*4	9*4		五河対陣		9*4	9*4		9*4	五河対陣	15*4	五河対陣			
63		16*1	9*5	9*5		約戦擅兵			9*5		9*5	約戦擅兵	16*1	約戦擅兵			
64		16*2	9*6	9*6		収取金鎗		9*6	9*6		9*6	収取金鎗	16*2	収取金鎗			
65		16*3	10*1	10*1		赤金被擒		10*1			10*1	赤金被擒	16*3	赤金被擒			
66			10*2	10*2		玉娥奮義		10*2			10*2	玉娥奮義					
67			10*3	10*3		救妹罹羅		10*3			10*3	救妹罹羅					
68			10*4	10*4		憐妻求救					10*4	憐妻求救					
69			10*5	10*5		義忿提兵		10*5			10*5	義忿提兵					
70			10*6	10*6		援妻自陥		10*6			10*6	援妻自陥					
															X(11)*1	助兵	
															X(11)*2	竟艶	
															X(11)*3	仮充	
															X(11)*4	招軍	
															X(11)*5	献媚	
															X(11)*6	就謀	
															X(11)*7	奏朝	
															X(11)*8	操舶	
															2(12)*1	密謀	
															2(12)*2	教楽	
															2(12)*3	夜叙	
															2(12)*4	遣媳	
															2(12)*5	報敵	
															2(12)*6	大戦	
71			11*1	11*1							11*1	柴王接旨					
72			11*2	11*2				11*2			11*2	楊景閲兵					
73			11*3	11*3							11*3	呼延命将					
74			11*4	11*4				11*4			11*4	君保冲宮					
75			11*5	11*5							11*5	議兵聞報					
76			11*6	11*6				11*6			11*6	破檻施威					
77			11*7	11*7				11*7			11*7	赴援揮軍					
78			11*8	11*8				11*8			11*8	突囲救弟					
79			12*1	12*1		救弟回営			弋		12*1	救弟回営					

80			12*2	12*2		陳情幾諫			ぞ		12*2	陳情幾諫					
81			12*3	12*3		呼延詐病			ぞ		12*3	呼延詐病					
82			12*4	12*4		継業斬子			12*4		12*4	継業斬子					
83			12*5	12*5		餽釵激将		12*5	12*5		12*5	餽釵激将					
84			12*6	12*6		打陣罹羅	*注1	12*6	12*6		12*6	打陣罹羅					
85			13*1	13*1		玉娥報信					13*1	玉娥報信					
86			13*2	13*2		楊希鑭草					13*2	楊希鑭草					
87			13*3	13*3		点将分兵					13*3	点将分兵					
88			13*4	13*4		攻城趨救		13*4			13*4	攻城趨救					
89			13*5	13*5		倒旗破陣		13*5			13*5	倒旗破陣					
90			13*6	13*6		夫婦全名		13*6			13*6	夫婦全名					
91			14*1	14*1		飛叉大陣		14*1			14*1	飛叉大陣					
92			14*2	14*2		敗績回営		14*2			14*2	敗績回営		12*2		敗績回営	
93			14*3	14*3		鼓武貔貅					14*3	鼓武貔貅		12*3		鼓武皷貅	
94			14*4	14*4		蕩除叉陣		14*4			14*4	蕩除叉陣		12*4		蕩除叉陣	
95			14*5	14*5		喬粧賺関		14*5			14*5	喬粧賺関		(12*5)		喬粧賺関	
96			14*6	14*6		捐躯殉節		14*6			14*6	捐軀殉節		12*6		殉節墜崖	
97			末*1			李豹命将					15*1						
98			末*2			双雄尽忠			6(15)*2		15*2			14*1		攻奪采石	
99			末*3			喬装応募			6(15)*3		15*3			14*4		喬扮投充	
100			末*4			比武就謀			6(15)*4		15*4			14*5		比武就謀	
101			末*5			彰討宣化			ぞ		15*5			14*6		彰討宣化	
102			末*6			致書剖情			ぞ		15*6			14*7		克敵安邦	
103			末*7			計成内応			6(15)*7		15*7			(14*7)			
104			末*8			納疑(款)受降			6(15)*8		15*8			14*8		受降奏捷	

下線のある齣:齣名に相違が存在。

注1:「八本一出」に続く「六出」は「十二段六出」の誤り。